

## 新刑法法理圖說序

予弱冠ノ頃、笈ヲ負フテ東都ニ遊フヤ時、宛モ春色駘蕩、百花爛漫ノ候ナリキ杖ヲ曳テ一日墨堤ノ櫻花ヲ觀ル吾妻橋畔ヲ左折シ行クコト數町ニシテ堤上ニ列ノ櫻樹ニ遭遇セシト雖モ樹木若クシテ且疎ナルニヨリ彩霞變幻ノ趣味、明媚開曠ノ風致ナシ之ニ加フルニ行人絡繹、砂塵面ヲ毆テ觀覽ニ堪ヘス竊ニ墨堤櫻花ノ名、其實ニ過クルヲ歎シ中途、歸路ニ就ント欲シ川ヲ渡リ今戸ニ至リ途次、待乳山ニ登リテ回顧スレハ十里長堤花如雲、櫻花皚然トシテ青波ニ映シ樹下ノ紅裙、水上ノ沙鳥、垂柳疎松ノ間ニ隱見シ風光明媚洵ニ天下ノ絶景ナリ、嗚呼曩ニ花間ヲ逍遙シテ櫻花ノ名所タルヲ疑ヒ今遠ク離レテ忽チ其絶景ヲ賞ス是レ果シテ何ノ爲ナルカ曰、花ヲ觀ル方術如何ヲ異ニスルノミ曩ニハ花ニ近接シ幹根枝葉ヲ始メ一花片蒼ノ色彩香氣ニ

至ルマテ悉ク之ヲ細見セント欲セシヲ以テ却テ花ヲ觀ル能ハス今ハ曠野一望、水陸ノ區別ナク遠見大觀ス於此、滿幅ノ絶景、軒豁呈露、容易ク其眞景ヲ探クルヲ得タルナリ

雖然、是啻々觀櫻ノ方術タルニ止マラス凡ソ宇宙萬般ノ事物ヲ觀察シ又古今東西ノ書籍ヲ研究スル方術、皆ナ之ト其歸趣ヲ一ニス書ヲ讀ミ學ヲ修メントスル者、若シ初ヨリ詳細緻密ニ其理論ヲ究メントスレハ恰モ樹下ニ立テ花ヲ觀ントスル如ク終ニ其眞理ヲ會得スル能ハス反之先ツ其書ノ全體ニ就キ抽象的觀念ヲ養成シ而後、徐ロニ粗ヨリ精ニ進マハ待乳山上、墨堤ノ櫻花ヲ達觀スル趣アリ

近來、法律學研究ノ進歩ニ伴隨シ各學科ニ亘リ各々圖解ノ著述アリ惟フニ圖解ノ要ハ抽象的ノ觀念ヲ養成スルニアリ若シ夫レ理論ノ闡奧ヲ究メ或ハ成文ノ意義ヲ詳說セントスルカ如キハ自ラ他ニ其著書アリ圖解ニ就テ之ヲ

求ム可ラサルナリ予カ本圖說ヲ著ハス亦此趣旨ニ外ナラス讀者若シ法理ノ攻究蘊奧ニ達セス成文ノ解說詳密ニ亘ラサルヲ咎ムルナクンハ幸甚願ミレハ明治四十年春、新刑法ノ裁可公布アルヤ直ニ數種ノ解釋書出テ昨冬實施ニ際シ二十有餘種ノ新著アリ雖然、未タ法理ト成文ヲ對照シ及ヒ理論ト實際ヲ調和シ以テ抽象的ニ刑法法理ヲ解釋スル新刑法圖說アルヲ聽カス是レ玆ニ本書ヲ刊行シ聊カ新刑法著述界ニ於ケル一小缺點ヲ補綴セントスル所以ナリ

明治四十二年二月下浣東都牛込柳街ノ僑居ニ於テ識ス

著 者 撰

## 凡 例

一、本書刊行ノ目的ハ法理ト成文ヲ對照シ理論ト實際ヲ調和シ以テ以テ抽象的ニ刑法法理ヲ會得セシメントスルニアリ

二、刑法法理ノ抽象的觀念ヲ養成スル必要アル者ハ受験法學生ヲ主トス本書著述ニ際シ此點ヲ鑑ミ當代有力ナル學說ハ悉ク之ヲ採取シ以テ受験學生ノ利便ヲ企畫セリ

三、參考書類ノ主要ナルモノ左ノ如シ

- (1) 岡田法學博士、日本刑法論及刑法講義
- (2) 平沼法學博士、日本刑法講義（日本大學講義錄）
- (3) 小崎法學士、日本刑法論、第二版
- (4) 泉二法學士、改正日本刑法論

四、新刑法ノ編纂ハ舊刑法ノ缺點ヲ補修セシモノニ過キサレハ力メテ其修正要旨及其理由ヲ詳悉セント欲シ各編、章、節、ノ始メニハ必ラス之ヲ要録セリ而其材料ハ明治三十九年春以來組織セラレシ刑法調査會ニ於ケル各調査委員ノ意見、及刑法修正案理由書、貴衆兩院ニ於ケル本會及特別

委員會ニ於ケル議事録等ナリ

五、條文中ニ存在スル難解ノ術語（例ハ暴行、脅迫ノ如シ）ニ對シテハ可成簡單ナル括弧ヲ設ケ其解釋ヲ施ス方針ヲ採レリ但一旦或條項ニ於テ説明ヲ施セハ後條ニ於テ再ヒ之ヲ説明スルコトナキニヨリ讀者若シ難解ノ字句ニ遭遇シ而之ニ對スル解説ヲ見出ササレハ同法語ヲ使用スル以前ノ條項ヲ搜索スヘシ

### 新舊新刑法法理圖說目次

#### 緒論

- 第一章 刑法ノ意義及種類……………一
  - (1) 刑法ノ意義(一)(2) 刑法ノ種類(廣義ノ刑法ト狹義ノ刑法)(特別刑法ト一般刑法)(二)
- 第二章 刑法學及刑法學ト刑法トノ關係……………二
- 第三章 刑事政策……………三
  - (1) 犯罪發生防止ニ關スル刑事政策(三)(2) 刑罰實施ニ關スル刑事政策(六)
- 第四章 刑罰權ノ所在及其根據……………八
  - (1) 刑罰權ノ所在(八)(2) 刑罰權ノ根據(九)
- 第五章 刑法ノ淵源……………一二

#### 理論

- (1) 第一期(一二)(2) 第二期(一三)(3) 第三期(一四)
- 第一章 犯罪……………一八
  - 第一節 犯罪ノ定義……………一八
    - (1) 實質的定義(一八)(2) 形式的定義(一八)
  - 第二節 犯罪ハ一種ノ行爲ナリ……………一九
    - (1) 行爲ノ意義(一九)(2) 行爲ノ主體(一九)(3) 行爲ノ要件(二一)(4) 意思實行(二二)(5) 行爲ノ效果(二二)(6) 意思實行ト結果トノ結合(二三)(7) 作爲(二六)(8) 不作爲(三二)
- 第二節 犯罪ハ法律違反ノ行爲ナリ……………三四
  - (1) 違法行爲ノ意義(三五)(2) 禁令命令ハ成文ニ規定スルコトヲ要ス(三五)(3) 禁令命令ノ發生(三五)(4) 禁令命令ノ種類(三六)(5) 禁令命

令ノ消滅(三六)(6)禁令命令ノ效力(三八)  
(7)違法行為ノ種類(四一)(8)違法行為ヲ適法  
ナラシメタル原因(四二)

#### 第四節 犯罪ハ刑罰法上ノ責任

ナ有スル行為ナリ……………四三  
(1)責任能力(四四)(2)責任無能力ノ原因(四  
四)(3)故意(四五)(4)錯誤(四七)(5)過失(四  
九)

#### 第五節 犯罪ハ刑罰ヲ科セラル

ヘキ不法行為ナリ……………四九

#### 第二章 犯罪發生ノ状態

##### 第一節 既遂罪

##### 第二節 未遂罪

##### 第三節 中止犯

##### 第四節 不能犯

(1)意義(五一)(2)種類(五一)(3)如何ナル不能

犯之ヲ處罰スヘキヤ(五二)

#### 第五節 單獨犯及共犯

(1)單獨犯(五三)(2)共犯(五四)

#### 第二章 一罪及數罪

(1)區別ノ標準(五四)(2)一行為及數行為(五  
六)(3)數行為ヲ一罪トナス場合(五七)(4)一  
罪數法ニ觸ルル場合ニ於ケル法規ノ適用  
(五七)

#### 本論

#### 第一編 總則

#### 第一章 法例

(1)意義(六〇)(2)修正要旨(六〇)(3)刑法ノ場  
所ノ効力ノ範圍ニ關スル規定(六一)(4)外國  
ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ニ對スル處罰  
規定(六三)(5)刑法ノ時ニ關スル例外的効  
力(六四)(6)公務員及公務所(六五)(7)他ノ法

令ニ對スル刑法總則ノ效力(六五)

#### 第二章 刑

(1)修正要旨(六六)(2)主刑(七一)(3)附加刑  
(七七)(4)未決拘留日數ノ刑期算入(七九)

#### 第三章 期間ノ計算

(1)修正要旨(七九)(2)計算方法(八〇)

#### 第四章 刑ノ執行猶豫

(1)法制沿革(八一)(2)制定ノ理由(八一)(3)執  
行猶豫期間(八一)(4)刑ノ執行猶豫ノ條件  
(八二)(5)刑ノ執行猶豫取消ノ條件(八二)(6)  
刑ノ執行猶豫ノ效力(八三)(7)刑ノ執行猶豫  
手續(八三)

#### 第五章 假出獄

(1)制定理由(八三)(2)修正要旨(八三)(3)假出  
獄ヲ許ス條件(八四)(4)假出獄ノ手續(八四)  
(5)假出獄ヲ取消スヘキ場合(八五)(6)假出獄  
取消ノ效果(八五)(7)假出場(八六)

#### 第六章 時效

(1)修正要旨(八六)(2)期間(八七)(3)起算點  
(八七)(4)進行停止(八八)(5)中斷(八八)

#### 第七章 犯罪ノ不成立及刑ノ減免

(1)違法條件ノ缺欠ニ基ク場合(九二)(2)故意  
ノ缺欠ニ基ク場合(九四)(3)責任能力ヲ缺ク  
ニ基ク場合(九五)(4)自首減輕(九六)

#### 第八章 未遂罪

(1)修正要旨(九八)(2)未遂罪ノ意義(九八)(3)  
未遂罪ヲ處罰スル場合(九八)

#### 第九章 併合罪

(1)名稱ヲ改メタル理由(九九)(2)併合罪ノ  
處罰方法(制限併科主義、併科主義、吸收主  
義)(一〇〇)(3)併合罪ノ處罰方法ニ關スル  
變例(一〇二)(4)併合罪類似ノ處斷ヲ爲ス場  
合(法律ノ競合、法律上數行為ヲ合シテ一罪  
ト爲ス場合、連續犯)(一〇五)

第十章 累犯……………一〇七

- (1) 名稱改正ノ理由(一〇七)(2) 再犯ヲ以テ論スヘキ場合(一〇八)(3) 加重ノ程度(一〇九)
- (4) 裁判確定後ニ於ケル加重處分(一〇九)

第十一章 共犯……………一一一

- (1) 共同正犯(一一〇)(2) 教唆犯(一一一) 從犯(一一二)(3) 教唆犯從犯ノ成立スヘキ主タル犯罪ノ制限(一一三)(4) 共犯者ニ對スル身分關係ノ影響(一一四)

第十二章 酌量減輕……………一二五

- (1) 酌量減輕ノ意義(一二五)(2) 減輕スヘキ程度(一二五)

第十三章 加減例……………一二六

- (1) 修正要旨(一二六)(2) 法律上ノ減輕(一二七)
- (3) 酌量減輕(一二八)(4) 規定ノ必要(一二八)

第二編 罪……………一二九

第一章 皇室ニ對スル罪……………一二〇

(1) 危害罪(一二〇)(2) 不敬罪(一二〇)

第二章 國事ニ關スル罪……………一二〇

- (1) 特質(一二二)(2) 定義(一二二)(3) 刑罰(一二二)

第三章 外患ニ關スル罪……………一二三

- (1) 特質(一二三)(2) 種類(一二三)

第四章 國交ニ關スル罪……………一二四

- (1) 創設趣旨(一二四)(2) 特質(一二四)(3) 種類(一二五)

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪……………一二六

- (1) 修正要旨(一二六)(2) 種類(一二六)

第六章 逃走ノ罪……………一二七

- (1) 修正要旨(一二七)(2) 種類(一二七)

第七章 犯人贓匿及證據湮滅罪……………一二八

- (1) 犯人贓匿罪(一二八)(2) 證據湮滅罪(一二八)

第八章 騷擾ノ罪……………一二八

(1) 修正要旨(一二九)(2) 種類(一二九)

第九章 放火及失火罪……………一二九

- (1) 修正要旨(一二九)(2) 放火罪(一二九)(3) 自己ノ物ニ對スル放火罪(一三〇)(4) 延燒罪(一三二)(5) 未遂罪(一三一)(6) 豫防犯(一三二)(7) 鎮火妨害罪(一三三)(8) 失火罪(一三三)
- (9) 激發スヘキ物ヲ破裂セシメタル罪(一三三)(10) 瓦斯電氣蒸汽ノ漏出等ニ關スル罪(一三三)

第十章 溢水及水利ニ關スル罪……………一三三

- (1) 修正要旨(一三四)(2) 溢水罪(一三四)(3) 水防妨害罪(一三五)(4) 失水罪(一三五)(5) 水利妨害罪(一三五)

第十一章 往來妨害罪……………一三五

- (1) 修正要旨(一三五)(2) 往來妨害罪(一三六)
- (3) 艦船ノ往來ヲ危險ナラシメタル罪(一三六)
- (4) 汽車電車ニ關スル往來妨害罪(一三六)

(六) (5) 過失ニ關スル往來妨害罪(一三七)

第十二章 住居ヲ侵ス罪……………一三七

- (1) 修正要旨(一三七)(2) 種類(一三七)

第十三章 秘密ヲ侵ス罪……………一三八

- (1) 修正要旨(一三八)(2) 種類(一三八)

第十四章 阿片煙ニ關スル罪……………一三九

- (1) 修正要旨(一三九)(2) 種類(一四〇)

第十五章 飲料水ニ關スル罪……………一四〇

- (1) 修正要旨(一四一)(2) 飲料水ニ關スル罪(一四一)
- (3) 水道ニ由ル飲料水ニ關スル罪(一四一)

第十六章 通貨偽造ノ罪……………一四二

- (1) 修正要旨(一四二)(2) 内國通貨ニ關スル罪(一四三)
- (3) 外國通貨ニ關スル罪(一四三)(4) 偽變造通貨取得ニ關スル罪(一四四)
- (5) 通貨偽變造ノ豫備犯(一四五)

第十七章 文書偽造罪……………一四五

(1)修正要旨(一四五)(2)文書偽造罪(一四六)  
(3)文書變造罪(一四七)(4)虚偽ノ文書(一四九)  
(5)不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪(一四九)  
(6)不正文書行使罪(一五〇)(7)虚偽ノ記載ヲ爲シタル罪(一五〇)

第十八章 有價證券偽造罪……………一五一

(1)修正要旨(一五一)(2)種類(一五一)

第十九章 印章偽造罪……………一五二

(1)修正要旨(一五二)(2)偽造罪(一五二)(3)不正使用罪(一五三)(4)偽造使用罪(一五四)

第二十章 偽證罪……………一五四

(1)修正要旨(一五四)(2)種類(一五五)(3)自首減輕(一五五)

第二十一章 誣告ノ罪……………一五五

(1)修正要旨(一五六)(2)種類(一五六)(3)自首減輕(一五六)

第二十二章 猥褻姦淫重婚ノ罪……………一五六

(1)修正要旨(一五六)(2)猥褻罪(一五七)(3)強姦罪(一五八)(4)姦淫勸誘罪(一五九)(5)姦通罪(一五九)(6)重婚罪(一五九)

第二十三章 賭博及富籤ニ關スル罪……………一五九

(1)修正要旨(一五九)(2)賭博罪(一六〇)(3)富籤ニ關スル罪(一六〇)

第二十四章 禮拜所及墳墓ニ關スル罪……………一六〇

(1)修正要旨(一六一)(2)禮拜ニ關スル罪(一六一)(3)墳墓ニ關スル罪(一六一)(4)不法埋葬罪(一六一)

第二十五章 瀆職罪……………一六二

(1)修正要旨(一六二)(2)職權濫用罪(一六二)(3)逮捕監禁罪(一六二)(4)賄賂ニ關スル罪(一六二)

第二十六章 殺人ノ罪……………一六四

(1)修正要旨(一六四)(2)殺人罪(一六四)(3)自殺ニ關スル罪(一六五)

第二十七章 傷害ノ罪……………一六五

(1)修正要旨(一六五)(2)傷害罪(一六六)(3)傷害致死罪(一六六)(4)勢撥罪(一六六)(5)傷害罪ニ於ケル準共犯(一六七)

第二十八章 過失傷害罪……………一六七

(1)修正要旨(一六七)(2)過失傷害罪(一六七)(3)過失致死罪(一六七)(4)業務上ノ注意ヲ怠リシニ基ク致死傷罪(一六七)

第二十九章 墮胎ノ罪……………一六七

(1)妊婦自身墮胎罪(一六七)(2)囑託又ハ承諾ニ基ク墮胎罪(一六八)(3)墮胎ノ技能ヲ有スル者ノ墮胎罪(一六八)(4)無緣故墮胎罪(一六八)

第三十章 遺棄ノ罪……………一六八

(1)修正要旨(一六九)(2)遺棄罪(一六九)(3)保

護者ノ遺棄罪(一六九)

第三十一章 逮捕及監禁罪……………一六九

(1)逮捕監禁罪(一七〇)(2)尊屬親ニ對スル逮捕監禁罪(一七〇)

第三十二章 脅迫ノ罪……………一七〇

(1)修正要旨(一七〇)(2)脅迫罪(一七〇)(3)脅迫ヲ手段トスル罪(一七一)

第三十三章 略取及誘拐ノ罪……………一七二

(1)修正要旨(一七二)(2)略取誘拐罪(一七二)(3)特殊ノ目的ニ出ツル略取誘拐罪(一七二)(4)國外輸送ノ目的ヲ以テスル略取誘拐罪(一七三)(5)略取誘拐ヲ幫助スル罪(一七三)

第三十四章 名譽ニ對スル罪……………一七三

(1)修正要旨(一七四)(2)種類(一七四)

第三十五章 信用及業務ニ對スル罪……………一七四

(1)修正要旨(一七四)(2)種類(一七五)

第三十六章 竊盜及強盜罪……………一七五

(1)修正要旨(2)竊盜罪(一七六)

第三十七章 詐欺罪及恐喝ノ罪……………一七七

(1)修正要旨(一七七)(2)詐欺罪(一七八)(3)恐喝罪(一七九)

第三十八章 横領ノ罪……………一七九

(1)修正要旨(一七九)(2)種類(一八〇)

第三十九章 贓物ニ關スル罪……………一八〇

(1)修正要旨(一八〇)(2)種類(一八〇)(3)刑ノ免除(一八一)

第四十章 毀棄及隱匿罪……………一八一

(1)修正要旨(一八一)(2)文書毀棄罪(一八一)(3)建造物又ハ艦船毀棄罪(一八二)(4)前二種以外ノ毀棄罪(一八二)

附 款

第一節 全節削除ニ屬セシ舊刑

法ノ規定

一八三

目次終

第二節 新舊條項對照表

一八四

新舊新刑法法理圖說

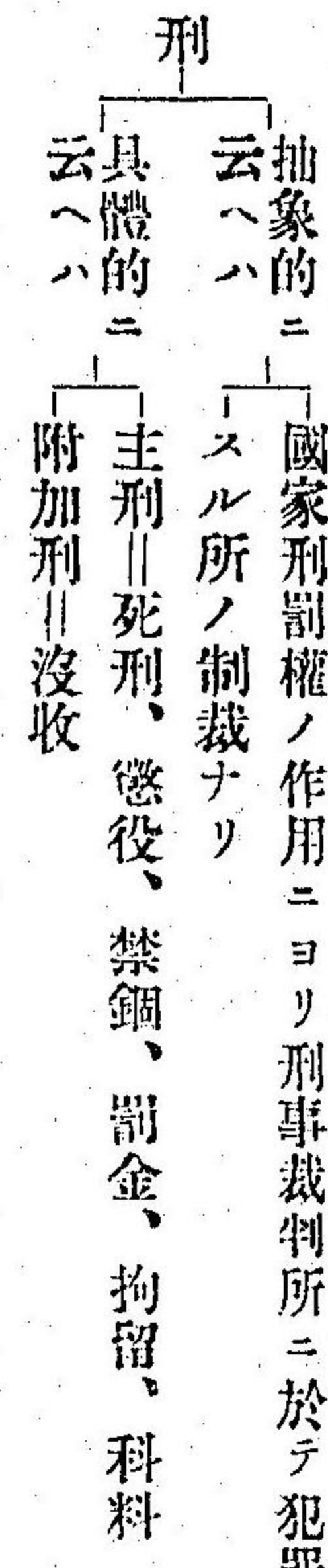
西村勘之助著

緒 論

第一章 刑法ノ意義及種類

刑法トハ罪ト刑トヲ定メタル所ノ法律ナリ

罪 トハ所謂犯罪ニシテ國家ノ生存發達ニ危害ヲ加フル所ノ性質ヲ有スル非行ナルニヨリ刑罰ヲ制裁トシテ其發生ヲ防止セントスル所ノモノナリ(犯罪ハ實質的ニ觀察スルト形式的ニ觀察スルトニヨリテ其定義ヲ異ニス理論第一章第一節參照)



刑法ノ意義



### 刑法ノ種類

法律ヲ以テ制定スル理由  
 法律トハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ天皇カ裁可公布スル所ノ法規ナリ（憲法第五條、第六條、第三十七條）  
 法律ヲ以テ刑法ヲ定ムルハ我憲法第二十三條ニ日本臣民ハ法律ニ據ルニアラスシテ……處罰ヲ受クルコトナシトアリ立憲政體ノ原則ニヨリ日本臣民ニ對シ刑罰ヲ加フルニハ法律ノ形式ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要スレハナリ  
 廣義ノ刑法トハ罪ト刑トヲ定ムル刑罰法規ノ總稱ナリ  
 狹義ノ刑法トハ明治四十年四月法律第四十五號ヲ以テ制定公布セラレタル所ノ現行刑法ナリ  
 一般刑法トハ狹義ノ刑法ナリ之ヲ一般ト云フハ人、場所、時ニ關シ原則トシテ支配力ヲ有スレハナリ  
 特別刑法トハ特別ノ身分アル人又ハ特別ノ場所、時期ニ適用セラレル刑法ニシテ陸軍刑法、海軍刑法、警察犯處罰令、臺灣違警令等ノ如シ

### 第二章 刑法學及刑法學ト刑法トノ關係

### 刑法學

意義 刑法學トハ刑法ヲ理ノ研究ヲ目的トスル法律學ノ一部門ナリ  
 立法的目的 純粹ナル刑法ヲ理ヲ攻究スルモノニシテ犯罪及刑罰ノ原理ヲ闡明シ此原理ヲ應用シテ理想的ノ刑法理論ヲ創成シ以テ各國立法ノ指南ニ供セントスルモノナリ

内容  
 門 スル部 此部門ハ刑事政策學ノ範圍ニ屬スルコト多ク刑事政策學ハ刑罰學及刑罰學ノ蘊奧ヲ考研スルニアラサレハ之ヲ審ニスルコト能ハサルニヨリ本書ニ於テハ唯其大要ヲ説明スルニ止マル

解釋範圍ニ止マル研究部門  
 現行刑法ノ規定ニ就キ罪ト刑トノ原理ヲ應用シ其當否ヲ批評論贊シ併セテ日常發生セル諸般ノ犯罪行為ニ對スル調和ヲ圖ラントスルモノニシテ本書ニ於テ新刑法ヲ圖說スル傍ラ刑法法理ヲ論述セントスル所ハ專ラ此解釋的部門ニ屬スル刑法學ノ範圍ナリ

### 第三章 刑事政策

刑罰ヲシテ其最終唯一ノ目的ヲ貫徹セシメンニハ其内容能ク犯罪ノ發生ヲ鎮壓防止シ得ルモノナラサル可ラス刑罰ノ内容ニシテ能ク犯罪ノ發生ヲ鎮壓防止シ得ルモノタランニハ犯罪及刑罰ヲ定ムルニ當リ犯罪發生ノ原因ヲ研究スルコトヲ要スル 犯罪發生ノ原因ヲ大別スレハ主觀的原因ト客觀的原因トノ二種ニ分ル

### 犯罪發生防止

主觀的原因 種類  
 必然的犯罪ナルモノハ犯人ノ性情（例ハ猛惡怠惰等ノ如シ）カ外界ノ動機（例ハ不景氣ノ如シ）ニ觸レ忽チ犯意ヲ生シ以テ犯罪行為トナルモノナリ  
 職業犯ナルモノハ必然的犯罪ヲ重ヌルコト數回遂ニ犯罪的性癖トナリ此性癖一朝營利ノ方向ニ傾クトキ犯罪（殊ニ盜罪、賭博等ノ如シ）ヲ以

救濟方法

「テ一種ノ營業ト爲スモノナリ  
犯人ノ性情及犯罪の性癖ヲ矯正シ善良ナル人トナラシメンニハ宗教ト  
教育(家庭及學校)ニ依ルヲ以テ足ル  
情狀重キ必然犯及職業犯者ハ所謂先天的犯罪性ヲ有スルモノナルニヨ  
リ終身社會ヨリ分離別居セシメ社會全體ノ安寧秩序ヲ維持スル途ヲ講  
セサル可ラス

意義

犯罪發生當時ニ於ケル外圍ノ狀況及社會的關係殊ニ經濟的關係ニ基ク  
犯罪發生ノ原因ナリ

客觀的原因

此種ノ原因ニ基キテ發生スル犯罪ハ偶發的犯罪ナリ「偶發的犯罪ナル  
モノハ善良ナル性質ヲ有スル者カ外圍ノ動機(殊ニ經濟的關係)ニ餘儀  
ナクサレテ不知不識、發生セシメラレタルモノナリ

救濟手段

普通ノ刑罰ヲ以テ能ク懲戒ノ效ヲ奏スルコトヲ得、其情狀輕キ者ニ至  
テハ宗教教育ノ力ノミヲ以テモ能ク之ヲ改悛セシムルコトヲ得  
比較的輕微ノ犯人ニ對シテハ刑罰實施ノ必要ナク刑ノ執行猶豫及假出  
獄等ノ恩典ヲ與フルヲ以テ尤モ得策トス(第一編第四章及第五章參照)

既發ノ犯罪ニ對シ法定ノ刑罰ヲ適用實施スルニ付キテモ立法上考究スヘキ政策少カラズ  
其主ナルモノヲ左ニ掲ク

(1) 幼年犯ニ對スル處分ハ刑罰ノ執行ニ代フルニ行政官廳ノ特別監督ニ屬スル強制的ノ教

育ヲ以テスルヲ可トス否ラサレハ自暴自棄ノ結果終身不治ノ罪癖ニ感染スル恐アリ  
(2) 罪情輕微ニシテ加害ノ些少ナル犯罪ハ成ルヘク之ヲ處罰セサルヲ可トス「此理論ヲ實  
行スルニ付テモ數主義アリ

主義

- (一) 刑法上ニ法文ヲ設ケ微罪不檢舉ノ趣旨ヲ明ニスルモノ
- (二) 刑事訴訟法上ノ規定ヲ以テ微罪不檢舉ノ趣旨ヲ明カニスルモノ
- (三) 便宜訴追主義||法ニ明文ヲ置カス檢事ノ責任ヲ以テ微罪不檢舉ノ主義ヲ實行  
スルモノ

第一及第二主義ノ如ク法ノ規定上微罪不檢舉ノ主義ヲ明ニスルハ犯罪必罰ノ大原  
則ニ矛盾スル嫌アリ

批評

第三主義(我現行慣例)ハ檢事カ行政上ノ責任ヲ以テ微罪不檢舉ノ主義ヲ實行スル  
モノニシテ最モ適正ナリ若シ夫レ不當ニ不起訴ノ處分ヲ爲シタルカ如キ場合ニハ  
司法行政處分ニ對スル抗告ノ手續ニヨリ利害關係人ヲシテ其長官ニ抗告セシメ以  
テ不當ナル不起訴處分ヲ矯正セシメ得ルニヨリ些少ノ弊害ナシ

(3) 偶發性ノ犯人ニ對スル處分方法ノ主要ナルモノ左ノ如シ

- (一) 犯罪ノ結果ニ相當スル殘酷ナル苦痛ヲ與フル所ノ刑罰ヲ加フル必要ナシ唯刑罰ノ  
威力ヲ示シ之ヲ畏嚇スルヲ以テ足ル
- (二) 罰金科料ノ刑ヲ科スル場合ト雖モ可成換刑處分ヲ避ケ其財産ヲ強制徵收シ以テ財  
産刑ヲ科スル本旨ヲ貫徹セシメサル可ラス

刑罰實施  
ニ關スル  
政策

(三)假出獄及刑ノ執行猶豫ヲ與フルコトヲカメ罪辯感染ノ憂ヲ防クト共ニ自新改悛ノ途ヲ講セサル可ラス

(4)必然的犯人中先天的犯罪ノ性癖ヲ有シ刑罰執行ニ依リ到底改悛ノ見込ナキモノハ社會ノ公安秩序ヲ維持スルタメ絕對的ニ公衆ノ共同生活場裏ヨリ隔離セサル可ラス新刑法カ創設セル無期ノ懲役及無期ノ禁錮ハ稍此目的ヲ達スルニ適スルモ未タ充分ナリト云フコトヲ得ス何トナレハ無期ノ懲役及禁錮ハ比較的情狀重キ犯罪ノミニ科セラルヘキ刑罰ナリ然ルニ絕對的不治ノ罪癖ハ情狀輕微ナル犯罪ニモ之レアリ(例ハ竊盜詐欺取財犯ノ如シ)此等ノ犯罪ハ無期ノ自由刑ヲ科スルコトナキニヨリ前記ノ理論ヲ應用シ此等ノ罪癖ヲ有スル犯人ヲ公衆共同生活場裏ヨリ之ヲ隔離スルコト能ハサルナリ必然的犯罪性ニ傾ク犯人ニ對スル處分ノ主要ナルモノニアリ

(一)比較的嚴峻ナル刑罰ヲ加ヘ之ヲ勵行セサル可ラサルコト勿論ナリト雖モ峻嚴過酷ナルトキハ犯人ヲシテ自暴自棄ノ念ヲ惹起セシメ終ニ罪癖慣熟シ必然的犯罪性ヲ養生セシムルカ若クハ職業的犯罪性ヲ習熟セシムル恐レアリ

(二)獄中ニ於ケル教誨賞與ノ方法ニヨリ及假出獄ヲ許ス等ノ方法ニヨリ改悛自新ノ機會ヲ與フル必要大ナリ

(5)刑ノ執行猶豫ハ法定ノ要件ヲ具備スル場合ニ一定ノ期間刑ノ執行猶豫ヲ與ヘ其期間内再ヒ罪ヲ犯ササルトキハ執行猶豫ニ係ル刑ノ言渡ノ效力ヲ消滅セシメ全然無罪ノ人タラシムル恩惠的制度ニシテ比較的輕微ナル偶發性ノ犯人ニ對シテ最モ效用アリ(本論第一

編第四章參照)

(6)不確定刑期ノ裁判言渡ハ不確定刑期ノ裁判言渡トハ犯罪事實ヲ確認シ之ニ對シ刑ノ宣告ヲ爲スニ當リ概括的ニ定メタル刑ヲ言渡シ(例ハ懲役ニ處スト云フカ如シ)刑ノ執行後ニ於ケル犯人ノ行爲、其他諸種ノ情況(殊ニ改悛ノ有無等)ヲ觀察シ懲戒スルニ充分ナリト思料スル期間ノ經過スルマテ刑ノ執行ヲ繼續スル制度ニシテ其刑期ヲ確定スルニ付テハ大要二種ノ制度アリ

第一種ノ制度ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲシテ執行期間ヲ定メシム

第二種ノ制度ハ刑ヲ執行スル行政官廳ヲシテ執行期間ヲ定メシム

刑ノ執行猶豫トノ關係此制度ハ刑ノ執行猶豫ト表裏ヲ爲シ彼ハ犯罪ノ情狀ニヨリ刑罰ノ責任ヲ減輕シ此ハ受刑後ニ於ケル犯人ノ情狀ニヨリ刑罰ノ責任ヲ加重スルモノニシテ二者相俟ツテ刑罰最終ノ目的ヲ貫徹セシムルモノナリ

法制沿革 此制度ハ最初北米合衆國ノ諸邦ニ於テ刑ノ執行猶豫制度ト共ニ發達シ爾後著々其實效ヲ奏シツツアリ

歐大陸諸國ニ於テモ之ニ著目スル學者宗教家實務家續續輩出シ漸次採用セラレントスル傾向アリ

立法論 我國刑法カ歐米最新ノ刑法法理及刑事政策ヲ採用シタルニ拘ハラズ殊ニ其表裏ヲ爲ス所ノ刑ノ執行猶豫制度ヲ採用シタルニ拘ハラズ不定刑期ノ裁判言渡後制度ヲ採用セサリシハ白璧ノ微瑕トモ稱スヘク吾人千古ノ遺憾ナリ

#### 第四章 刑罰權ノ所在及其根據

### 研究ノ必要

刑法ナル法律ハ社會公共ノ秩序ヲ維持スルタメ國家カ犯罪防止ノ目的ヲ以テ罪ト刑トヲ定メタル刑罰法規ナリ  
既ニ刑罰法規ナル以上ハ斯法ノ研究ニ際シ刑罰權ノ所在及其根據ヲ論究スル必要アルヤ勿論ナリ

### 刑罰權ノ所在

刑罰權ノ所在如何ハ國家的觀念ノ變遷ニ依リ大ニ其趣ヲ異ニス  
近世發達シタル國法学ノ理論ニ依レハ刑罰權ハ國家統治權ノ分派ニシテ國家カ犯罪防止ノ目的ヲ以テ一定ノ罪行ニ刑罰ヲ加ヘンカタメ實現セル主權ノ作用ナリ  
要之、刑罰權ノ所在ハ國家ノ主權者ニシテ其形體ハ統治權ノ分派作用ナリ

研究ノ必要 刑罰權カ國家主權者(我國ニテハ天皇)ニ所屬スルコト前述ノ如シト雖モ何故主權者ハ刑罰權ヲ有スルヤハ特ニ茲ニ之ヲ論究スル必要アリ

刑罰權ノ根據如何ニ付テハ古來學說ノ分歧スル所ニシテ今尙ホ多少學說相違スル所アルニヨリ左ニ主要ナル學說ノ要旨ヲ說明セム

但シ第十八世紀ノ末葉以前希臘全盛時代ニ遡ル迄ノ間ハ刑罰ノ理論幼稚ナリシニハ此等ノ時代ニ於ケル刑罰權ノ根據如何ニ關スル學說ノ如キハ之ヲ研究スルモ現時些少ノ利益ナキニヨリ全然之ヲ省略シ第十九世紀以後ノ學說トシテ稍顯著ナルモノノミ之ヲ左ニ摘録セム

#### 第一 正當防衛主義

要旨 此主義ノ行ハレシヨリ以前ニ於テ唱導セラレシ學說中最モ著名ナルモノニ復讐主義及恐嚇主義アリ此等ノ學說ハ必竟スルニ必要アルニヨリ刑罰ヲ適用スト云フニ歸著ス

正當防衛主義ハ少シク其趣ヲ異ニス曰、人ハ天然ノ正當防衛權ヲ有ス而國家モ亦一ノ法人ナレハ自己ヲ防衛スル人權ナクンハアラス故ニ犯人アリテ國家ノ秩序ヲ害スルトキハ此犯人ヲ處罰スル權アリ云云

批評 (一)天賦ノ正當防衛權ヲ有ス云云ト云フハ天賦人權論ノ遺想ヲ繼承スルモノニシテ近世發達シタル權利思想ニ矛盾ス

(二)國家カ正當防衛權ヲ行フハ果シテ正當ナルヤ否ヤヲ說明セス故ニ若シ防衛權アルカニハ汝ヲ罰スト云フハ其人必ラス反問シテ云ハシテ假令汝自ラ防衛スル權アルモノ予ノ權利ヲ侵害シ予ニ苦痛ヲ與フルハ何故正當ナリヤト此反問ニ答フル能ハサルハ此說ノ一大缺點ナリ

#### 第二 純正主義

要旨 人ハ善惡邪正ヲ識別スル智識ト爲不爲ヲ決定スル自由ヲ有スルニハニ邪惡ヲ去リテ正善ニ就カサル可ラス善ヲ爲セハ善報アリ惡ヲ爲セハ惡報アルハ自然ノ條理ニシテ刑罰ハ即チ惡事ヲ爲シタル者ニ酬ユル惡報ナレハ國家カ惡事ヲ爲シタル者ニ此惡報ヲ加フルハ正當ナリ

### 刑罰權ノ根據

批評 (一)何故ニ國家ハ因果應報ノ條理ニ干涉シテ刑罰ヲ施ス權力アルヤヲ  
説明セサルハ缺點ナリ

(二)此說ニ依レハ如何ナル種類ノ害惡ト雖モ必ラス之ニ應報アルモノ  
ナレハ有形的ノ罪行ハ勿論、吾人ノ心裏ニ伏在スル無形の惡事(思  
想)ヲモ罰セサル可ラサルニ至リ終ニ吾人思想ノ自由ヲ牽制シ人類  
自然ノ發達ヲ障礙スルニ至ルヘシ

第三折衷主義

要旨 佛蘭西ノ碩學ヲルトラン氏カ前記第一說ト第二說トヲ折衷シテ創設セ  
シ學說ニシテ其ノ要旨左ノ如シ

純正主義ハ罪惡ヲ爲セハ必ラス惡報トシテ刑罰ヲ加フル所以ヲ表示スルモ  
何故國家カ其惡報ニ干涉シテ刑罰ヲ加フル權アルヤト云フ事ヲ説明スル能  
ハス(此點ヲ説明シ得ル者ハ正當防衛主義ナリ)正當防衛主義ハ國家カ刑罰  
權ヲ有スル理由ヲ證明シ得ルモ防衛權ヲ行フハ果シテ正當ナルヤ否ヤヲ說  
明スル能ハス(此點ヲ説明シ得ルモノハ純正主義ナリ)故ニ道德ニ背戾スル  
非行アリト雖モ國家ノ秩序ヲ傷害セサルトキハ之ニ刑罰ヲ加フル事ヲ得ス  
何トナレハ惡報ヲ加フル所爲アルモ國家ハ自ラ之ヲ防衛スル必要ナケレハ  
ナリ反之國家ノ秩序ヲ傷害シタル非行アルモ道德ニ背戾シタル所ナケレハ  
刑罰ヲ科スル事ヲ得ス何トナレハ國家カ之ヲ防衛スル必要アルモ惡報ヲ受

クヘキ所爲ナケレハナリ要之背德加害ノ所爲ニ對シテノミ刑罰ヲ科スヘシ  
批評 是レ我舊刑法カ採用セシ主義ナリシモ當時既ニ非難ノ聲アリ就中ベス  
トールノ批評ハ著名ナルモノニシテ其要旨左ノ如シ曰國家カ犯罪行為ヲ防  
衛スル權ト刑罰ヲ加フル權トハ自ラ相異ナルモノニシテ自ラ防衛スル權ア  
ルカタメニ刑罰ヲ施ス權アリト云フハ失當ナリ云云  
以上佛蘭西法系ニ屬スル刑罰權ノ根據ニ關スル學說ハ何レモ多少ノ缺點アリ  
共ニ進歩シタル刑法學上ノ理論トスルニ足ラス於是乎更ニ獨逸法系ノ學說ヲ  
參酌スル必要アリ

第四報酬主義

意義 ベルテル氏一派ノ主張スル所ニシテ其要旨ハ刑ハ犯罪行為ヨリ發生ス  
ル害惡ノ程度ニ應シテ其種類及輕重ヲ定ムヘシ云云

批評 (一)此主義ハ國家カ刑罰權ヲ有スル所以ニ關シ少シモ説明スル所ナシ  
(二)此主義ニヨレハ刑法中、再犯加重、宥恕減輕等ノ規定ヲ設クル理  
由ヲ發見スル能ハス何トナレハ若シ單ニ犯罪ノ結果タル害惡ノ程度  
ノミヲ標準トシ犯人ノ心情如何ヲ問ハサルモノトセハ再犯加重、宥  
恕減輕等ヲ設クル理由ヲ發見スル能ハサレハナリ

第五目的主義

要旨 此主義ハリスト氏一派ノ主張スル所ニシテ犯罪ノ結果タル害惡如何ヲ

願ミス所犯情狀ニ應シテ刑ノ有無輕重ヲ判定スヘシト云フニアリ  
 批評 (一)此主義モ國家カ刑罰ヲ有スル所以ニ關シテ少シモ説明スル所ナシ  
 (二)刑罰ノ有無輕重ヲ定ムルニ當リ更ニ犯人ノ情狀ノミヲ標準トスル  
 モ不可ナリ蓋シ刑罰適用ノ目的ハ犯罪行為ノ發生ヲ鎮壓防止スルト  
 共ニ當該犯人ノ改悛懲戒ヲモ包含スレハナリ

第六日本新刑法ノ採用セシ主義

意義 刑罰ハ人類ノ社會的共同生活ニ於ケル公益秩序ヲ維持スル目的ニ出テ  
 タル國權ノ作用ニ因ル強制的ノ制裁ニシテ其輕重ヲ定ムルニ當テハ犯罪ヨ  
 リ生スル害惡ノ種類程度等ニ應シ刑期ノ長短(自由刑)金額ノ多寡(財産刑)  
 ヲ法定シ其刑期金額ノ範圍内ニ於テ所犯情狀ヲ具體的ニ裁量シ各場合ニ適  
 應スル相當ノ刑期金額ヲ量定セシメ尙ホ再犯加重、宥恕減輕、等特別ノ加  
 減原因アルトキハ法定刑期ノ範圍外ニ出テテ加重減輕セシムヘシ  
 批評 最モ發達シタル刑法法理ニ適合シ又刑罰論ノ本旨ニモ一致シ好完至良  
 ノ法制ナリ

第五章 刑法ノ淵源

刑法ノ淵源ハ各國各時代ニ於ケル文物進歩ノ程度ニヨリ大ニ其趣ヲ異ニス

「神ノ命令カ刑罰法ノ淵源タリシ時代」

第一期

此時代ニ於テハ國家的觀念全缺スルヲ以テ國家主權ノ威力ニヨリ部落團體ヲ統  
 治スルト云フ觀念ナシ當時人類ノ最モ畏敬セシ所ノモノハ神ナリ從テ部落團體  
 ノ維持發展ハ偏ニ神ノ賜ナリト迷信シタリ故ニ其中合セ規則タル刑罰法規モ亦  
 神ノ命令ナリト信シタリ

豪傑崇拜時代ニ於ケル刑法典ノ淵源

人智漸ク發達シ迷信ノ度漸次消却スルト共ニ人類共同生活ノ維持發展ハ智勇兼  
 備ノ優者ニ依ラサル可カラサルコトヲ感得スルニ至リ國民ノ優者ニ依頼スルコ  
 ト大ナリ例ヘハ羅馬人ノシーザニ於ケルカ如シ從テ此時代ニ於ケル刑罰法規ハ  
 總テ優者ノ命令ナリキ

第二期

國家思想ノ發達シタル時代ニ於ケル刑法ノ淵源

第十六世紀以來、人智ノ發達文化ノ進歩ニ伴隨シ伊太利其他歐大陸諸國ニ於ケ  
 ル羅馬法ノ研究ト共ニ國家思想勃興シ續テ封建制度ノ破壞トナリ各國主權統一  
 ノ端緒ヲ開クニ當テヤ國家統治ノ大權ハ主權者ニ附屬スルモノニシテ大ハ國政  
 ノ調理ヨリ小ハ一法令ノ制定公布ニ至ルマテ皆ナ主權者ノ統治作用ニ屬スル  
 コト明確トナルニ至リ刑罰法規殊ニ刑法ノ制定モ亦統治作用殊ニ主權者ノ立法  
 行為ニ淵源スルニ至レリ

然モ刑法ノ内容殊ニ犯罪トナルヘキ非行ノ範圍並ニ刑罰ノ種類程度等ヲ定ムル  
 方法ニ至テハ法律學發達ノ程度ニ依テ大ニ相異ナリ左ニ三大時期ニ區別シテ説

刑法ノ淵源

明セム

(一) 法律學幼穉時代ノ法制

此時代ニ於テハ學者ノ所謂擅斷主義ナルモノ行ハレ裁判官ハ主權者ノ概括的委任ニヨリ罪トナルヘキ行爲ノ種類及刑罰ノ種類竝ニ其輕重ヲ量定スル權限ヲ有シ日常發生スル各個ノ非行ニ對シ自由ニ其罪ノ有無ト刑ノ種類竝ニ其輕重ヲ定ムルコトヲ得タリ

(二) 罪刑認定拘束主義ノ實行時代

法律思想ノ發達ト共ニ罪ト刑トノ認定ハ主權者カ一定スヘキコトノ理論ニ適合スルコト明確トナリ同時ニ裁判官ノ專橫私擅ヲ抑制スル必要上犯罪ノ種類ト刑罰ノ範圍ヲ一定スルニ至リシモ猶ホ裁判官ヲシテ比附援引ノ解釋ニヨリ及慣例ニヨリ罪ト刑トヲ定メシムル餘地ヲ殘セシタメ裁判官ハ法律適用ノ國家機關タルト共ニ尙ホ立法官タリシナリ羅馬帝政時代、テレシヤ刑法典實施時代及我德川幕府ノ奉行裁判時代ノ如キ即チ是ナリ

(三) 法定主義實行時代

法律學ノ發達ニ伴ヒ人權尊重ノ觀念勃興シ裁判官ノ私擅橫暴ナル行爲ノタメ人權ヲ毀損セラルルコト大ナルヲ悟得スルニ至リ前記裁判官ノ立法行爲ヲ絶止スルタメ犯罪ノ種類項目ハ勿論刑罰ノ種類程度ニ至ルマテ詳細緻密ニ明定シ尙ホ法文解釋ノ自由ヲモ拘束シ裁判官ヲシテ文字ニ依テ機械的ノ行動ヲ爲

第三期

サシムルニ至レリ西曆紀元一千七百九十一年九月三日ニ發布セシ有名ナル佛國憲法實施時代ニ行ハレシ刑法ノ如キ即チ是ナリ

(四) 折衷主義實行時代

第一主義及第二主義ノ不可ナルト共ニ法定主義(前記第三主義)ハ裁判官ヲ拘束スルコトノ甚シキタメ自由裁量ヲ許ササル結果、同一犯罪中ニ於テ所犯情狀ニ種種ノ差別アルニ拘ハラヌ刑罰ノ程度ニ差異ヲ設ケ犯情相當ノ刑罰ヲ科スル能ハサル不都合アルヲ以テ二者ヲ折衷シ犯罪ノ項目及刑罰ノ種類及其範圍(即チ刑期ノ長短金額ノ多寡)ヲ法定シ裁判官ヲシテ之ヲ嚴守セシムルモ法ニ豫定セル刑期ノ長短及金額多寡ノ範圍内ニ於テハ犯罪ノ情狀ニ適合セシムルタメ裁判官ニ自由裁量ノ餘地ヲ殘シ臨機伸縮スルノ權限ヲ附與セリ  
同シク折衷主義ヲ採用セル刑法ニ於テモ其國當時ノ法制及國民ノ文化ノ程度如何ニヨリ多少其趣ヲ異ニス

折衷主義

- (1) 佛蘭西刑法及之ヲ模倣シタル我舊刑法ノ如キハ純然タル折衷主義ヲ採用シタルモノナリキ
  - (2) 我新刑法モ勿論折衷主義ヲ採用スト雖モ從來多數ノ折衷主義ヲ採用セル刑法ニ比シ一新機軸ヲ出シタル點アリ即チ左ノ如シ
- 〔甲〕裁判官ノ刑罰量定權ノ制限ヲ擴張シ所犯情狀ニ應シ適當

我刑法ノ採用  
折衷主義  
ノ特色

ナル裁判ヲ爲サシムルタメ自由裁量ノ餘地ヲ廣大ナラシメ  
タリ例ヘハ各本條ニ於ケル刑期金額ノ範圍ヲ擴張シ同一種  
類ノ犯罪ト雖モ犯罪情狀ノ程度ヲ異ニスルニ從ヒ寬嚴應當  
ノ刑罰ヲ言渡スコトヲ得セシメタルカ如シ

(乙) 既ニ犯罪相當ノ刑罰ヲ言渡スト雖モ偶發性ノ犯人ニシテ  
刑罰實施ノ必要ナキ者殊ニ刑罰ヲ執行スルタメ惡癖ニ感染  
スル恐アルモノニ對シテハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡サシム(本  
法第二十五條乃至第二十七條)

(丙) 憲法第二十三條ノ規定ヨリ生スル刑法淵源ノ制限

憲法第二十三條ニ日本國民ハ法律ニ依ルニアラサレハ……  
處罰ヲ受クルコトナシトアル結果現在及未來トモニ刑罰法  
規(刑法ハ勿論他ノ一般ノ刑罰法規トモニ)ノ淵源トナルヘ  
キモノハ左記數個ノ成文法ニ制限セラルルニ至レリ

(A) 憲法ノ規定(殊ニ第六條及第三十七條)ニ從ヒ制定セラ  
レタル法律(新刑法ノ如キ此一例ナリ)

(B) 憲法第八條ニ規定セル緊急勅令ニヨル刑罰法規ノ制定

(C) 憲法實施以前ヨリ存在セル法律、規則、命令、其他、  
諸種ノ名稱ヲ有スル法規ニシテ憲法ノ規定ニ矛盾セザル

タメ依然トシテ其效力ヲ具有スル刑罰法規(憲法第七十  
六條第一項)

(D) 法律ノ委任ニヨリ行政官廳カ命令ヲ以テ制定公布セル  
諸種ノ刑罰法規(明治二十九年第六十三號臺灣ニ施行ス  
ヘキ法令ニ關スル件)○明治二十三年法律第八十四號命令  
ノ條項違犯ニ關スル罰則○同年勅令第二百五十八號省令  
廳令府縣令及警察ニ關スル件等)



理 論

第一章 犯罪

第一節 犯罪ノ定義

犯罪ノ定義モ、學術上ニ於ケル諸般ノ定義ト同シク觀察スル方面如何ニヨリテ其趣ヲ異ニス即チ實質的定義ト形式的定義ノ差別是ナリ

犯罪ノ實質的定義モ刑法ヲ制定スル基本ノ主義ヲ異ニスルニヨリテ其趣旨ヲ異ニス

實質的定義

(甲) 折衷主義ヲ採用セシ舊刑法ニ於ケル犯罪ノ實質的定義ハ不正且、不利益ナル行為ヲ罪ト云フト云フヲ以テ正當ナリトス蓋シ折衷主義ヲ採用セル刑法ハ背徳加害ノ所爲ニ刑罰ヲ加フルヲ以テ其目的トナセハナリ

形式的定義

(乙) 進化主義(改良シタル折衷主義)ヲ採用セル新刑法ニ於ケル犯罪ノ實質的定義ハ國家ノ生存要件ニ危害ヲ加フル行為ヲ罪ト云フト云フヲ以テ正當ナリトス」蓋シ人類カ國家的團結ヲ爲シ共同生活ヲ營ムヤ其生存發達ニ缺ク可ラサル條件ヲ認定シ國家ハ威力ヲ以テ此條件ヲ保護シ若シ此條件ヲ破壞スル者アレハ之ヲ犯罪ト爲シ之ニ豫定ノ刑罰ヲ加フルモノナレハナリ  
形式的ニ犯罪ヲ定義スレハ犯罪トハ刑罰ト云フ制裁ヲ附シタル有責違法ノ行為ナリ

犯罪ノ定義

第二節 犯罪ハ一種ノ行為ナリ

行為トハ人類内部ノ意思カ發動シテ外部身體ノ行動トナリタルモノナリ此身體ノ行動カ刑罰法規ノ禁令又ハ命令ニ違反スルトキハ之ヲ犯罪ト云ヒ適法ニシテ私法上ノ效果ヲ發生セシムルトキハ之ヲ法律行為ト云フ(民法第一編第四章參照)

犯罪行為ノ主體ハ人類ニ限ルヤ否ヤハ古來著名ノ問題ナリト雖モ時世ノ變遷ト各國法制ノ狀態如何ニヨリ其結論ヲ異ニセサルヲ得ス

人類カ犯罪行為ノ主體トナリ得ルコトニ付テハ古今ノ學說ノ一致スル所ニシテ特ニ説明スル必要ナシ

往古ヨリ第十七世紀ノ末葉ニ至ルマテハ刑罰法規ヲ以テ神ノ命令ナリト爲シ宗教的觀念ヲ以テ刑罰權ノ基本ト爲セシニヨリ其所謂神罰ヲ受クヘキ者ハ人類ニ限ラス諸種ノ動物ハ勿論無生ノ植物ト雖モ皆ナ此神罰ヲ受ケタルハ法律歷史上ノ一奇觀ナリ

第十八世紀以來法律學ノ研究進歩シ刑罰ノ觀念正確トナリシ以來、人類以外ノ者ヲ犯罪ノ主體ト爲スコトナキニ至リタルモ私法上ニ法人ナルモノヲ發生スルニ至リ更ニ此法人カ犯罪ノ主體ト爲リ得ルヤ否ヤノ難問ヲ生スルニ至レリ

行為ノ主體

行為ノ意義

人類以外ノ物

消極說 第十八世紀ノ末葉ニ於テフオイエルバツハ氏等ハ法人ハ絶對的ニ犯罪能力ナシト唱導セリ

積極說 近世ニ至リギルケ氏ハ其所論タル團體說ニ基キ法人ノ實在ヲ認メ民法商法等ニ於ケルト同シク刑法上ニ於テモ法人ノ意思能力ヲ認メ法人ニ自然人、同様罪ヲ犯ス能力アリト主張セリ其後多數學者ノ贊同ヲ得タリシカ近時リスト氏モ盛ニ此說ヲ祖述セリ其要旨左ノ如シ

法人

曰、法人ハ吾人人類ト同シク意思ヲ有シ行爲能力ヲ有シテ實在スルモノナリ法人ノ能力ハ民法ニ於ケルト刑法ニ於ケルトニ依リテ異ナル所ナシ法人カ有效ニ契約ヲ爲シ得ル以上ハ詐欺ニ依ル契約ヲ爲シ以テ詐欺取財罪ヲ犯シ得ヘシ又法人ハ財産權、名譽權、存在權ヲ享有シ得ルニヨリ此等ノ實益ヲ制限シ若クハ剝奪スルコトニヨリテ刑罰ヲ科スルコトヲ得ヘシ云云

我現行法ノ解釋論 新刑法其他諸般現行法規ヲ通觀スルニ原則トシテハ法人ニ犯罪能力ナク唯例外トシテ法ニ特別ノ明文アル場合(法人ヲ犯罪人トシテ處罰スル)ニ限り法人カ犯罪人トナリ得ヘシ若シ原則トシテ常ニ法人ヲ犯罪人トシテ處罰シ得ヘシトセハ左記三種ノ法規ヲ設ケ特ニ法人ノ處罰ニ關スル規定ヲ設ケタル趣旨ヲ解スル能ハ

サルニ至ルヘシ

前記ノ理論ニ基キ現行法中特ニ法人ヲ處罰スヘキ規定ヲ設ケタルモノ左ノ如シ

(一) 租税及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル件 (明治二十三年法律第五十九號)

(二) 電信法(明治三十三年法律第五十九號)第四十二條

(三) 漁業法(明治三十四年法律第三十四號)第三十條

行爲ノ要件  
行爲トハ或結果ノ發生ヲ目的トスル所ノ意思ノ實行ニヨル身體ノ動靜ナリ於此行爲ノ要件ハ(1)意思實行ト(2)之ニ基ク結果ノ發生アル外(3)尙ホ此ニ要件ヲ結合スル條件ヲ必要トスルコトヲ知ル

意思實行  
行爲ノ一要件タル意思實行ハ行爲者ノ任意ナル身體ノ動靜ナリ從テ機械的ナル身體ノ動靜(例ヘハ他人ノ強制ヲ受ケ止ムヲ得スシテ傍人ヲ傷クルカ如シ)生理的強制(例ヘハ筋肉痙攣ノタメ重荷ヲ墮落シタメニ行人ヲ傷ケタルカ如シ)ニヨル身體ノ動靜ハ共ニ任意ナル身體ノ動靜ニアラサレハ之ニヨル意思實行ハ共ニ行爲ト云フ能ハサルナリ

結果トハ内部ニ於ケル意思ヲ實行セシタメ外界ニ發現スル變狀ナリ例ヘハ家屋燒燬ノ意思ヲ實行セシタメ其目的トセシ家屋カ燒失シタル場合ノ如シ

行爲ノ結果

意義  
結果ノ標準  
犯罪ノ分類

結果ハ意思實行ト共ニ行爲ヲ成立セシムル要件ニシテ如何ナル犯罪行爲ト雖モ結果ノ存在セサルモノナシ故ニ結果ノ有無ヲ標準トシテ犯罪ヲ分類セムトスルハ誤ナリト雖モ結果ノ多少乃至其性質如何ニヨリテ犯罪ヲ區別スルハ正當ナリ即チ左ノ如シ

(一) 實害罪ト危険罪是レ結果ノ性質ヲ標準トシタル區別ナリ  
實害罪トハ刑法カ明文ヲ以テ保護スル所ノ法益ヲ現實ニ侵害シ結果ノ發生スルニ依テ成立スル所ノ犯罪ナリ例ヘハ他人ノ建造物ヲ損壞シタルニ依テ成立スル毀棄罪ノ如シ(第二六〇條)  
危険罪トハ刑法ノ保護スル所ノ法益ヲ侵害スルヲ俟タス法益ヲ侵害スル危険アルニ至リタルノミヲ以テ處罰セラルル所ノ犯罪ナリ例ヘハ騒擾罪ハ公共ノ安寧秩序ニ對スル危険ヲ罰スル罪ナルカ如シ(第一百六條)

(二) 結果ノ數ニ依テ犯罪ヲ區別スルトキハ(1)單一ノ結果ヲ以テ犯罪事實トスルモノト(2)數個ノ結果ヲ以テ犯罪事實トスルモノトノ二種トナル「普通ノ犯罪ハ概テ(1)ニ屬ス(2)ニ屬スルモノハ所謂結合犯ニシテ強盜強姦罪(第二四一條)強盜殺傷罪(第二四〇條)ノ如キ是ナリ

(三) 結果ノ有無ヲ標準トシ犯罪ヲ結果犯及非結果犯ニ區別スルハ誤ナリ如何ナル犯罪ト雖モ結果ナクシテ罪トナルコトナケレハナリ反對

意思實行ト結果トノ結合

意義  
種類  
意義

論者カ非結果犯トシテ疑ハサル誹謗罪ニ於テ攻究スルニ特定ノ人ヲ誹謗シタルタメ被誹謗者カ之ヲ聽テ不快ノ感覺ヲ惹起スルハ外界ニ發生スル變狀ニシテ即チ結果ナリトス

任意ナル意思實行アリ同時ニ外界ノ變狀(即チ結果)アルモ其間ニ因果ノ關係ナカリセハ之ヲ犯罪行爲ト云フ能ハス苟モ犯罪行爲ト稱スルニハ意思實行ト結果トヲ結合スル條件アルコトヲ要ス

前記ノ結合的條件ハ之ヲ主觀的ト客觀的トニ區別スルコトヲ得  
客觀的條件ハ結果カ意思實行ニ依テ惹起セラレタルカ又ハ結果ノ發生カ防止セラレサルコト即チ是ナリ於此行爲ノ種類ニ作爲不作爲ノ區別ヲ生ス

主觀的條件ハ行爲者カ意思實行ニ際シ結果ヲ豫見シタルカ(故意)若クハ豫見シ能シコト(過失)即チ是ナリ於此犯人責任ノ要件タル故意及過失ノ觀念ヲ生ス

作爲トハ任意ニ或結果(外界ノ變狀)ヲ發生セシムル所ノ意思ノ實行ナリ例ヘハ家屋ヲ燒燬セント欲シテ隨意ニ放火シ終ニ其目的トセシ家屋ヲ燒失セシメタルカ如シ

任意ナル意思實行ト結果トノ間ニハ原因結果ノ關係アルコトヲ要ス蓋シ此關係ナクハ意思實行者ハ結果ニ對スル責任ヲ負ハサルナリ例ヘ

ハ家屋ヲ燒燬セント欲シテ放火セントセシ瞬間ニ落雷アリ其タメ該家屋カ燒失シタル場合ノ如キ最初ノ放火セントセシ者ハ放火罪ノ責任ヲ負ハサルナリ

前述ノ如ク任意ナル意思實行ニ基ク身體ノ動作ト之ヨリ生スル結果トノ關係ハ有名ナル因果關係論ナルモ如何ナル動作ヲ原因ト云フヤニ至テハ學說ノ分歧スル所ナリ左ニ其主要ナルモノ二三ヲ掲ケン

普通說

動作ト結果トノ間ニ存スル因果關係トハ此動作カ原因トナラサリセハ此ノ如キ結果ヲ發生セサリシト云フ關係ナリ前例ニヨレハ家屋ノ燒失ハ此放火行爲ノタメナリト云フ關係即チ因果關係ナリ

此說ヲ採用スル學者ハ原因ニ關シ左記二個ノ原則アルコトヲ主張ス

第一 結果ニ對スル原因ハ身體ノ動作ノミナルコトヲ要セス之ニ加フルニ外部諸般ノ事情アリシタメ終ニ行爲ノ目的通りノ結果ヲ生シタル場合ニモ尙ホ其動作ハ其結果ノ原因ナリト云フコトヲ得例ヘハ家ヲ燒カンタメニ放火シタルニ偶々落雷アリ一層火力ヲ盛ニシ終ニ其家ヲ燒失セシメタル場合ニ前ノ放火行爲ハ此燒失ノ原因ナリト云フヘキカ如シ

第二 結果ニ對スル原因ハ一人ノ動作ナルコトヲ要セス數人ノ動作ノタメ同一結果ヲ生シタリトセハ其數人ノ動作ハ共同作用ヲ爲ス

因果關係論

モノニシテ各人ノ動作ハ各別ニ結果ニ對スル原因ヲ爲スモノナリ

優勢說 一犯罪ヲ成立セシムルタメニ行フ所ノ動作ノ中ニモ直接ニシテ主要ナル原因ヲ爲スモノト間接ニシテ主要ナル原因トナラサルモノアリ原因トハ結果ノ發生ニ關シ直接ニシテ主要ナリシ即チ優勢ナリシ動作ヲ云フ

最有力條件說 結果ヲ發生セシムルニ至リタル種々ノ動作中最モ有力ナリシモノヲ原因ト云フ

(批評) 後ノ二說ハ古來盛行セシ「原因トハ結果ニ對シテ必要ナル條件ナリ」又ハ「原因トハ最後ノ條件ナリ」ト云フ謬說ニ基クモノニシテ失當ナリ加之此二說ニヨレハ原因トハ諸條件中唯一個ノミ存スルコトトナリ共同原因ヲ認メサル結果トナル然モ前段説明スルカ如ク共同原因ハ之ヲ認メサル可ラサル法理上ノ根據アリ  
此ノ如クニシテ優勢說及最有力條件說ノ採ル可ラサル所以ハ消極的ニ普通說ノ採用セサル可ラサル理由トナルモノナリ

因果關係ノ原則ニ對スル二大制限

(一) 責任能力者ノ自由ニシテ故意アル行爲ハ新ナル原因ノ進行ヲ開始シ前ノ意思實行ト結果トノ間ニ於ケル因果關係ヲ中

犯罪行為ノ種類

作爲

制限

斷ス例へハ甲カ或家屋ヲ燒燬セント欲シテ放火行為ニ從事シタルニ會々乙爆發物ヲ投射シ瞬間ニシテ其家屋ヲ燒燬シタリトセハ火災ノ原因タルヘキ甲ノ放火行為ハ乙ノ爆發物投射ノタメ中斷セラレ家屋ノ燒失ハ甲ノ放火行為ノ結果トナラサルカ如シ

是レ此理論ハリスト氏ノ主唱スル因果關係中斷論ニシテ一派ノ學者ハ責任更新論トモ命名ス

前記ノ理論ヲ教唆犯及從犯ニ適用シテ論述スレハ教唆及幫助ノ行為ハ此後實行シタル正犯ノ動作ノ爲メ因果關係ヲ中斷セラルルニヨリ教唆者從犯ノ動作ハ正犯ノ實現セシメタル結果(犯罪)ニ對シテ原因タラスト云フニアリ

是レ新刑法第六十一條ニ人ヲ教唆シ犯罪ヲ實行セシメタル者ニ正犯ニ準ストアルニヨリ教唆ハ結果(犯罪)ニ對シ獨立セル間接正犯ニアラスシテ單ニ正犯ノ實行行為ニ對スル附屬的ノ加擔行為タルニ過キヌ又同第六十二條ニ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トストアルニヨリ是レ又附屬的ノ幫助行為タルニ止マリ獨立ニ存在スル犯罪行為トナラサル所以ナリ

(二) 重キ結果ヲ生シタルトキ刑ヲ加重スル罪(例へハ第二編第

研究ノ必要

二十七章ニ規定スル傷害罪ノ如シ)ニ付テハ重キ結果ト行爲トノ間ニ「意思ノ實行カ普通此結果ヲ生スルニ適合スルモノト認メララルル場合」(例へハ人ノ身體ヲ毆打シテ傷害ノタメ死ニ至ラシムルコトアルカ如シ)ニ限リ因果關係アルモノトシテ行為者ニ重キ結果ノ責任ヲ負ハシム蓋シ此種ノ結果罪ニ於テ行為者カ重キ結果ニ付キ責任ヲ負フニハ故意又ハ過失アルコトヲ要セサルヘカラス若シ此種ノ犯罪ニ付テモ常ニ因果關係ニ關スル前記ノ原則ヲ適用スルトキハ意思ノ實行ト因縁薄キ間接ノ結果ニ對シテ責任ヲ負フコトトナリ刑罰法理ヲ矛盾スルニ至レハナリ

作爲ハ身體ノ動作原因トナリ其結果トシテ外界ニ一定ノ變狀ヲ生スルモノナレハ作爲ハ身體ノ動作ト外界ノ變狀トニ要件ヨリ成立スルコト勿論ナリ若シ此ニ要件カ異ナル時又ハ異ナル場所ニ於テ發生セハ作爲ハ何レノ時又ハ何レノ場所ニ於テ行ハレシヤノ問題起ル

前問題ヲ研究スルタメ古來學者ノ試ミタル解釋種種ナリ左ニ其最モ著名ナルモノ二三ヲ掲ク

第一 結果ヲ標準トシテ作爲ノ場所及時ヲ定メントスル説ニ

前問題  
ニ對スル  
學說

シテ其理由ハ作爲ニ依テ生スル犯罪ハ結果ニ依テ其性質ヲ定メラルルモノナリト云フニアリ例ヘ一人ヲ毆打シテ傷害スレハ此毆打ト云フ作爲ヨリ生スル犯罪ハ負傷ト云フ結果ニ依テ定メラレ之ヲ傷害罪ト云フヘキカ如シ

(批評) 結果ノミヲ見テ動作及其動作ノ基ク所ノ意思ニ著眼セサルハ誤ナリ同シク人ヲ傷害スルモ故意ニ基ク場合ト過失ニヨル場合アリ然ルニ結果ノミヲ見テ意思ニ著眼セサレハ其ノ作爲ニ依テ生スル犯罪ノ性質ヲ定ムル能ハス

第二 動作ノ基ク意思ヲ標準トシ意思ヲ實行セシ時及場所ヲ以テ作爲ノ時及場所ト爲スヘシ

(批評) 前説及次説ニ對スルカ如キ批難ナク比較的正当ナル學說ナリ

第三 結果ト意思トヲ併セテ作爲ノ時及場所ヲ定メントスルモノニシテ其理由ハ作爲ハ身體ノ動作ト之ニ伴フ結果トノ二要件ヨリ成立スルモノナレハ若シ此二要件カ時又ハ場所ヲ異ニシテ發生シタリトセハ何レノ時又ハ何レノ場所ニ於テモ作爲アリタルモノト看做ササル可ラスト云フニア

作爲ノ  
時及場  
所

(批評) 二個ノ標準ニヨリテ作爲ノ時又ハ場所ヲ定メントスルヲ以テ一ノ作爲カ二個ノ場所ニ於テ行ハレ若クハ二個ノ時ニ於テ行ハレタリト云ハサル可ラサル不都合アリ

以上ハ單一ナル作爲ニヨリ成立セシ犯罪ノ時及場所ヲ定ムル標準ヲ示セリ然モ數行爲カ一罪トナル場合及教唆犯從犯ニ關スル作爲ノ時及場所ニ付テハ複雑ナル研究ヲ要スルニヨリ左ニ之ヲ要説セム

連續犯ノ時及場所ハ如何

連續犯ハ同種類ニ屬スル數多ノ行爲ヨリ成立スルモノナレハ一連續犯ニシテ二個以上ノ犯罪ノ時及二個以上ノ犯罪ノ場所アルコト稀ナラス(第三章第二節第二款參照)

二以上ノ犯罪ノ場所カ數個ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニハ刑訴法第二十七條ニヨリ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄トスヘシ

二以上ノ犯罪ノ時アリ其間ニ刑法ノ改正アリタルトキハ新法ト舊法トヲ問ハス輕キ刑ヲ加フル刑法ヲ適用スヘシ(反對論、常ニ新法ヲ適用スヘシ)

以上ノ論決ハ結合犯其他法律上數行為ヲ一罪ト爲ス犯罪ノ時及場所ヲ定ムルニ付キ全然之ヲ適用スルコトヲ得

教唆犯發生ノ時及場所如何

正犯ニ或犯意ヲ惹起セシムル意思(教唆者ノ)ヲ起シ其意思ヲ實行シタル時及場所カ教唆犯發生ノ時及場所ナリ例ヘハ甲ナル教唆者カ乙ニ強盜ヲ爲サシメント欲シ乙ニ強盜ノ決心ヲ爲サシムルタメ教唆ヲ爲サシメタル時及場所カ甲ノ教唆行為ノ時及場所ナルカ如シ

從犯發生ノ時及場所如何

從犯者カ補助ノ行為ヲ爲セシ時及場所ヲ以テ從犯ノ時及場所ナリトス例ヘハ正犯カ放火罪ヲ行フヲ容易ナラシムルタメ燃料ヲ給與セシ時及場所ハ(放火ノ時及場所ト異ナルモ)從犯ノ時及場所ナリトス

不作爲トハ法律命令ノ規定ニヨリ又ハ以前爲シタル行為ノ結果トシテ或事ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ者カ故意ヲ以テ其事ヲ行ハス自然ノ成行ニ放任スルヲ云フ故ニ不作爲ハ左記三個ノ要件ヨリ成立ス

- (1) 或事ヲ爲スヘキ義務ハ法律命令ノ規定又ハ以前爲シタル行為ノ結果トシテ存在スルヲ要ス
- (2) 或事ヲ行フヘキ義務アルコトヲ要ス故ニ若シ其義務ナキ者カ袖手

意義

傍觀シテ物界自然ノ成行ニ放任スルモ犯罪構成ノ一要件タル不作爲トナラス例ヘハ隣家ノ煙突カ爲ニ倒レテ其家人ヲ傷害セントスルコトヲ知レルモ之ヲ默過シ終ニ人畜ノ死傷ヲ生セシメタル場合ノ如シ(3) 其事ヲ行フヘキ義務アル場合ト雖モ故意ヲ以テ其事ヲ行ハサリシコトヲ要ス

純正不作爲犯  
刑罰法規ノ命令ニ違反シ或特定ノ行為ヲ爲ササルニ依リテ成立スル犯罪ナリ例ヘハ舊刑法第三百四十條ニ規定セシ自己ノ所有地内ニ遺棄セラレタル老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セサル罪ノ如シ

刑罰法規中或行為ヲ爲ササルコトヲ罰スル明文ナキニ拘ハラズ或結果ノ發生ヲ防止スヘキ義務アル者カ其義務ヲ履行セサル(即チ不作爲)タメ刑罰法規ノ禁止的規定ノ違反トナルヲ云フ

不純正不作爲犯  
結果ノ發生ヲ防止スヘキ法律上ノ義務ハ左ノ如シ  
(一) 行政法規ノ明文ニヨリ或結果ノ發生ヲ防止スヘキ義務例ヘハ警察官吏カ人民ノ身體ニ對スル急迫ノ危難ヲ防衛スル義務ノ如シ

(二) 明示若クハ默示ノ契約ニ基ク民法上ノ義務例ヘハ看護

不作爲犯ノ種類

婦カ治療ニ適當ナル方法ヲ以テ病人ヲ看護スル義務ノ如シ  
(三) 以前ニ行ヒタル行爲ノタメ自然ニ發生スル或結果ヲ防

止スヘキ法律上ノ義務例ヘハ洋燈ヲ顛覆セシ者ハ其結果ト  
シテ發生スル火ノ延焼ヲ防止スヘキ義務アルカ如シ

不純正不作爲犯ハ本來作爲ニヨリテ成立セシムヘキ犯罪ナ  
ルニ拘ラス法律上ノ義務ニ違反シ結果ノ發生ヲ防止セザリ

シタメ犯罪タルヘキ結果ヲ生セシメタルニヨリ一種ノ不作  
爲犯トシテ之ヲ處罰スルモノナレハ勿論刑法ノ成文上直接

ニ規定スル犯罪ニアラサルニヨリ一派ノ學者(殊ニ佛蘭西  
法系ノ學者)ハ之ヲ不作爲犯トシテ處罰スルコトヲ否認ス

作爲犯ノ場合ニ於ケル意思實行ト結果トノ間ニハ因果關係アルコト前  
述ノ如シ於此、不作爲犯ノ場合ニ於ケル意思實行ト結果トノ間ニモ因

果關係アルヤ否ヤノ問題起ル此問題ニ對スル答案ハ學說ノ分歧スル所  
ニシテ今尙ホ一定セス左ニ其主要ナルモノ二三ヲ掲ク

第一 作爲犯ノ場合同様意思實行ト結果トノ間ニ因果關係アリトスル  
說

其要旨ニ曰、甲ノ事項ヲ實施スレハ乙ノ状態ニ變化ヲ來タササルヘ  
キ場合ニ甲ノ事項ヲ實施セザリシタメ乙ノ状態ニ變化ヲ來タシタリ

不作爲

意思實行ト結果トノ關係

トセハ甲ノ事項ヲ實施セサル意思實行ト乙ノ状態トノ間ニハ原因結  
果ノ關係アリト云フコトヲ得ヘシ

(批評) 結果ノ發生ヲ防止セスト云フ消極的行爲ト結果トノ間ニ因

果關係アリヤ否ヤハ因果關係テフ術語ノ文理解釋ニ屬シ違ニ其是

非ヲ判斷スル能ハスト雖モ作爲ノ場合ニ於ケル積極的行爲ト結果

トノ間ニ於ケル因果關係トハ少シク其趣ヲ異ニスルニヨリ不作爲

ノ場合ニ於ケル消極的意思實行ト結果トノ間ニハ因果關係ナシト

論スルヲ正當ナリト信ス

第二 不作爲ノ場合ニ於ケル意思實行ト結果トヲ連結スヘキ關係ハ外

圍ノ進行ヲ遮斷セスト云フ關係ナリ

第三 作爲ト結果トノ間ニ原因結果ノ關係カ存在スル如ク不作爲ト結

果トノ間ニモ之ト類似ノ關係カ存在スト云フ說

第四 作爲ヲ原因ト認ムルニハ假リニ其作爲ナカリシトスレハ此結果

ヲ生セザリシト云フ關係(即チ因果關係)アルノミヲ以テ足ル不作爲

ニモ亦同一ノ關係アリ法律上ノ義務ヲ履行シ原因ノ進行タニ遮斷セ

ハ之ヲシテ結果ヲ惹キ起スニ至ラシメサルコトヲ得從テ法律上ノ價

値ハ彼此差別ナシ是レ不作爲カ原因結果ノ連結ナクシテ罪トナル所

以ナリ



(批評) 第二說乃至第四說ハ其詞ヲ異ニシテ其意ヲ同ウスルモノト云フヘシ從テ何レノ說ニ依テ不作爲ノ場合ニ於ケル消極的意思實行ト結果トノ關係ヲ說明スルモ可ナリト雖モ予輩ハ寧ロ第四說ノ立言正確ナルヲ好ムモノナリ

純正不作爲犯ニ於ケル消極的意思實行ハ刑罰法規カ命令セル所ノ行爲ヲ爲ササルニアルヲ以テ此種ノ不作爲ニ於ケル意思實行ノ時及場所ハ刑法カ命令セル行爲カ當サニ行ハル可カリシ時及場所ナリトス  
不純正不作爲犯ニ於ケル消極的意思實行ハ其事ヲ行フヘキ法律上ノ義務ヲ負フ者カ其義務ヲ負ヒテ結果ノ發生ヲ防止セサルコトニ存スルカユヘニ此種ノ不作爲ニ於ケル意思實行ノ時及場所ハ結果ノ發生ヲ防止スヘカリシ時及場所ナリトス

此外、作爲ノ場合ニ於ケル意思實行ノ時及場所ニ關スル說明ハ不作爲ノ場合ニ於ケル意思實行ノ時及場所ニ準用スルコトヲ得

### 第三節 犯罪ハ法律違反ノ行爲ナリ

行爲トハ人類意思ノ實行ニシテ適法ナルモノアリ不適法ナルモノアリ  
適法ナル意思ノ實行ハ民法ニ所謂法律行爲及商法ニ所謂商行爲ニシテ共ニ法律上ノ保護ヲ受ク

違法行爲ノ意

不適法ナル行爲ハ國家ノ命令禁令ニ違反スル行爲ニシテ其實質ハ法ヲ以テ保護スル人類生活利益ノ侵害ナリ

不適法ナル行爲ニ民法上ノモノト刑罰法上ノモノトノ二種アリ民法上ニ於ケル違法行爲ハ所謂不法行爲ニシテ其制裁ハ損害賠償若クハ失權ナリ刑罰法上ノ違法行爲ハ所謂犯罪ニシテ其制裁ハ刑罰ナリトス茲ニ說明スル所ノ違法行爲ハ刑法上ニ於ケル法律違反ノ行爲ナリ

禁令ハ成文ニシテ規定スルコトヲ要ス

犯罪ニ實質的ノ意義ト形式的ノ意義ノ二種アルコトハ前述ノ如シ故ニ若シ何等ノ制限ナクハ裁判官ハ或所爲ニ對シ犯罪ノ實質アリト爲シ之ヲ罪トスルコトアラム此ノ如クハ犯罪ノ實質ニ關スル理論ハ今尙ホ未決ノ難問ナルヲ以テ甲裁判所ノ罪トスル所乙裁判所之ヲ無罪トシ國內ニ於ケル犯罪ノ種類一定セサルノ不都合アリ是レ現今何レノ國ニ於テモ犯罪ノ實質ヲ認定スルハ立法者ニ限リ裁判官ハ刑罰法規ノ明文ニ依リ罪ノ有無ヲ認定スル職權ヲ有スルニ過キサルモノト爲ス所以ナリ

禁令ハ命令ノ發

刑ヲ制裁トシタル禁令命令ハ即チ刑罰法規ナリ刑罰法規ノ制定ハ憲法第十三條ノ明文ニヨリ帝國議會ノ協贊ヲ經タル法律ヲ以テセサル可ラズ從テ刑ヲ制裁トシタル禁令命令ノ發生ハ刑罰法規ノ裁可公布ニヨルモノニシテ(憲法第六條)其實效力ヲ生スルハ公布後二十日ヲ經過シタル時ナリ(法例第一條)ト雖モ亦例外トシテ各法律ニ於テ特ニ其實施ノ時期ヲ指定スルコトアリ新刑法ノ如キモ此一

例ニシテ裁可ヲ經公布アリシハ明治四十年四月ナリシモ其實施力ヲ生セシハ明治四十一年十月一日ナリトス

刑ヲ制裁トシタル法規ヲ其實質ニヨリテ區別スレハ禁令命令ノ二種トナル

禁令トハ或特定ノ行為ヲ禁止スル規定ニシテ之ニ違反スル行為ハ作爲ナリ

作爲犯ハ積極的行動ニヨリ成立スル犯罪ナルニヨリ學者之ヲ行犯ト稱ス

命令トハ或特定ノ行為ヲ爲スヘント命スル規定ニシテ之ニ違反スル行為ハ不作爲ナリ

不作爲犯ハ消極的動作ニヨリテ成立スル所ノ犯罪ナルニヨリ學者之ヲ不行爲犯ト稱ス

明示ノ廢止ハ特ニ法律規則ヲ制定發布シテ舊法ノ廢止ヲ明定シ此明文ニ依テ舊法ヲ消滅セシムルヲ云フ

舊法全部ヲ消滅セシムルヲ廢止ト云ヒ其一部ヲ消滅セシムルヲ變更ト云フ

有效期限ノ定アル場合ニ期限ノ到來ニヨリ或ハ特ニ豫定セル條件ノ到來ニヨリテ其法規ノ自然消滅ニ歸スルハ共ニ明示ノ廢止ナリ

默示ノ廢止トハ新法中、舊法ノ規定ト同一事項ニ關スル規定アリ兩者ノ規定相抵觸スルトキ舊法ノ自然消滅スルヲ云フ

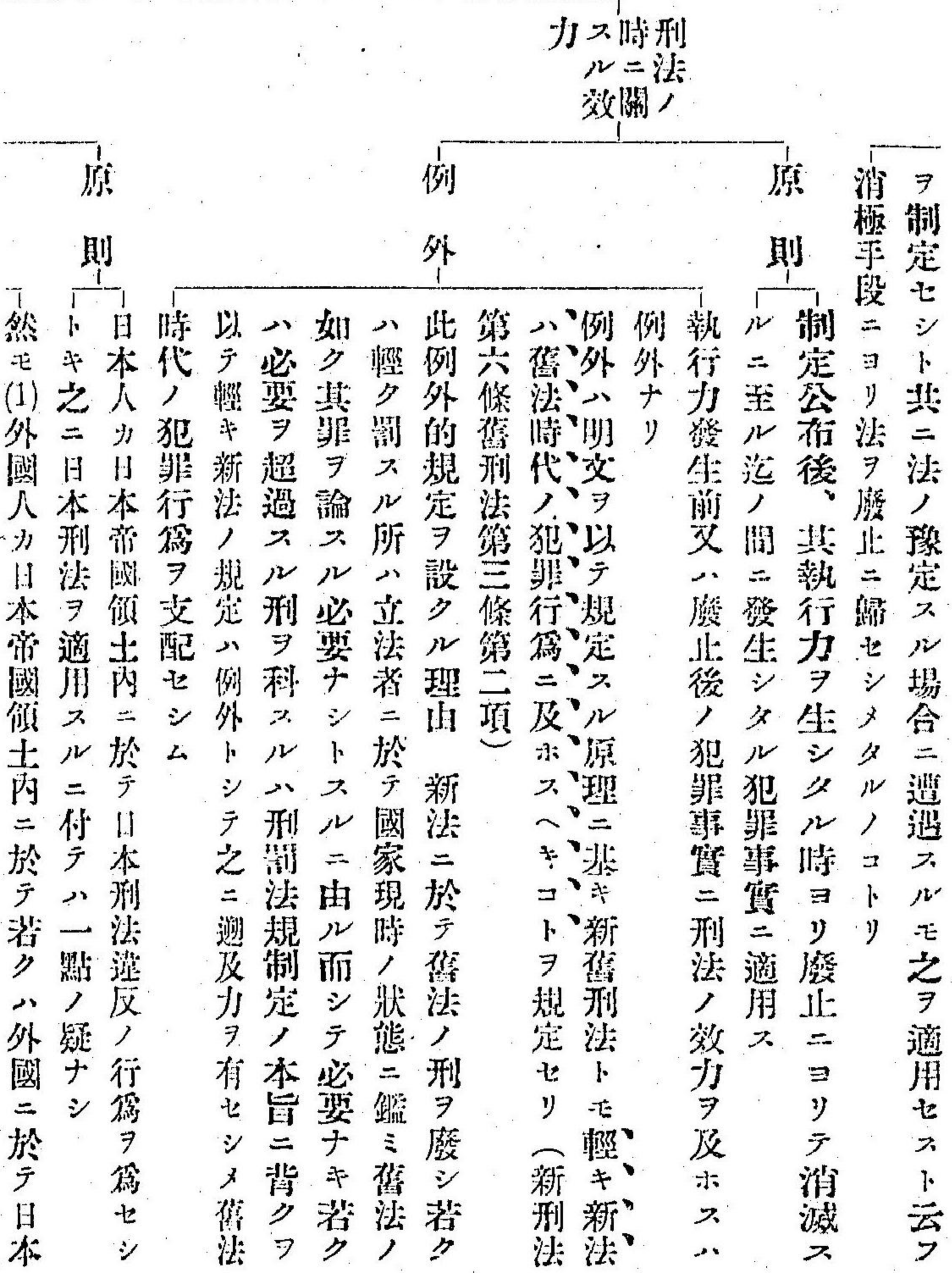
法律ノ不使用ハ法律廢止ノ原因ニアラス是レ現今ニ於テハ殆ント疑ナキ所ニ屬スト雖モ往昔裁判官ノ權限廣大ナリシ時代ニハ裁判ニヨリ法

使用ノ不

滅令消

禁令命

類令種



刑法違反ノ行爲ヲ爲セシトキ(2)日本人カ外國ニ於テ日本刑法違反ノ行爲ヲ爲セシトキ當然日本刑法ヲ適用シ得ルヤ否ヤニ付テハ學說法制ノ一致セサル所ナリ左ニ有力ナル學說二三ヲ掲ク

第一 屬地主義

刑場所ニノ  
關スル  
効力

要旨 一國ノ刑法ハ其國內ニ於ケル犯罪ハ内外人ヲ問ハス總テ之ヲ支配スト雖モ國境外ニ於ケル犯罪ハ自國人ノ行爲ニ依ル場合ト雖モ之ヲ處罰スル能ハス

理由 刑法ハ其國主權ノ作用ニ依リテ效力ヲ有スルモノナレハ主權カ國境外ニ出テテ威力ヲ有セサルト等シク刑法モ國境外ニ出テテハ些少ノ效力ナシ

批評 交通通信ノ便開ケタル今日國外ニ於テ本國ノ安危ニ拘ハル大罪ヲ犯シ得ルコト容易ナリ如此時代ニ於テ此主義ヲ墨守セハ一國ノ安寧秩序ヲ維持スル能ハサル不都合アリ

學說

第二 屬人主義

要旨 自國民ノ犯罪ハ犯罪地ノ内國タルト外國タルトヲ問ハス總テ自國刑法ヲ以テ處罰スルモ外國人カ自國ニ於テ

犯罪ハ  
禁令  
命令  
効力  
違  
法

反ノ行  
爲ナリ

犯シタル罪ハ自國刑法ヲ以テ之ヲ處罰スル能ハス

批評 自國內ニ於ケル外國人ノ犯罪ハ自國刑法ヲ以テ之ヲ處罰セズト云フハ自國主權ノ效力ヲ薄弱ナラシムルモノナリ又外國ニ於ケル自國民ノ犯罪ハ一切自國刑法ヲ以テ之ヲ處罰スト云フハ刑罰權行使ノ必要ノ程度ヲ超過スルモノナリ

第三 折衷主義

要旨 自國民ノ犯罪ニハ行爲地ノ内國ナルト外國ナルトヲ問ハス總テ内國刑法ヲ適用シ外國人ニ對シテハ屬地主義ニ從ヒ行爲地ノ内國ナル場合ニ限り内國刑法ヲ適用ス

批評 外國ニ於ケル自國民ノ總テノ犯罪ニ自國刑法ヲ適用スルハ必要ノ程度ヲ超ヘテ刑罰權ヲ行使スル嫌アリ又外國人カ外國ニ於テ内國ノ治安ヲ害スル罪ヲ犯シタル場合ニ之ヲ處罰スル能ハサルハ缺點ナリ

第四 保護主義(我新刑法ノ採用セル主義)

自國領土内ニ於ケル犯罪ハ内外人ノ區別ナク總テ自國刑法ヲ以テ處罰シ自國領土外ノ犯罪ハ自國若クハ自國民ニ對シ重大ナル危害ヲ生シムルモノニ限り内外人ヲ問ハス自

國刑法ヲ以テ處罰スルモノニシテ要之領土外ノ重大ナル犯罪ヲ處罰スルタメ屬地主義ニ例外ヲ設ケタルモノナリ  
批評 是レ現時實行セラレツツアル學說中比較的完全ナルモノナリ

國法上及國際法上ノ例外ヲ除ク外刑法ハ國內ニ於ケル總テノ人ノ犯罪行為ヲ支配スル力アリ

刑法ノ人ニ關スル效力

原則  
例外

國法上ノ例外

- (1) 天皇ハ主權ノ本體ニシテ刑法ノ威力ハ必竟此主權ニ淵源ス若シ刑法ヲ以テ天皇ノ行為ヲ支配セントセハ末ヲ以テ本ヲ制スルノ不都合アリ(憲法第三條第四條)
- (2) 攝政ハ皇室典範ニ定ムル一定ノ場合ニ皇位ヲ充タシ天皇ト合體シテ主權ヲ行使スルモノナレハ刑法ヲ以テ天皇ヲ支配スル能ハサル理由ハ刑法ヲ以テ攝政ヲ支配スル能ハサル理由トナル(憲法第十七條第二項)
- (3) 帝國議會ノ議員但シ議院ニ於テ發言シタル意見及表示ニ於テノミ刑法支配ノ範圍外ニ立ツモノナリ(憲法第五十二條)

國際法上ノ例外

- (1) 外國ノ君主、大統領、其家族及從者
- (2) 外國ノ使節(大使、特命全權公使、全權公使、辨理公使、代理公使)其隨行官及其家族從者
- (3) 內國ニ駐屯セル外國軍隊
- (4) 內國ノ領海内ニ碇泊セル外國軍艦
- (5) 領事ハ領事職務條約ニ於テ特約シタルトキニ限り駐在國刑法ノ支配ヲ受ケサル特權ヲ享有ス

(一) 實害ヲ生スル違法行為トハ法ノ保護スル生活利益ニ對シ現實ニ損害ヲ發生セシムル行為ニシテ所謂實害罪ナリ

實害罪ニ付テハ刑法ノ豫定セル實害ヲ生スルヲ以テ其罪ノ既遂トシ之ヲ生スルニ至ラサルトキハ未遂罪若クハ中止犯トシテ之ヲ處罰ス

(二) 危險ヲ生スル違法行為トハ所謂危險罪ニシテ之ヲ分ツテ一般的危險罪ト特別危險罪トノ二種トナス

- (1) 一般的危險罪トハ害ヲ被ムルヘキ法益ニ制限ナク一般ノ法益ヲ損傷スヘキ虞アル行為ナリ
- (2) 特別危險罪トハ特定ノ法益ヲ傷害スル恐アル行為ニシテ刑法第二百二十五條第百二十九條ノ如キ是ナリ
- (3) 警察犯モ危險ノ發生ヲ條件トシテ成立スルモノナリト雖モ警察犯ノ要件

違法行為ノ內容

タル危険ハ特定ノ法益ヲ傷害スル處(即チ特別的危險)ヲ生セシムル危険ナリ

違法行為カ犯罪成立ノ一要件タルコト勿論ナリト雖モ違法行為ハ常ニ犯罪ヲ成立セシメス次ニ列記スル八個ノ原因アルトキハ違法行為ハ犯罪トナラサルモノトス

(一) 公務ノ執行 是レ第三十五條ニ所謂法令ニヨリ爲シタル行為ナリ公務ノ執行カ違法行為ヲ適法ナラシムル理由ハ本論第七章ノ圖說ヲ參照スヘシ

(二) 法令及慣習ニ基ク懲戒 民法第八百八十二條ニ基ク親權者ノ懲戒及船内ノ秩序維持ノタメニ船長ノ有スル懲戒ノ如シ

此等ノ場合ニ於ケル懲戒ノ方法カ刑法ノ禁令命令ニ觸ルルモ之ヲ罪トセサルハ法令又ハ慣習ノ認許アルニヨル

(三) 治療ノ目的ヲ以テ爲ス行為 其主ナル事例ハ醫師ノ施術ナリ施術ノタメ身體ヲ毀損シ若クハ生命ヲ喪失セシムルモノ之ヲ罪トセサルハ醫師ハ人類社會ノ維持發展ニ必要缺ク可ラサルモノニシテ國家ハ之ヲ保護獎勵セサル可ラサルモノナルニヨル

(四) 正當ナル業務ノ執行 是レ刑法第三十五條ニ所謂正當業務ニヨリ爲シタル行為ニシテ此種ノ行為カ違法ヲ排除スル所以ハ本論第七章ノ圖說ヲ參照スヘシ

違法行為ヲ適法ナラシムル原因

- (五) 自己ノ法益ヲ毀損スル行為 ハ法益ヲ處分スル能力アル範圍内ニ於テノミ適法ナリ而シテ刑法第二編以下ノ各本條ニ規定セル法益中如何ナル部分ハ自ラ之ヲ毀損シ得ルヤ否ヤハ法ノ保護スル精神カ公益ノタメナルヤ單ニ一個人ノタメナルヤニ依テ決スヘシ財產ニ對スル罪ノ如ク單ニ其所有者ノ私益ノミヲ保護スル罪ハ自ラ之ヲ毀損シ得ルモ生命身體ニ關スル保護ノ如キハ公益的ノモノナレハ享有者自ラ之ヲ毀損スルコトヲ得ス
- (六) 被害者ノ承諾ニ基ク行為 被害者ノ承諾アルタメニ其行為カ適法ナルニハ(1)享有者ニ處分ノ權能アルコト(前(五)ノ說明參照)(2)其承諾ハ成年者ノ任意ナル意思表示ナルコトヲ要ス
- (七) 正當防衛 (本論第七章ノ圖說參照)
- (八) 危難防衛 (本論第七章ノ圖說參照)

### 第四節 犯罪ハ刑罰法上ノ責任ヲ有スル行為ナリ

犯罪ニ對スル責任ハ刑罰ノ負擔ナリ  
刑罰ヲ負擔シ得ルハ一種ノ能力ニシテ人ニ依リ此能力ヲ有セサル者アリ於此責任能力有無ノ研究ヲ必要トス

違法行為ノ結果ヲ行為者本人ニ連結シ之ニ責任ヲ負ハシムルニハ責任能力アル外故意又ハ過失ノ存在ヲ要ス於此乎故意及過失ノ問題起ル

概説

責任能力

責任無能力ノ原因

責任能力ハ違法行為ノ結果ヲ行為者ニ歸屬セシムル前提條件ナリ

(一) 自然人ハ原則トシテ責任能力ヲ有シ責任能力ヲ有セサルハ精神ノ不精熟及精神ノ障礙ニ基ク例外ノ場合ナリ

(二) 法人カ責任能力ヲ有スルヤ否ヤハ法人カ犯罪ノ主體トナリ得ルヤ否ヤノ問題ニ對スル解決如何ニ依テ其決論ヲ異ニス(法人カ犯罪ノ主體トナリ得ルヤ否ヤニ付テハ理論第一章第一節參照)

責任能力ハ行為當時ニ存在スルコトヲ要ス行為ノ前後ニ責任能力アルモ行為當時ニ責任能力ナクンハ其行為者ニ刑罰ヲ加フル能ハス

(一) 精神ノ不精熟ハ精神ノ未發育ト精神ノ發育ヲ妨ケラレタルモノトノ二種トナル

(1) 精神ノ未發育トスル時期ハ各國ノ法制各相異ナリト雖モ新刑法第四十一條ハ滿十四歳ヲ以テ精神精熟ノ時期トナス(本論第七章圖說參照)

(2) 精神ノ發育ヲ妨ケラレタル者ノ唯一ノ事例ハ刑法第四十條ニ規定セル盲啞者ナリ(本論第七章ノ圖說參照)

(二) 精神ノ障礙ハ精神作用ノ不完全ナルモノニシテ之ヲ細別スレハ心神喪失者ト心神耗弱者ト二種トナル(本論第七章ノ圖說參照)

故意トハ犯罪事實ヲ認識シテ犯罪行為ノ決心ヲ爲スヲ云フ(犯罪事實トハ犯罪構成條件及刑罰加重ノ條件ヲ云フ) 犯罪事實ノ認識トハ客觀

意義

故意主義

的方面ノ認識ナリ隨テ左記四箇ノ認識ハ故意ノ成立要件ニアリス

(1) 行為者ノ主觀的方面ノ認識(2) 行為ノ要素ニ非サル事實ノ認識(3) 行為ニ關スル法律上ノ結果ノ認識(4) 行為ニ對スル法律上ノ效果ヲ定ムル法令ノ認識

故意ヲ要素トシテ成立スル犯罪ヲ故意犯ト稱シ過失犯ノ對稱トス(第三十八條第一項)

觀念主義  
犯罪事實ノ認識ノミヲ以テ故意ヲ成立セシメ犯罪事實ノ完成ニ對スル希望ヲ要件トセサルモノナリ」是レ新刑法其他近世諸國ノ刑法典ニ於テ採用セラルル所ノモノナリ

希望主義  
犯罪事實ノ完成ニ對スル希望ヲ以テ故意ノ要件トスルモノナリ

(批評) 犯罪事實ノ完成ニ對スル希望ハ犯罪行為ノ目的ナリ犯罪行為ノ目的ヲ以テ故意ノ要件トスルハ故意ト目的トヲ混同スルモノナリ

違法認識主義  
行為カ刑罰法規ニ違反スルコトヲ認識スルヲ以テ故意ノ要件トスルモノナリ

(批評) 刑罰法規違反ノ不知ハ行為者ノ責任ニ關係ナシトスルコト近世刑法ノ法理ナリ法規違反ノ認識ヲ故意ノ要件

犯罪ノ上  
罰罪ハ  
責法ハ

種類

トスル學說ハ失當ナリ

確定故意——特ニ確定セル犯罪事實ニ對シ犯罪行為ノ決心ヲ爲スヲ云フ

未必ノ故意——トハ犯罪事實ノ存在ヲ必セサルモ若シ之レアラハ此犯罪事實ヲ實行セント云フ決意ナリ

不確定ノ故意——概括的ニ指定セル犯罪事實ヲ實行セントスル決意ナリ

擇一ノ故意——數多ノ犯罪事實中其何レカラ實行セント云フ決意ナリ

意義

故意ト  
錯誤ノ  
關係

想念ト事實トノ矛盾ナリ換言スレハ行為者ノ犯罪事實ニ對スル想念ト其事實ノ眞想カ相違スルヲ云フ

錯誤ハ想念ト事實トノ矛盾ナリ而シテ犯罪事實ニ對スル想念ナルモノハ故意ヲ組成スル一分子ナレハ想念ト事實ノ矛盾ハ故意ノ不成立ヲ來タス故ニ錯誤ニ關スル研究ハ故意ノ消極的研究ナリ

(一) 事實ノ錯誤トハ現存セル事實ノ眞想ヲ誤認シ又ハ現存セサル事實ヲ現存スルモノト誤認スルヲ云フ

事實ニ關スル錯誤ハ更ニ分レテ二種トナル

(1) 犯罪事實(犯罪構成要件タル事實及刑罰加重ノ條件タル事實)ノ錯誤 此種ノ錯誤ハ故意ノ成立ヲ妨ク蓋シ故意ハ犯罪事實ノ認識

任ヲ有  
スル行  
爲ナリ

錯誤

種類

ナリ然ルニ此認識ニ錯誤アルトキハ故意ナルモノハ成立シ得サルハナリ

(イ) 犯罪事實ノ存在スルニ拘ハラズ存在セスト誤認シタル場合 此場合ニ故意ノ成立ヲ妨ケ隨テ犯罪成立ヲ妨クルコト勿論ナリ

(ロ) 犯罪事實ノ存在セサル場合ニ存在スルモノト誤認シタル場合 誤認シタル事實カ存在セハ成立セシム可カリシ罪ノ未遂犯ヲ成立セシム但シ反對論アリ

(2) 犯罪事實ニ關シ具體的ニ豫想シタル事實ニ錯誤アル場合(例ハ甲ヲ傷ケント欲シテ乙ヲ傷ケタル場合ノ如シ) 此點ニ關シテハ學說種々ニ分ル

第一說 錯誤カ要點ニ關スルトキハ故意ノ成立ヲ妨ケ否ラサルトキハ故意ノ成立ヲ妨ケス

第二說 犯罪事實ニ關スル想念ト現存セル事實カ具體的ニ矛盾スルモ抽象的ニ一致スル以上ハ故意ノ成立ヲ妨ケス但シ錯誤ノ原因異ナルニ從ヒ罪責ニ多少ノ差異アリ左ノ如シ

(一) 行為者ノ誤認ニ基ク錯誤 犯罪事實ニ對スル誤認ノタメ行為者ノ豫期シタル目的物ト異ナリタル目的物ニ對シテ犯罪タル結果ヲ發生セシメタル場合ニシテ故意ノ成立ニ些少ノ影

響ナク殺人罪ノ成立スルコト勿論ナリ例ヘハ甲ヲ殺ス目的ヲ以テ乙(甲ト誤認シテ)ヲ殺シタル場合ノ如シ

(二) 外部ノ故障ニ基ク錯誤 行爲者ノ意思ニ基カサル外部ノ事實ニヨリ別異ノ目的物ニ對シテ犯罪ノ結果ヲ發生セシメタル場合ニシテ例ヘハ甲ヲ射殺セント欲シテ發砲シタルニ東風烈シク吹キ來リシタメ右方ニ佇立セシ乙者ヲ傷害シタル場合ノ如シ此場合ニハ甲者ニ對スル殺人ノ未遂罪ト乙者ニ對スル過失傷害罪ノ二罪ヲ成立セシム

(二) 法規ノ錯誤

(1) 現存セル刑罰法規ヲ認識セス又ハ現存セサル法規ヲ現存スルト誤認スルヲ云フ 法規ノ錯誤ハ故意ノ成立ニ何等ノ關係ナシ

(2) 犯罪事實トナルヘキ法律關係ヲ規定スル法則ニ付テノ錯誤(犯罪事實トナルヘキ法律關係ヲ規定スル法則トハ竊盜罪成立ノ犯罪事實タル竊取ナリヤ否ヤヲ定ムヘキ所有權ノ存在ニ關スル民法ノ規定ノ如シ) 此種ノ錯誤ハ罪ト刑トヲ定ムル刑法ノ眼ヨリ看レハ一種ノ犯罪事實ナリ隨テ此種ノ錯誤ハ故意ノ成立ヲ妨ク

過失トハ認識スルコトヲ要シ且認識スルコトヲ得ル事實ヲ認識セサルヲ云フ故ニ犯罪成立ノ一要件タル過失ハ犯罪事實(犯罪構成又ハ刑罰

意義

加重ノ條件)ノ存在ヲ認識スルコトヲ要シ且認識シ得ルニ拘ハラス之ヲ認識セサルヲ云フ故ニ過失ハ不注意ヲ以テ其骨子トス 然ラハ注意ノ程度ハ如何ニ之ヲ定ムヘキヤ(1)抽象的客觀的ニ定ムヘシト云フモノアリ(2)具體的主觀的ニ定ムヘシト云フモノアリト雖モ最モ妥當ナル說ハ(3)各事項ニ要スル注意ノ程度ハ之ヲ客觀的抽象的ニ定ムヘク其程度ノ注意ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ主觀的具體的ニ定ムヘシト云フニアリ

過失

過失カ  
罪トナル  
ルヘキ  
場合

過失カ罪ノ成立要素トナル状態ニ二様アリ  
(一)故意ニ代リ單獨ニ犯罪ノ成立要素トナル場合アリ(第三十八條一項但書及ヒ過失傷害罪參照)  
(二)故意ト合體シテ刑罰ヲ變スル場合アリ傷害罪(第二十七章)ノ場合ニ此事例ヲ見ル

第五節

犯罪ハ刑罰ヲ科セラルヘキ不法行爲ナリ

犯罪ハ刑罰ヲ

犯罪ヲ形式的ニ定義スレハ犯罪トハ刑罰ト云フ制裁ヲ附シタル有責違法ノ行爲ナリ即チ知ル一般ノ不法行爲ト犯罪トノ區別セラルル要點ハ刑罰ヲ制裁トスルト否トニアルコトヲ犯罪ハ有責違法ノ行爲ナリ故ニ刑法第二編以下ニ規定セル諸罰條ニ該當スヘキ行爲ヲ犯罪ト爲スニハ犯罪構成條件ヲ具備スル外左記三個ノ場合ニ該當セサルコトヲ要ス



科セラルヘキ不法行為ナリ

第一 違法排除ノ原因ナキコト 刑法第二編以下ノ罰條ニ該當シ一定ノ刑ヲ科セラルヘキ不法行為ナリト雖モ特別ノ明文ニヨリ其違法ヲ排除スルトキ(刑法第三十五條乃至第三十七條ノ場合ノ如シ)ハ犯罪不成立トナル結果之ニ刑罰ヲ科スルコト能ハス

第二 責任免除ノ原因ナキコト 刑法第二編以下ノ罰條ニ該當シ猶モ違法排除ノ原因ナシトスルモ若シ違法免除ノ原因(刑法第三十九條乃至第四十一條ノ如シ)アルトキハ之ヲ罪トシテ刑罰ヲ科スルコト能ハス

第三 處罰條件ノ到來

處罰條件トハ犯罪行為ト獨立シタル一種ノ事實ニシテ犯罪ノ成立ニ必要ナル一條件ナリ即チ教唆犯及從犯ノ成立ニ關シ正犯カ犯罪行為ヲ實施シタルカ如キハ其一例ナリ

第二章 犯罪發生ノ狀態

第一節 既遂罪

既遂罪

意義 既遂罪トハ未遂罪ノ對稱ニシテ犯罪成立條件ノ完備スルニ至リタルヲ云フ隨テ既遂罪ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(1) 犯罪行為ヲ實行シ終リタルコト

(2) 犯罪成立ノ要件タル結果ノ生シタルコト但シ犯人ノ目的ヲ達シタルト否トヲ問ハス竊盜罪ニ依テ例說スレハ犯人竊取ヲ遂シレハ茲ニ所謂結果ノ發生アルモノニシテ之ヲ處分シテ利得スルコト(犯人ノ目的)ハ既遂罪タル要件ニア

ラサルカ如シ

(3) 處罰條件ヲ要スル犯罪ニ在テハ處罰條件ノ到來

第二節 未遂罪

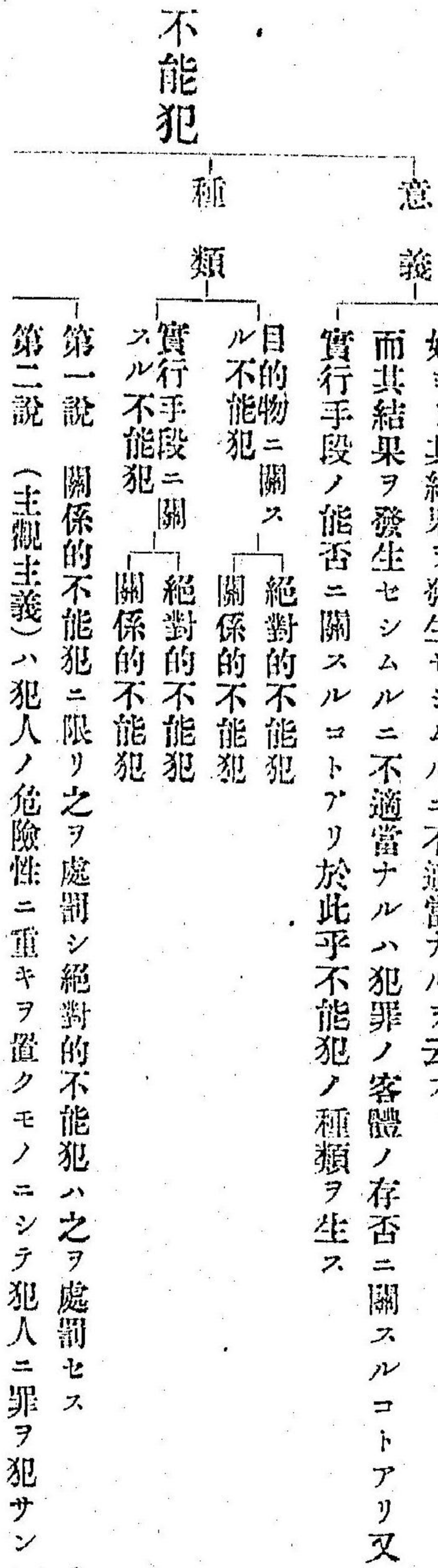
第三節 中止犯

(未遂罪及中止犯ニ關スル說明ハ本編第八章未遂罪ノ圖說ニ讓ル)

第四節 不能犯

不能犯トハ犯罪成立ノ要件タルヘキ結果ノ發生ヲ豫期シテ爲シタル所ノ行為カ始ヨリ其結果ヲ發生セシムルニ不適當ナルヲ云フ

而其結果ヲ發生セシムルニ不適當ナルハ犯罪ノ客體ノ存否ニ關スルコトアリ又實行手段ノ能否ニ關スルコトアリ於此乎不能犯ノ種類ヲ生ス



如何ナル不能ハ之ヲ處罰スヘキヤ

トスル危険ナル性質アリ此性質ニ基キ特定ノ場合ニ犯意ヲ發生シ之ヲ實行スル以上ハ客體ノ存否手段ノ能否ニ拘ハラス不能未遂罪ノ一種トシテ之ヲ處罰スヘシト云フニアリ

第三說 (客觀主義)ハ法益侵害ノ危険ニ重キヲ置クモノニシテ假令不能行為ナルニモセヨ其行為ヨリ法益侵害ノ危険アル以上ハ常ニ之ヲ處罰スヘシト云ヘルモノナリ

第四說 ハ以上二說ノ折衷トモ稱スヘキモノニシテ(イ)行為者ニ危険ナル性質(罪ヲ犯サントスル意思ヲ有スルカ如キ)アリ(主觀的危険)(ロ)其行為ノ性質カ罪ヲ成立セシメ得ル危険アル(客觀的危険)場合ニ限り未遂罪トシテ之ヲ處罰スヘシト云フニアリ新刑法ノ解釋トシテモ妥當ナル見解ナリ

### 第五節 單獨犯及共犯

意義

一人單獨ニ犯罪行為ヲ實行シ其人ノミ刑罰ヲ受クルヲ云フ  
隨テ單獨犯ハ常ニ單獨正犯ナリ  
假令數人共同シテ犯罪行為ヲ實施スルモ其間ニ共犯關係ノ成立ナケルハ常ニ單獨正犯ナリ

自ラ犯罪行為ヲ實施スルモノナリ  
人類以外ノ動物ヲ利用シテ犯罪行為ヲ實施シタルトキ又同シ

### 單獨犯及共犯

單獨犯

種類

直接正犯 假令人類ノ行為ヲ利用シタル場合ニ本人自ラモ實行行為ニ干與スルトキ亦同シ

間接正犯 (1) 責任無能力者ヲ使喚シテ罪トナルヘキ行為ヲ行ハシメタルトキ  
(2) 犯人ヲ強制シ意思ノ自由ヲ奪ヒタル後罪トナルヘキ行為ヲ行ハシメタルトキ  
(3) 罪ヲ犯シ意思ナキ者ヲ利用シテ罪トナルヘキ行為ヲ行ハシメタルトキ  
(4) 他人ヲ危難防衛(第二十七條)ノ必要アル地位ニ陥レ其防衛行為ニヨリ罪トナルヘキ事實ヲ行ハシメタルトキ  
(5) 法令ノ規定ニヨリ職務上或事ヲ行フヘキ義務アル者ヲ利用シ罪トナルヘキ事實ヲ行ハシメタルトキ

意義

共犯トハ二人以上ノ者カ共ニ罪ヲ犯ス意思ヲ以テ犯罪行為ヲ實施シ其行為カ總テ罪責ノ完成ニ對シ相互的關係ヲ有スルヲ云フ

共犯

種類

共同正犯

教唆犯

從犯

(備考) 共同正犯以下三者ニ關スル説明ハ本論第十一章ニ詳ナリ

第三章 一罪及數罪

概説

茲ニ二個ノ罪名ニ觸レタル一犯罪行為アリトセン之ヲ一罪トスルト二罪トスルトニヨリ結果ニ大ナル差異ヲ生ス其主要ナルモノヲ例示スレハ(イ)裁判確定前ニ於テハ併合罪ナルト否トノ區別ヲ生シ又(ロ)其一罪名ニ付キ刑ノ執行アリタル後ハ累犯加重(第五八條)トナルヤ否ヤノ差異アレハナリ於此一罪數罪ヲ區別スル標準ヲ研究スル必要ニ起ル

一罪數罪ヲ區別スル標準如何ハ學說上著名ノ問題ニシテ今尙ホ學者爭論ノ燒點ナリト雖モ左ニ有力ナル學說二個ヲ掲ケム

第一説 違犯シタル法規ノ箇數ニ依テ罪ノ箇數ヲ定ムル説 是レ罪ハ法律違犯ナリト云フ觀念ヲ根據トスル學說ニシテ犯罪行為ノ箇數如何ニ拘ハラヌ法規違犯ノ度數ニ依テ罪ノ箇數ヲ定メントスル結果一行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルル場合ハ勿論二罪ナリト雖モ普通ノ數罪ト區別スルタメ想像上ノ數罪俱發ナル名稱ヲ用ユ

區別ノ標準

(批評) 罪ハ法規違反ナリトノ定義ニ對シテハ何カ法規ニ違反セハ之ヲ罪ト云フヤノ反問起ル法律ニ違反セシタメ罪ヲ成立セシムルモノ夫レ自身カ罪

ノ實質ニシテ罪ノ箇數ハ此實質ニ依テ計フヘキモノニハアラサルカ

第二説 行為ノ數ニ依テ罪ノ箇數ヲ定ムヘシトスル説 是レ罪ハ行為ナリトノ

觀念ニ基クモノニシテ一行爲カ刑罰法規ニ觸ルレハ常ニ一罪ヲ成立セシメ法規違反ノ箇數ヲ問ハス(一行ニシテ數箇ノ法規ニ觸ルレハ之ヲ法規ノ競合ト云フ)罰スヘキ行為數多ナルトキハ一般ハ數罪ヲ成立セシム唯例外トシテ數多ノ行為ヲ合シテ一罪トナスコトアリ

此學說ヲ採用スル結果如何ナル身體ノ動作ハ單一ナル行為ナルヤヲ定ムル必要起ル(次欄參照)

(批評) 前説ニ對スルカ如キ非難ナク我新刑法ノ解釋トシテモ妥當スル學說ナリ

行為

- (1) 單一ナル行動カ單一ナル結果ヲ生シタルトキハ常ニ一行爲ナリ
- (2) 單一ナル行動カ數多ノ結果ヲ伴フトキハ數多ノ結果カ同種類ナル(貨幣偽造ナル單一ノ行動ニヨリ數千箇ノ金銀貨ヲ作製シタル場合ノ如シ)ト異種類ナルトキヲ問ハス行動カ單一ナル場合ハ常ニ單一ナル行為ヲ成立セシム
- (3) 多數ノ行動カ單一ナル結果ヲ發生セシムルトキ結果ノ單一ナルヤ

一罪及  
數罪  
及一行爲  
及數行爲

否ヤハ次ノ標準ニ依テ之ヲ定ム

(甲) 他人ニ讓渡スルコトヲ得サル法益(例ヘハ生命權、身體權自由權名譽權、貞操權、氏名權ノ如シ)ヲ侵害シタルトキハ被害者ノ數ニ依テ結果ノ數ヲ定ム

(乙) 他人ニ讓渡スルコトヲ得ル法益(主トシテ財產權)ヲ侵害シタル場合

(イ) 物カ單獨ニ存在スル場合ハ常ニ一箇ノ結果ヲ生ス

(ロ) 數箇ノ物カ集合シテ存在スル場合

(A) 同一監督内ニアルトキ「所有者ヲ異ニスルト否トヲ問ハス一箇ノ結果ノミ發生ス

(B) 別異ノ監督者ニ屬スルトキ「監督區域ノ數ニヨリテ結果ノ數ヲ定ム

數行爲—犯人ノ行動ニシテ一行爲ナラサルモノハ皆ナ數行爲ナリ

一罪數罪ヲ區別スル標準ニ關シ行爲說ヲ採ルトキハ例外トシテ數行爲ヨリ一罪ヲ成立セシムル場合ヲ認メサル可ラス而其主要ナル場合左ノ如シ

(一) 連續犯(刑法第五十五條)

(二) 或犯罪ノ手段タル行爲カ他ノ罪名ニ觸ルルトキ(刑法第五十四條)

(三) 或犯罪ノ結果カ他ノ罪名ニ觸ルル場合(刑法第五十四條)

數行爲  
ヲ一罪  
ト爲ス

場合

(四) 結合犯  
(五) 慣行犯

(備考) 以上(一)乃至(五)ニ關シテハ本論第九章ノ圖說(併合罪類似ノ處斷方法)ノ類ニ詳説アリ

一罪ニ對シテハ一刑罰ヲ科スルヲ原則トシ一罪ニ對シ數個ノ刑罰ヲ科スル例外ノ場合ナシ

(一) 一罪一箇ノ法規ニ觸ルルトキハ其法規ニ依テ之ヲ處罰ス

(二) 一罪二箇以上ノ法規ニ觸ルル場合ハリスト氏一派ノ學說ニ所謂法規ノ競合ニシテ此場合ニ何レノ法規ヲ適スヘキヤハ左ノ標準ニヨル

(甲) 特別法ハ普通法ヲ排除シテ適用セラル

(乙) 例外法ハ原則法ヲ排除シテ適用セラル

(丙) 複雜法ハ單獨法ヲ排除シテ適用セラル

(丁) 已遂ニ適用スヘキ法條ハ豫備罪未遂罪ニ適用スヘキ法條ヲ排除シテ適用セラル

(戊) 正犯ヲ罰スル法條ハ教唆罪從犯ヲ罰スル法條ヲ排除シテ適用セラル  
以上(甲)乃至(戊)以外ノ場合ハ輕キ刑罰ニ科スル法條ヲ排除シ重キ刑罰ヲ科スル法條ヲ適用ス

一別異ナ人カ獨立シテ數箇ノ罪ヲ犯シタルトキハ勿論數罪ナリト雖モ其間ニ何等

罪ニ對  
スル法  
規ノ適  
用

一罪及  
數罪

法律上ノ關係ナキニヨリ特ニ數罪トシテ論究スル必要ナシ  
同一人カ同時ニ若クハ時ヲ異ニシテ數罪ヲ犯シタルトキハ其間ニ法律上ノ關係  
ヲ生ス其關係ハ左ノ如シ

- (一) 併合罪(刑法第四十五條乃至第五十三條)(本論第九章圖說參照)
- (二) 累犯(刑法第五十六條乃至第五十九條)(本論第十章圖說參照)

本論

第一編 總則

總則

意義

第二編以下ノ各本條ニ規定スル各種ノ罪及其處罰方法ニ關シ總テニ通スル規定  
ニシテ舊刑法第一編ノ總則ニ該當ス

舊刑法ニ規定セル左記三個ノ規定ヲ刪除シ(1)刑法ノ場所ニ關スル效力範圍ニ付  
テノ規定(2)外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル罪ニ關スル處罰方法及(3)公務員及公  
務所ニ關スル規定ヲ新ニ設ケタリ

修正要  
旨

(一) 徵償處分ニ關スル規定(舊刑法第二章第四節)ハ本來刑事訴訟法中ニ設ク  
ヘキモノナルニヨリ之ヲ刪除シ刑法施行法第六十一條乃至第六十七條ニ於テ  
之レカ補充的ノ規定ヲ設ケタリ

(二) 復權ニ關スル規定(舊刑法第二章第八節)ハ公權剝奪及監視ノ規定ニ伴フ  
ヘキモノナルカ新刑法ハ公權剝奪及監視トモニ之ヲ廢止シタルニ復權ノ規定  
モ其必要ナキヲ以テ共ニ之ヲ廢止シタリ

(三) 親屬例(舊刑法第一編第十章)ハ民法第四編親族編ニ於テ詳細ノ規定ヲ設  
ケタル今日最早其必要ナキヲ以テ之ヲ刪除セリ

第一章 法例

意義 本編總則全體ニ共通スル規則ニシテ舊刑法第一章ノ法例ト同様ナリ

本章ニ於テハ舊刑法第一章法例ノ規定ニ對シ左記三箇ノ刪除ヲ爲シ又左記一箇ノ規定ヲ創設セリ

重罪輕罪違警罪ノ種別(舊刑一條)ヲ刪除セリ其理由左ノ如シ

(一) 此種別ハ罪ノ性質ニ基クモノニアラスシテ罪ニ科スヘキ主刑ヲ標準トシ之ヲ區別シタルニ過キサレハ法理上如此區別ヲ設クル必要ナシ

(二) 新刑法ハ舊刑法ニ比シ各罪ニ對スル本刑ノ刑期又ハ金額ノ範圍ヲ擴張シ加之違警罪ノ多分ヲ占メタル警察犯ハ特別法(內務省令警察犯處罰令)ヲ以テ規定シタルニヨリ此種ノ分類ヲ設クル必要ヲ減少セリ

刪除規

舊刑法第二條ノ規定ヲ刪除セリ其理由ハ左ノ如シ曰、近世發達シタル刑法々理ニヨレハ刑法ノ淵源ハ成文法ナルヲ以テ法律ノ明文ニ基カサレハ如何ナル非行ト雖モ之ヲ處罰スルコト能ハス隨テ第二條ノ規定ハ當然ノ事ニ屬シ特ニ之ヲ明定スル必要ナシ  
舊刑法第四條ノ規定ヲ刪除セリ同條ハ陸海軍刑法ヲ以テ處罰スヘキ行為ニハ普通刑法ヲ適用セスト云フニアルモ如此ハ特別法ハ普通法ニ依ルテフ原則當然ノ適用ニヨリ自明ノコトニ屬シ特ニ規定スル必要ナキ

修正要旨

「ニヨリ之ヲ刪除セリ

刑法ノ場所ニ關スル效力範圍ニ付テノ規定ヲ創設セリ(第一條乃至第四條)

創設規

外國ニ於テ言渡サレタル確定裁判並ニ其執行ノ效力ニ關スル規定ヲ創設セリ(第五條)

公務員及公務所ニ關スル規定ヲ創設セリ(第七條)

修正規

舊刑法第三條第一項ヲ刪除シ其第二項ヲ修正シテ新刑法第六條ヲ設ケタリ

舊刑法第五條ヲ修正シテ新刑法第八條ト爲シタリ

新刑法ハ保護主義(理論第一章第三節)刑法ノ場所ニ關スル效力ノ部參照)ニヨリ刑法ノ場所の效力ノ範圍ヲ規定セリ即チ

(一) 日本帝國ノ版圖内ニ發生シタル犯罪ニ付テハ犯罪人ノ内外國人タルヲ區別セズ總テ日本刑法ヲ以テ之ヲ處罰ス(第一條第一項)帝國船舶内ノ犯罪ニ關シ其船舶カ公海航行中ナルトキ之ヲ帝國版圖内ノ犯罪トナス(領土延長說ニヨリ)ニ付キ國際法學上一點ノ異論アルヲ聞カスト雖モ外國ノ領海ヲ航行シ若クハ碇泊スル間ニ於ケル帝國船舶内ノ犯罪カ帝國版圖内ノ犯罪ナリヤ否ヤニ付テハ學說ノ一定セサル所ナルニヨリ明文ヲ以テ之ヲ帝國版圖内ノ犯罪ナリト明定セリ(第一條第二項)然モ此規定ハ國際法理ニ矛盾スル所アリ外國領海

刑場所の  
效力の  
範圍ニ

關  
スル  
規  
定

碇泊中ノ船内ニ於ケル犯罪ニシテ其地ノ公安ヲ害スルモノナルトキ若クハ船長ヨリ其地ノ官憲ノ保護ヲ求メタルトキハ所在國カ其犯罪ニ對シテ管轄ヲ有スヘキコトハ殆ント學說ノ一致スル所ナルニ拘ハラズ如此場合ヲモ一括シテ帝國版圖内ノ犯罪ト看做シ日本刑法ヲ適用スヘキモノト爲シタルハ國際法理ヲ蹂躪スル甚シキモノト謂フヘシ

(二) 帝國版圖外ニ於テ發生シタル犯罪ニ付テハ帝國ノ安寧秩序ヲ保持スル範圍内ニ於テ犯人ノ國籍如何ヲ問ハズ日本刑法ヲ以テ之ヲ處罰ス而新刑法カ帝國版圖外ノ犯罪ニシテ帝國ノ安寧秩序ヲ侵害スルモノト認定シタルモノ左ノ如シ

(1) 第二條ニ列記スル犯罪ハ犯人カ内國人タルト外國人タルトヲ問ハズ帝國ノ安寧秩序ヲ侵害スルモノト看做ス

刑法施行法第二十六條ハ帝國外ニ於ケル軍機保護法ニ關スル罪其他十種ノ犯罪モ第二條列記ノ犯罪同様帝國ノ安寧秩序ヲ害スルモノト爲セリ

(2) 第三條ニ列記セル犯罪ハ帝國臣民カ帝國外ニ於テ犯シタル場合及外國人カ外國ニ於テ帝國臣民ニ對シテ之ヲ犯シタル場合ニ限り帝國ノ安寧秩序ヲ害スルモノト認メタリ

刑法施行法第二十七條ハ著作權法ニ掲ケタル罪外二種ノ罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フト規定セリ

外國ニ  
於テ確  
定テ裁  
判ヲ受  
タル者  
ニ對スル  
處罰規  
定

規定ノ  
必要

規定ノ  
内容

(3) 第四條ニ列記セル犯罪ハ帝國ノ公務員カ帝國外ニ於テ之ヲ犯シタル場合ニ限り帝國ノ安寧秩序ヲ害スルモノト認メタリ

刑法ノ場所的效力ノ範圍ニ關スル規定ハ各國各異ノ狀況ナルヲ以テ日本刑法第一條乃至第四條ノ規定ニ矛盾スル規定アリ爲メニ同一犯罪行爲ニ對シ日本帝國及或他ノ外國カ重テ刑ノ言渡ヲ爲スコトアリ爲メニ犯人處罰ノ本旨ニ背キ必要ヲ超エタル刑罰ヲ加フル不都合アリ之ヲ寬和スル規定ノ必要アルヲ以テ舊刑法ニ存在セザリシ規定ナルニ拘ハラズ新刑法ハ第五條ヲ以テ之ヲ創設セリ

(一) 法ノ威力ハ國境ヲ超エズテ原則ノ適用上、帝國ノ確定判決カ外國ノ裁判所ニ對シ何等ノ效力ナキト同シク外國ノ確定裁判モ帝國ノ裁判所ニ對シ何等ノ效力ナキニヨリ帝國裁判所ハ外國ニ於ケル確定裁判ノ有無ニ拘ハラズ法定ノ管轄ニ基キ日本刑法ヲ適用シテ各種ノ犯罪ヲ處罰スルコトヲ得

(二) 二重ニ有罪判決ヲ言渡スノミハ實害ナキモ犯人外國ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其全部又ハ一部ノ執行ヲ終リタルトキ更ニ帝國裁判所ノ言渡ニ基ク刑ノ執行ヲ爲ストキハ過酷ニ失スルヲ以テ帝國裁判所カ刑ヲ言渡ス際ニハ外國ニ於テ執行ヲ受ケタル刑ノ種類程度ニ鑑ミ刑ノ執行ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得否ナ免除若クハ減輕スル

必要アリ

第六條ハ舊刑法第三條第一項ヲ删除シ（法カ遡及方ヲ有セサルコトハ時ニ關スル効力ノ大原則ニシテ別ニ明定ヲ要セサルユヘ）其第二項ヲ修正シタルモノナリ然モ規定ノ趣旨ハ二者相同シ

刑法ノ効力ハ實施力ヲ生シタル時ヨリ廢止ニヨリ失効スル迄ノ間ニ發生シタル犯罪事實ヲ支配スルニアリ執行カ發生前又ハ廢止後ノ犯罪事實ニ其効力ヲ及ホスニハ例外ナリ例外ハ明定スルヲ要スル原則ニ基キ特ニ本條ヲ設ケ輕キ新法ハ舊法時代ノ犯罪行為ニ及ホスヘキコトヲ規定セリ（第六條）

（備考）

新舊法ノ輕重比照法ニ付テハ刑法施行法第二條及第三條ニ詳細ノ規定アリ

舊刑法制定當時ニハ公吏公署ナルモノナカリシユヘ官吏、官署ニ關スル規定ヲ設ケルノミニシテ公吏、公署ニ關スル規定ヲ脱シタルユヘ其後二十三年法律第百號ヲ以テ之ヲ補充シ又明治二十二年法律第二十八號ヲ以テ官公吏ニアラスシテ法令ニヨリ公務ヲ行フ者ニ付テノ規定ヲ爲シ其他議會及議員ノ保護ニ關スル罰則並ニ瀆職法等ヲ以テ刑法ノ缺點ヲ補充シタルシカ新刑法制定ニ際シ第七條ヲ創設シ廣ク國家ノ公務ニ從事スル職員ヲ公務員ト總稱シ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ公務所ト稱

刑法ノ時ニ關スル効力

修正要旨

規定ノ要旨

規定ノ沿革

公務員及公務所

他ノ對法ニ對スル効力

規定ノ内容

シ刑法中ノ各條ニ於テハ公務員公務所ヲ本位トシテ之ニ對スル規定ヲ設ケタリ（第四條、第九五條、第九六條、第九七條、第九八條、第九九條、第一百條、第一百零一條、第一百零二條、第一百零三條、第一百零四條、第一百零五條、第一百零六條、第一百零七條、第一百零八條、第一百零九條、第一百一十條、第一百一十一條、第一百一十二條、第一百一十三條、第一百一十四條、第一百一十五條、第一百一十六條、第一百一十七條、第一百一十八條、第一百一十九條、第一百二十條、第一百二十一條、第一百二十二條、第一百二十三條、第一百二十四條、第一百二十五條、第一百二十六條、第一百二十七條、第一百二十八條、第一百二十九條、第一百三十條、第一百三十一條、第一百三十二條、第一百三十三條、第一百三十四條、第一百三十五條、第一百三十六條、第一百三十七條、第一百三十八條、第一百三十九條、第一百四十條、第一百四十一條、第一百四十二條、第一百四十三條、第一百四十四條、第一百四十五條、第一百四十六條、第一百四十七條、第一百四十八條、第一百四十九條、第一百五十條、第一百五十一條、第一百五十二條、第一百五十三條、第一百五十四條、第一百五十五條、第一百五十六條、第一百五十七條、第一百五十八條、第一百五十九條、第一百六十條、第一百六十一條、第一百六十二條、第一百六十三條、第一百六十四條、第一百六十五條、第一百六十六條、第一百六十七條、第一百六十八條、第一百六十九條、第一百七十條、第一百七十一條、第一百七十二條、第一百七十三條、第一百七十四條、第一百七十五條、第一百七十六條、第一百七十七條、第一百七十八條、第一百七十九條、第一百八十條、第一百八十一條、第一百八十二條、第一百八十三條、第一百八十四條、第一百八十五條、第一百八十六條、第一百八十七條、第一百八十八條、第一百八十九條、第一百九十條、第一百九十一條、第一百九十二條、第一百九十三條、第一百九十四條、第一百九十五條、第一百九十六條、第一百九十七條、第一百九十八條、第一百九十九條、第二百條）

公務員ノ定義（第七條第一項）  
公務所ノ定義（第七條第二項）

修正要旨

第八條ハ舊刑法第五條第一項ヲ删除シ（普通刑法ニ罰條ナク特別法ニ罰條アルトキ其特別法ヲ適用スヘキコトハ規定ヲ俟タスシテ明ナルコトナルユヘ）其第二項ヲ修正シタルモノナリ  
刑法ノ總則ハ原則トシテ他ノ刑罰法規ニ對シテモ通則トシテ適用セララル是レ刑法カ刑罰法ノ普通法タル性質ヲ有スルヨリ生スル當然ノ結果ナリ（第八條）  
雖然多數ノ刑罰法規中ニハ其規定事項ノ特殊ナルタメ刑法總則ニ對シ例外的ノ規定ヲ設ケル必要アリ例ヘハ新聞紙條例ニ於テハ數罪ノ處分ニ關シ絕對的ノ併科主義ヲ採用シ警察犯處罰令ニ於テハ教唆及從犯ニ關シ特例ヲ設ケタルカ如シ（第四條）如此特例ハ無論普通法タル刑法總則ニ先ツテ適用セラルヘキコト法理上當然ノ結論ナリ此點ヨリ觀察ス

規定ノ内容



レハ本條但書ノ規定モ亦明定ヲ俟タサル當然ノコトニ屬シ注意的ノ規定ナリト云フノ外ナカルヘシ

### 第二章 刑

第二章ハ舊刑法第一編第一節乃至第三節ヲ修正シタルモノニシテ修正ノ要點左ノ如シ

(一) 重罪輕罪違警罪ノ種別ヲ廢シタル結果トシテ重罪ノ主刑、輕罪ノ主刑違警罪ノ主刑ナル區別ヲモ廢止セリ(舊刑法第七條乃至第九條)

(二) 舊刑法ノ主刑ハ十四種ナリシカ新刑法ハ主刑ヲ死刑ト自由刑ト財產刑トノ三種ニ大別シ自由刑ヲ定役ノ有無ニヨリテ懲役禁錮拘留ノ三種ト爲シ財產刑ヲ罰金ト科料ノ二種ニ細別セリ(舊刑法第七條乃至第九條新刑法第九條)

(三) 舊刑法ノ附加刑ハ五種ナリシカ新刑法ハ沒收ノミヲ附加刑トセリ(新刑法第九條舊刑法第十條)

(四) 新刑法ハ舊刑法ニ比シ各本條ニ規定スル本刑ノ範圍(刑期、金額ノ範圍)ヲ擴張シ各犯罪事件ニ付キ刑ヲ裁定スルニ當リ最モ適當ナル刑ヲ定メシメンコトヲ期シタリ

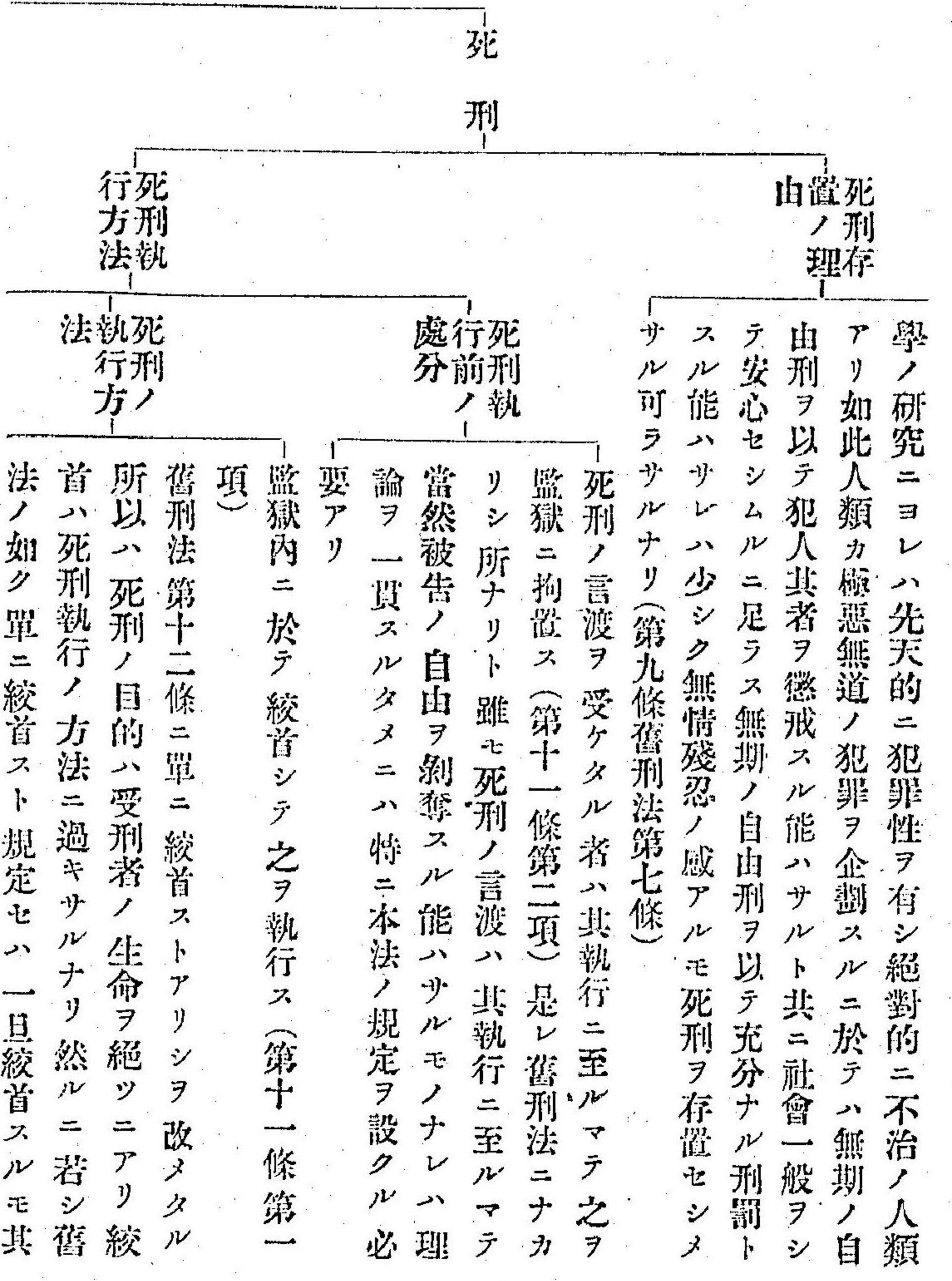
刑罰ノ目的ハ犯人其者ヲ懲治改善スルト犯人ヲ社會ヨリ隔離シ社會ノ安寧秩序ヲ維持スルニアリ然ルニ現時發達セル法律

### 修正要旨

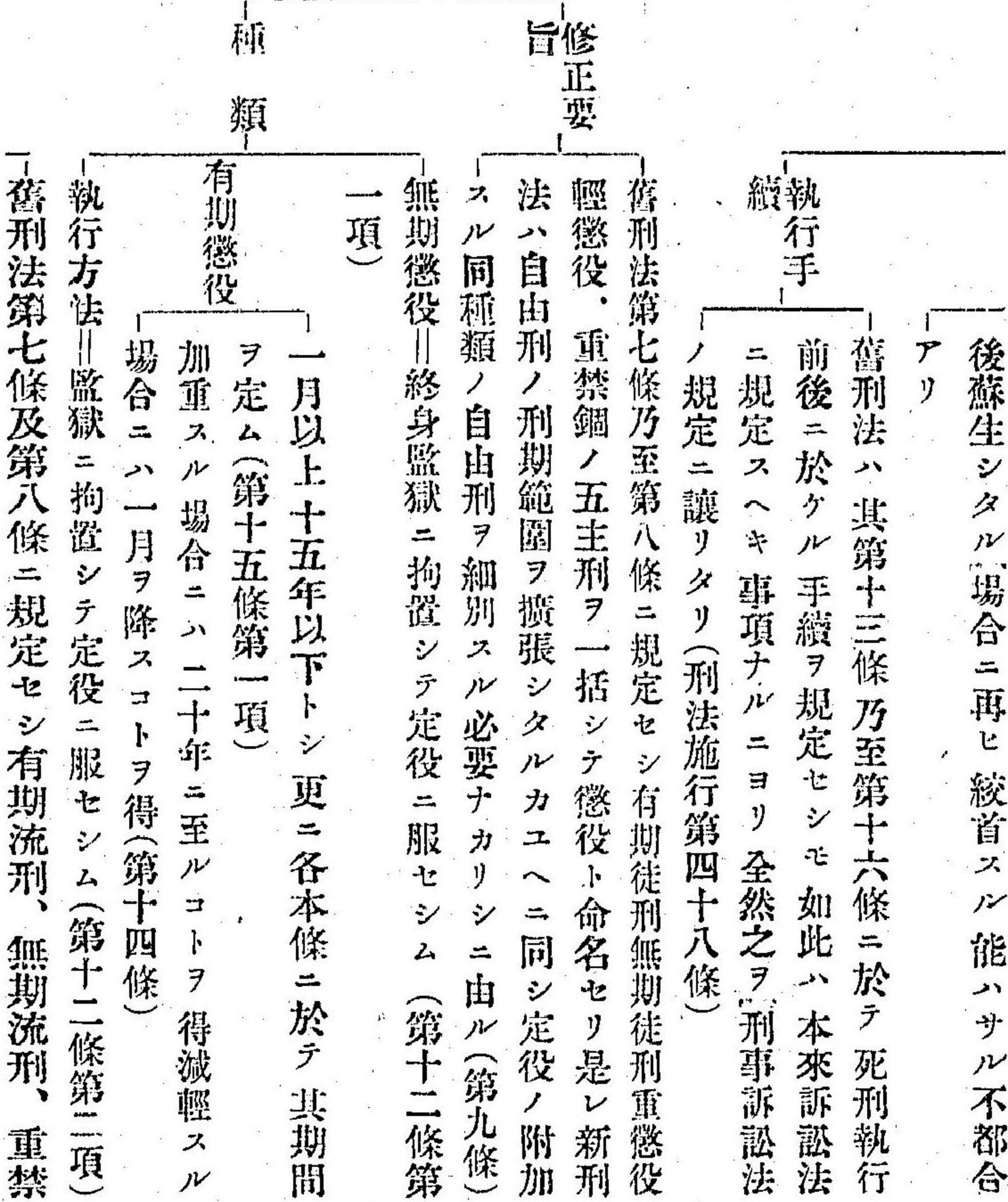
學ノ研究ニヨレハ先天的ニ犯罪性ヲ有シ絕對的ニ不治ノ人類アリ如此人類カ極惡無道ノ犯罪ヲ企劃スルニ於テハ無期ノ自由刑ヲ以テ犯人其者ヲ懲戒スル能ハサルト共ニ社會一般ヲシテ安心セシムルニ足ラス無期ノ自由刑ヲ以テ充分ナル刑罰トスル能ハサレハ少シク無情殘忍ノ感アルモ死刑ヲ存置セシメサル可ラサルナリ(第九條舊刑法第七條)

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス(第十一條第二項)是レ舊刑法ニナカリシ所ナリト雖モ死刑ノ言渡ハ其執行ニ至ルマテ當然被告ノ自由ヲ剝奪スル能ハサルモノナレハ理論ヲ一貫スルタメニハ特ニ本法ノ規定ヲ設クル必要アリ

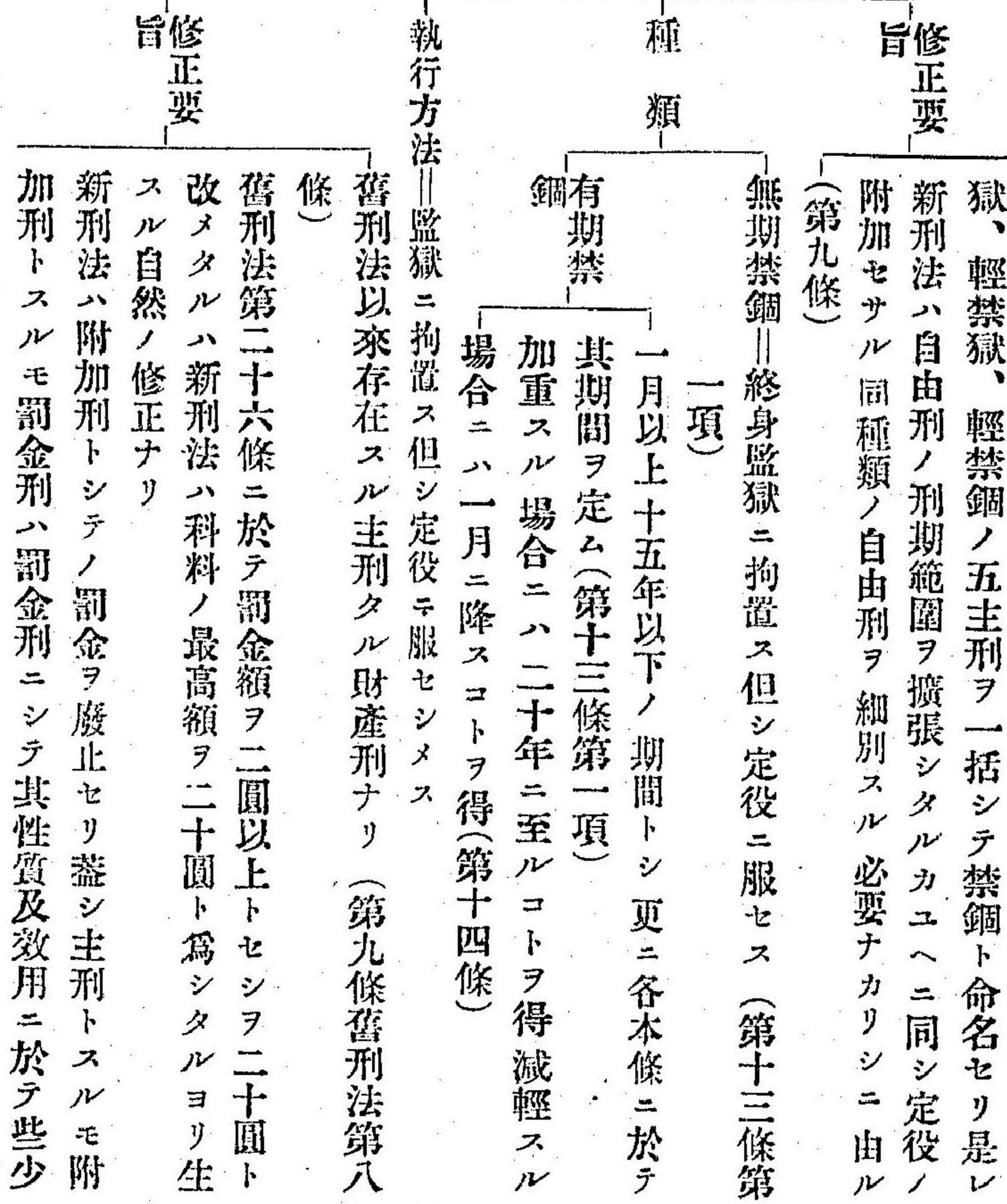
監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス(第十一條第一項)舊刑法第十二條ニ單ニ絞首ストアリシヲ改メタル所以ハ死刑ノ目的ハ受刑者ノ生命ヲ絶ツニアリ絞首ハ死刑執行ノ方法ニ過キサルナリ然ルニ若シ舊法ノ如ク單ニ絞首スト規定セハ一旦絞首スルモ其



懲役



禁錮



罰金

範圍

ノ差別ナキニ由ル  
二十圓以上トス但シ減輕スル場合ニハ二十圓以下ニ降スコトヲ得而モ尙ホ罰金刑タル性質ヲ保有セシム(第十五條舊刑法第二十六條)

強制沒收

罰金刑ノ執行ハ原則トシテ強制シテ之ヲ沒收シ完納スルコト能ハサル場合ニ限り勞役場留置ニ代フ是レ舊刑法カ罰金ヲ納付スルト否トヲ受刑者ノ自由ニ一任シタルト大ニ其趣ヲ異ニスル所ナリ(第十八條第一項舊刑法第十七條第一項)  
強制徵收方法ハ刑法施行法第五十條ニ於テ之ヲ規定セリ

(一) 罰金ヲ完納スル資力ナキトキニ限り勞役場ニ留置ス(第十八條第一項)  
舊刑法カ輕禁錮ニ代ヘタルヲ改メタルハ財産刑ノ本旨ヲ貫カンカタメナリ蓋シ罰金ノ言渡ハ之ニ依テ一定ノ金額ヲ徵收シ依テ以テ受刑者ニ苦痛ヲ與ヘンカタメナリ然ルニ唯定役ナキ自由刑(即チ輕禁錮)ニ處スルノミニハ何等ノ效果ヲ奏セス之

主刑

執行方法

勞役場留置

ヲ勞役場ニ留置シ勞役ヲ強制シ一方勤勉ノ慣習ヲ養成スルト共ニ他方ニ於テ勞務ヨリ生スル利得ヲ以テ罰金ノ幾分ニ充當セシムレハ以テ財産刑執行ノ本旨ニ幾庶ラム  
(二) 留置期間ハ一月以上一年以下トシ舊刑法第二十七條第一項ニ於テ必ス一圓ヲ一日ニ折算シタル規定ヲ改メタリ蓋シ勞役場留置ノ本旨ハ受刑者ノ性質境遇等ニ徴シ各受刑者ニ相當ノ苦痛ヲ感セシムトスルニアレハ其期間ノ如キハ抽象的ニ之ヲ一定セズ各場合ニ付キ事情ヲ斟酌シ法定ノ範圍内ニ於テ適宜ニ留置日數ヲ裁定セシムルヲ相當トスレハナリ(第十八條第一項)  
(三) 猶豫期日 舊刑法第二十七條第一項ニ於テ一箇月ノ猶豫期間ヲ與ヘタルシカ新刑法ハ三十日ノ猶豫期間ヲ與ヘタルト共ニ本人ノ承諾アレハ其期限内ト雖モ勞役場留置處分ヲ執行シ得ルモノトセリ蓋シ機宜ヲ得タル法制ナリ(第十八條第五項)  
(四) 定役手續 舊刑法ハ裁判確定後、檢事ノ請求

修正要旨

ニヨリ裁判所カ換刑處分ヲ命スルコトトナセシカ  
 新刑法ハ之ヲ改メ罰金言渡ト共ニ之ヲ完納スル能  
 ハサル場合ニ於ケル留置期間ヲ定メ豫メ之ヲ言渡  
 シ置クモノトセリ(第十八條第四項)

(五) 分納ノ許可 罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分  
 ヲ分納スルトキハ罰金金額ト留置日數ノ割合ニ從  
 ヒ納金金額ニ相當スル日數ヲ控除シ殘日數間留置  
 處分ヲ行フ(第十八條第六項)是レ舊刑法ニナカリ  
 シ規定ニシテ新刑法ノ創設ニ係ル所ノモノナリ  
 但シ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納付  
 スルコトヲ得サルモノトス

(六) 分納ノ制限 留置日數中ヨリ一日ヲ控除シ得  
 サルカニヘニ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之  
 ヲ分納スルコトヲ許サス(第十八條第七項)

舊刑法ハ違警罪ノ主刑タル自由刑ヲ拘留ト爲セシカ新刑法ハ  
 違警罪ヲ二分シ普通犯ノ性質ヲ有スルモノハ之ヲ本刑法中ニ  
 收メ警察犯ノ性質ヲ有スルモノハ警察犯處罰令(明治四十一  
 年内務省令第十六號)ニ讓リタル結果、拘留ヲ主刑トスル犯

拘留

罪ハ普通刑ノ性質ヲ有スル輕微ナル犯罪ノミニ限ラレタリ  
 (第九條舊刑法第四百二十五條乃至第四百二十九條)

執行方法 拘留場ニ拘留シ定役ニ服セシメス(第十六條、舊刑法第二十  
 八條)

期間 一月以上三十日未滿トス(第十六條舊刑法第二十八條)

修正要旨

舊刑法ハ違警罪ノ財産刑ヲ科料トセシカ新刑法ハ違警罪中普  
 通犯ノ性質ヲ有スルモノハ之ヲ本刑法中ニ收メ警察犯ノ性質  
 ヲ有スルモノハ警察犯處罰令ニ讓リタル結果、科料ヲ主刑ト  
 スル犯罪ハ普通犯ノ性質ヲ有スル輕微ナル犯罪ノミニ限ラレ  
 タリ(第九條舊刑法第四百二十五條乃至第四百二十九條)

科料

範圍 拾錢以上二十圓未滿トス(第十七條舊刑法第二十九條)

執行方法 強制徵收 強制徵收ヲ科料ノ原則的執行方法トスル理由及其  
 根據ハ罰金ノ強制徵收ニ關スル說明ニ同シ

(一) 罰金執行方法ニ關スル(一)、(四)、(五)、(六)  
 ノ說明ヲ準用ス

(二) 留置期間ハ一日以上三十日以下トス舊刑法第  
 三十條(同第二十七條)ヲ修正シタル理由ハ罰金ノ  
 執行方法ニ關スル(二)ノ說明ニ同シ(第十八條第  
 勞役場  
 留置)

二項

第五十三條第二項ノ規定ニヨリ科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス  
(第十八條第三項)

(三) 猶豫期間ハ十日トス是レ舊刑法第三十條前段ノ規定ト同一ナリト雖モ本人ノ承諾アレハ十日内ト雖モ勞役場留置處分ヲ實行シ得ル點ハ新刑法ノ創設スル所ナリ(第十八條第五項)

新刑法ハ其第六條ニ於テ法ノ輕重ヲ比照スル必要ヲ生シ又第五十四條第一項ニ於テハ刑ノ輕重ヲ比照スル必要ヲ生シ及第四十七條ニ於テハ罪ノ輕重ヲ比照スル必要ヲ生セシメタリ此等ノ比照ニ付テハ結局刑ノ輕重ノ比照ニ依ルノ外ナシ是レ茲ニ主刑ノ輕重比照法ヲ規定スルニ至レル所以ナリ

舊刑法ハ其第六十七條及第六十八條ニ於テ加減順序ヲ規定スルト同時ニ重罪ノ主刑ノ輕重ヲ間接ニ規定シタリト雖モ輕罪ノ刑ノ輕重ハ絶ヘテ之ヲ規定スル所ナク刑ノ輕重比照法トシテハ不完全タルヲ免レサリキ是レ新刑法力第十條ニ於テ主刑ノ輕重比照法ヲ明定スルニ至リシ所以ナリ

研究ノ必要

輕重比  
照法

(一) 異種ノ主刑ノ輕重ハ(1)死刑(2)懲役(3)禁錮(4)罰金(5)拘留(6)科料ノ順序ニヨル(第十條第一項前段)

(二) 無期ノ禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトス(第十條第一項但書)

(三) 有期禁錮ノ長期カ有期懲役ノ長期ニ倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス(第十條第一項但書)

(四) 異種ノ主刑ノ輕重ハ自由刑(懲役、禁錮、拘留)ニ在テハ長期ノ長キモノヲ以テ重シトシ財產刑(罰金、科料)ニ在ツテハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス(第十條第一項前段)

若シ自由刑ノ長期同一ナルトキハ短期ノ長キモノヲ以テ重シトシ又財產刑ノ多額同一ナルトキハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス(第十條第一項後段)

(五) 二箇以上ノ死刑ノ輕重、長期及短期ノ同シキ同種ノ刑ノ輕重多額及寡額ノ同シキ同種ノ刑ノ輕重ハ犯情ニ依リテ之ヲ定ム(第十條第三項)

(六) 二箇以上ノ主刑ニ輕重ナキ場合ニ其一ニ附加刑アルトキハ附加刑アルモノヲ以テ重シトス(主刑ニ輕重アルトキハ輕キ主刑ニ附加刑アルモノ主刑ノ重キモノヲ以テ重シトス)

〔七〕 二箇以上ノ主刑カ撰擇的ノモノナルトキ例ヘハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處スル場合(第百八十七條第一項)ト三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル場合(第百六十一條)ノ輕重ヲ比較スヘキトキハ後ノ刑ヲ以テ重シトスヘシ何トナレハ異種ノ主刑ノ輕重ハ第九條列記ノ順序ニヨル(第十條第一項)ヘキヲ以テ懲役ノ長期ノ長キモノハ重キ刑トナレハナリ

(備考) 前記(六)及(七)ハ法ニ明定セサル所ナリト雖モ理論上當然生スヘキ決論ナリトス

第十九條及第二十條ハ舊刑法第四十三條及第四十四條ニ該當スルモ修正シタル點少カラス左ノ如シ

(一) 舊刑法ハ沒收スヘキ場合ニハ必ラス沒收ノ言渡ヲ爲スヘキモノトセシカ新刑法ハ沒收スヘキ條件ヲ具フルモ各場合ニ付キ沒收ノ必要アルヤ否ヤヲ裁定セシメ沒收ノ必要アリト認ムル場合ニ限り沒收ノ言渡ヲ爲サシムヘキモノトセリ是レ第十九條第一項末段ニ沒收スルコトヲ得トアル所以ナリ

(二) 沒收ノ目的物ニ關シテ多少ノ修正ヲ爲セリ(沒收ノ目的物ノ部參照)

(三) 拘留科料ノミニ該ル罪ニ付テハ原則トシテ沒收ノ言渡ヲ爲サス

修正要旨

(沒收スヘキ場合ノ制限ノ部參照)

- (一) 犯罪行爲ヲ組成シタル物(第十九條第一項第一號)犯罪行爲ヲ組成シタル物トハ(イ)犯罪著手前已ニ存在スル物件ニシテ(ロ)犯罪ヲ構成スル有體物ナリ例ヘハ刑法第百七十五條ニ規定セル猥褻ノ文書販賣罪ノ場合ニ於ケル猥褻ノ文書其モノ、如シ故ニ舊刑法第四十三條第一號ニ所謂法律ニ於テ禁制シタル物件ヨリ其意義稍々狹シ結局本號ニ規定スル物及(四)ニ規定シタルモノヲ併合スレハ舊刑法ノ禁制物件ニ相當スルニ至ル
- (二) 犯罪行爲ニ供シタル物件(第十九條第一項第二號前段)是レ舊刑法第四十三條第二號ニ所謂犯罪ノ用ニ供シタル物件ト同意義ナリ
- (三) 犯罪行爲ニ供セントシタル物(第十九條第一項第二號後段)是レ舊刑法ニ見サリシ所ノ沒收物件ナリト雖モ犯罪行爲ニ供セラレ得ル能力アル物件ハ未タ犯罪行爲ニ供セサル場合ト雖モ之ヲ沒收スル必要アリ
- (四) 犯罪行爲ニ依テ生シタル物(第十九條第一項第三號前段)トハ其物ノ發生カ罪ノ構成要件タルヲ云フ例ヘハ貨幣偽造罪ノ場合ニ於ケル偽造貨幣其モノ、如シ

(一)ニ說明セシ犯罪行爲ヲ組成シタル物ト異ナル點ハ彼ハ此ヨリモ

附加刑

沒收スルコトヲ得ヘキ物

沒收ニ  
關スル  
制限

多ク(イ)ノ條件ヲ必要トスルニアリ

(五) 犯罪行為ニ因リテ得タル物(第十九條第一項第三號後段)トハ犯罪ニ依テ直接ニ得タル物件ニシテ狩獵法違反行為ニ依テ得タル鳥獸ノ如シ(舊刑法第四十二條第三號ト同意義)

(一) 物カ犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ沒收スルコトヲ得ス(第十九條第二項)換言スレハ物カ犯人ニ屬スルカ又ハ何人ニモ屬セザリシトキニ限リ之ヲ沒收スルコトヲ得是レ沒收モ一種ノ刑罰ナルカユヘニ犯人以外ノ者ニ苦痛ヲ加フ可ラサルニヨル舊刑法第四十三條ノ如ク禁制品ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ストセザリシハ如此物件ハ行政處分ニ依テ其目的ヲ達セシメントセシニ由ル

(二) 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ沒收ノ刑ヲ附加セス(第二十條)蓋シ輕微ナル主刑ニ沒收ヲ附加セハ主刑以上ノ苦痛ヲ與フルニ至レハナリ是レ舊刑法カ違警罪ニ對シテモ沒收ヲ附加シ得ル如ク規定シタルヲ修正シタル所以ナリ但シ左記二箇ノ場合ハ例外トシテ拘留又ハ科料ニ處セラルヘキ主刑ニ對シテモ沒收ヲ附加スルコトヲ得

(1) 主刑カ拘留又ハ科料ナルトキト雖モ特ニ沒收ヲ附加スヘキ明文アルトキ

未決拘  
留日數  
算入  
ノ刑期

修正要  
旨

(2) 犯罪行為ヲ組成シタル者

第二十一條ハ舊刑法第五十一條ニ於テ上訴ノ場合ニ限リ上訴カ正當ナルカ否ト検査官ノ上訴ナルカ否トノ區別ニヨリ前制ノ宣告ノ日ヨリ判決確定ニ至ル迄ノ未決拘留日數ヲ刑期ニ通算シ(保釋又責付ニ付セラレタル日數ヲ除キ)且通常ノ場合ハ拘留一日ヲ以テ刑期一日ニ充テタルヲ修正シ(1)未決拘留日數ヲ算入スルト否ト及其通算スヘキ日數ハ之ヲ裁判所ノ自由裁量ニ任シ(2)通算スル場合ニハ第一審判決以前ニ於ケル未決拘留日數ヲモ算入スルコトヲ得ヘキモノト爲シタリ

未決拘留ハ自由刑ノ執行ト其趣旨ヲ異ニスルコト勿論ナリト雖モ被拘留者ノ受クル苦痛ハ殆ント自由刑ノ執行ニ同シ故ニ若シ自由刑ノ性質如何(定役ノ有無ノ如シ)ニ依リテハ未決拘留日數ノ全數若クハ一部ヲ刑期ニ算入セサレハ犯人ニ過重ノ刑ヲ執行セシ結果ヲ生スヘシ

第三章  
期間ノ計算

修正要  
旨

舊刑法ハ其第一編第二章第五節ニ於テ刑期計算法ヲ規定セシモ刑法上、期間ヲ計算スル必要ハ刑期ノ外、時效、執行猶豫、假出獄等ノ場合ニモ之レアルニヨリ新刑法ハ茲ニ刑期計算ナル一章ヲ特設スルニ至レリ

(一) 月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス(第二十二

算刑期計

計算方

條舊刑法第四十九條第一項)

(二) 日ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ關スル規定ナキ理由如何、是レ民法第四百四十條ニ期間ヲ定ムルニ日ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ヲ算入セストアル規定ヲ適用セシムルカタメナリ蓋シ民法ノ期間計算法ハ原則トシテ諸般ノ法令ニ適用セラルヘク他ノ法令ニ特別ノ定アル場合ニノミ其法令ニ從ハシムル趣旨ナレハナリ(民法第三十八條)

然ルニ第二十四條ニ於テ刑期計算ト時効期間ハ初日ヲモ算入スト規定セルエヘ民法第四百四十條ノ日ノ計算ニ關スル原則ノ適用セラルルハ執行猶豫ト假出獄ノ場合ニ於ケル期間ノ計算ナルヘシ(舊刑法第二十四條)

(三) 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス(第二十三條第一項)舊刑法第五十一條ノ如ク刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スト爲シ正當ナル上訴アレハ後判宣告ノ日ヨリ起算スト規定スルトキハ被告人カ上訴ニ依リテ刑期計算ノ利益ヲ僥倖セシコトヲ企ツルニ至レハナリ故ニ舊刑法第五十一條ハ新刑法第二十三條第一項ニ該當スル規定ナルモ當然ノ事理ニ屬スルヲ以テ削除セリ

若シ裁判確定ノ日ニ於テ受刑者カ現ニ拘禁セラレ居ラザルトキハ刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算セス現ニ拘禁セララルルニ至リタル日ヨリ起算セサル可ラス(第十三條第二項)此規定ハ舊刑法第五十二條ト其趣旨ヲ同ウスルモノナリ

第四章 刑ノ執行猶豫

法制沿革

此制度ハ最初、條件付判決ナル名稱ヲ以テ北米合衆國ニ於テ試驗的ニ實施セラレタリシカ其結果良好ナリシタメ廣ク合衆國ノ諸州及英國ニ於テ採用セラレ其後葡萄牙、那威、瑞西聯邦、白耳義、佛蘭西諸國ニ行ハレ獨逸聯邦ニ於テハ千八百九十五年以來實施セラレ又我國ニ於テハ明治三十八年三月法律第七十號ヲ以テ九箇條ヨリ成リ立ツ刑ノ執行猶豫ニ關スル法規ヲ制定實施シ來リシカ新刑法制定ニ際シ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘ第一編第四章ニ於テ三箇條ノ規定ヲ設クルニ至レリ

制定ノ理由

或犯罪行為ニ對シ刑罰ヲ適用實施スルハ之ニ依テ犯人ニ懲戒ヲ加ヘ以テ犯罪ノ發生ヲ防止スルニアリ茲ニ一犯人アリ地位教育アリ常識ヲ具フル人ナラモ過失ニヨリ若クハ偶然ノ動機ニヨリ罪ヲ犯スニ至リシモ後來再ヒ罪ヲ犯ス虞ナシトセハ殊更刑ヲ實施シ當該官吏ノ手數ヲ増加シ同時ニ本人ノ名譽ヲ毀損シ自暴自棄ノ境遇ニ至ラシムル必要ナシ如此犯人ニハ刑ノ執行猶豫ヲ與フルヲ以テ最モ得策ナリトス

執行猶豫期間

一年以上五年以下トス(第二十五條第一項)是レ舊法ニ二年以上五年以下トアリシヲ修正シタルモノナリ(舊法第一條第一項)

(一) 犯人ノ現ニ言渡サレタル刑ノ程度ニ關スル條件ニシテ二年以下ノ懲役又



刑ノ執行  
猶豫

刑ノ執行  
猶豫ノ  
條件

ハ二年以下ト禁錮ノ言渡ヲ受ケタルモノナルコト(第二十五條第一項)是レ舊法ニ一年以下ノ禁錮トアリシヲ修正シタルモノナリ(舊法第一條第一項)

(二) 刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキ情狀アルコト(第二十五條第一項)

如何ナル情狀アレハ刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキヤニ付テハ前段制定ノ理由ヲ參照スヘシ

(三) 犯人ノ過去ニ於ケル處罰ノ有無ニ關スル條件ニシテ左ノ如シ(第二十五條)

(1) 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者(舊法第一條第一號)

(2) 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者(舊法第一條第二號)

刑ノ執行  
猶豫ノ  
取消ノ  
條件

(一) 猶豫期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(第二十六條第一號舊法第六項第一號)是レ如此場合ハ犯人ニ憫察スヘキ事情ナク刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキ第二ノ條件ヲ缺如スルモノト認ムヘケレハナリ

(二) 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(第二十六條第二號舊法第六條第五號)

(三) 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルコト(第二十六條第五號舊法第六條第四號)

刑ノ執行  
猶豫ノ  
效力

(一) 裁判確定ノ日ヨリ言渡ヲ受ケタル猶豫期間内、刑ノ執行ヲ猶豫セラル(第二十五條第一項末段舊法第一條第一項)

(二) 執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトトシテ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ(第二十七條)刑ノ言渡カ其效力ヲ失フヨリ更ニ左記二個ノ效果ヲ生ス

(1) 累犯加重ノ原因トナラス

(2) 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルモ其執行ヲ猶豫セラレ無事ニ其猶豫期間ヲ經過シタルトキハ後日二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖モ第二十五條第一號ニ所謂前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ナルヲ以テ更ニ刑ノ執行ヲ猶豫セラルヘシ

刑ノ執行猶豫ノ手續ハ刑法施行法第五十四條乃至第五十七條ニ規定セリ

第五章 假出獄

制定理  
由

刑ノ實施ハ犯人ヲ懲戒シ以テ犯罪ノ發生ヲ防止セントスルニアリ故ニ刑ノ實施後犯人ニ改悛ノ情アリ刑ノ殘期ヲ實施スル必要ナシトセハ假ニ出獄ヲ許スヘキコト刑事政策上最モ機宜ニ適スルモノト云フヘシ

修正要  
旨

新刑法第五章ハ舊刑法第一編第二章第六節ノ規定ヲ修正シタルモノナリ其修正要旨ハ各條法文ヲ比較シテ略説スヘシ

假出獄ノ手續

假出獄ノ手續

假出獄ノ手續

(一) 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者、刑ノ執行中、改悛ノ情狀顯ハレタルコト(第二十八條舊刑法第五十三條一項)此條件ヲ要スル理由ハ前段假出獄制度制定ノ理由ヲ參照スヘシ

舊刑法ハ本條件ヲ規定スルニ當リ獄則ヲ謹守シ云々トアリシモ獄則ヲ謹守スルコトハ改悛ノ狀アルコトノ證據ニ過キサレハ新刑法ハ無用ナリトシテ此文字ヲ刪除セリ

(二) 有期刑ニ付テハ其刑期ノ三分ノ一、無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタルコト(第二十八條舊刑法第五十三條一項)

受刑者ニシテ改悛ノ情アリ執行ヲ繼續スル必要ナシトセハ比較的短期ノ經過後、假出獄ヲ許スヲ可ナリトス是レ新刑法カ舊刑法ノ執行期間ヲ短縮シタル所以ナリトス

(三) 行政官廳ノ處分ヲ以テ假出獄ヲ許スコト(第二十八條後段、舊刑法第五十三條一項後段)

(備考) 舊刑法第五十七條ハ刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯ササルコトヲ以テ假出獄ヲ許ス一條件ト爲シタリシモ再犯後ト雖モ改悛ノ情アレハ假出獄ヲ許スヲ至當ト認メ新刑法ハ此種ノ規定ヲ刪除セリ

舊刑法附則第三十八條乃至第四十條ニ於テ假出獄ニ關スル手續ヲ規定シアリシカ刑法施行法ヲ以テ該法ヲ廢止シタルニヨリ明治四十一年九月十九日司法省訓

假出獄ノ取消

假出獄ノ取消

令第七號ヲ以テ假出獄及假出場ニ關スル取扱手續ヲ規定セリ

第二十九條ハ舊刑法第五十六條ニ該ルモ(1)該條ヨリモ假出獄取消原因ヲ增加シ(2)該條ト同一趣旨ノ取消原因ナル本條第一號ハ單ニ罪ヲ犯スノミナラス其罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタルコトヲ必要トシ(3)取消ノ原因アルモ舊刑法ノ如ク必ラス之ヲ取消スモノト爲サス取消スト否トノ自由ヲ殘シタリ

修正要旨

場合

(一) 假出獄中、罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

(二) 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

(三) 假出獄前、他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ其刑ノ執行ヲ爲スヘキトキ

(四) 假出獄取締規則ニ違反シタルトキ(假出獄取締規則ハ明治四十四一年九月十日司法省令第二十五號ヲ以テ規定セラル)

假出獄取消ノ效果

出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セス(第二十九條第二項、舊刑法第五十六條後段)

懲役禁錮ニ處セラレタル者ニ改悛ノ情アルトキ假出獄ヲ許ス以上ハ同シ自由刑ナル拘留ノ執行中、改悛ノ情アルトキモ等シク其執行ヲ假免セサル可カラズ

創設ノ理由

罰金科料ニ付テハ刑ノ執行猶豫ヲ與ヘサルニヨリ納完不納ノタメ勞役

假出場

種類

場ニ留置セラレタル者ニ對シテハ禁錮以上ノ刑ニ對シ執行猶豫ヲ與フルト權衡ヲ得セシムルタメ、假出場ヲ許ス必要アリ

(一) 拘留ニ處セラレタル者改悛ノ情アルトキハ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場スルコトヲ許サル(第二十條)

(二) 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニヨリ勞役場ニ留置セラレタル者、改悛ノ情アルトキハ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場スルコトヲ許サル(第二十條)

手續 假出場ニ關スル手續ハ明治四十一年九月十八日司法省訓令第七號ヲ以テ規定セラル

第六章 時 效

修正要旨

效果

第六章ハ舊刑法第一編第二章第七節ノ期滿免除ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其用語ヲ改メタルハ第一時效其モノノ本性ヲ名稱ニ現ハスヲ至當トスルノミナラス民法上ノ時效及刑事訴訟法上ノ時效(公訴時效)ト其名稱ヲ同シカラシムルヲ至當トスレハナリ時效期間ハ大體ニ於テ舊刑法ヨリ短縮セリ(第三十二條舊刑法第五十九條)

刑罰ノ執行ヲ免除セラルルニ止マリ犯罪事實及之ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル事實ハ之ヲ消滅セシムル能ハサルニヨリ假令時效ニ依テ刑ノ執行ヲ免除セラル

ルモ累犯ノ場合ニハ加重セラル(第三十一條舊刑法第五十八條)

時效ハ刑ノ言渡確定後、左ノ期間内其執行ヲ受サルニヨリテ完成ス(第三十二條舊刑法第五十九條第六十條二項三項)

一、死刑ハ三十年

二、無期ノ懲役無期ノ禁錮ハ二十年

三、有期懲役又ハ有期禁錮ニシテ十年以上ノモノハ十五年五年以上十年三年未滿ハ五年

四、罰金ハ三年

五、拘留科料沒收ハ一年

時效ハ刑ノ言渡確定後一定ノ期間執行ヲ受ケサルニ依リテ完成スルモノトセハ茲ニ其期間ノ起算點ヲ研究スル必要アリ

起算點

(甲) 對席判決ノ場合ニハ刑ノ言渡確定シタル後其執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス

舊刑法ハ明文ヲ以テ此點ニ關スル規定ヲ設ケタリシカ新刑法ハ當然自明ノ事ナリトシテ之ヲ删除セリ(舊刑法第六十一條前段)

(乙) 缺席判決ノ場合ニハ刑ヲ言渡シタル日ヨリ起算ス(刑法施行法第十七條舊刑法第六十一條後段)

時效ハ本法ニ刑ノ執行ヲ遁レタル場合ニ其執行ヲ免除スルモノナレハ法令ノ適

時 效

進行停止

用上正當ニ刑ノ執行ヲ爲ササリシ場合ハ時効期間ノ進行スヘキニ非サルヤ勿論ナリ(第三十三條)

(一) 刑ノ執行ヲ猶豫スル場合(第一編第四章)  
(二) 刑ノ執行ヲ停止スル場合左ノ如シ

(1) 假出獄假出場ノ許可アリタル時(第一編第五章)

(2) 監獄ニ於テ執行スヘキ二個以上ノ主刑アルトキハ重キモノヲ先ニス從テ輕キ刑ノ執行ハ其間停止セラル(刑事訴訟法第二百七條二項)

(3) 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者、心神喪失シタルトキハ其全癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス(刑事訴訟法第二百十八條ノ三)

(4) 死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎中ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルマテ其執行ヲ停止ス(同前)

(5) 懲役禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各項ノ一ニ該ルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止セラル

(1) 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

(2) 刑ノ執行ニヨリ生命ヲ保ツ能ハサル虞アルトキ

(3) 受胎後、七月以上ナルトキ

(4) 分娩後一月ヲ經過シタルトキ

「意義」從來經過シタル期間ヲ無効ニ歸セシメ中斷原因終了後新ニ時効期間ヲ

中斷

原因

「起算セシムルヲ云フ

(一) 刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルトキ(第三十四條第一項舊刑法第六十二條)

舊刑法ハ逮捕狀ヲ發シタルノミニヨリテ時効ヲ中斷スヘキモノト爲セシカ如此ハ時効制度ノ本旨ニ乖戾スルモノトシ新刑法ハ之ヲ削除セリ

(二) 罰金料沒收ノ時効ハ執行行爲ヲ爲シタルニヨリテ中斷ス(第三十四條第二項)

罰金料分納ノ場合ハ其分納毎ニ時効中斷スルモノトス(第十八條第六項)

是レ舊刑法ノ規定セサリシ所ナルモ刑ノ執行行爲ヲ遙レタル者ニ對スル執行行爲カ時効中斷ノ原因タルヘキハ自由刑ト財産刑トノ間ニ區別ヲ設クヘキニ非ラサレハ新刑法ハ新ニ財産刑ノ時効ニ對スル中斷原因ヲ創設スルニ至リシナリ

第七章 犯罪ノ不成立及刑ノ減免

「本章ハ舊刑法第一編第四章(不論罪及減輕)第一節(不論罪及宥恕減輕)第二節(自首減輕)及第三編第一章第三節中、正當防衛ニ關スル規定ヲ修正シタルモノ

ナリ

舊刑法ハ違法排除ノ原因アリ罪ノ成立セサル場合(七五乃至八〇、八一、八二、八三、三一四)ニモ罪アツテ刑ナキ場合(一五三、三七七、三八七、三九八)共ニ不論罪ナル名稱ヲ用ヒ名稱ニヨリテ其性質ヲ識別スル能ハサル不都合アリシヨリ新刑法ハ犯罪不成立ノ場合ニハ何何ノ行爲ハ之ヲ罰セスト規定シ罪アリテ刑ナキ場合ハ免除ト稱セリ

舊刑法第三編第一章第三節(殺傷ニ關スル宥恕及不論罪)中正當防衛ニ關スル規定(第三百十四條乃至第三百十六條)ハ修正ヲ經テ新刑法第三十六條トナレリ其修正ノ要點ハ左ノ如シ

- (1) 規定ノ位地ヲ第一編總則中ニ移シタルコト「舊刑法ハ第三編第一章第三節(殺傷ニ關スル特別宥恕及不論罪)中ニ規定シタルモ正當防衛ハ特ニ殺傷ニ限ルヘキモノニアラサレハ之ヲ總則中ニ規定シ總テ法益侵害ニ對シテ行ハルルモノナルコトヲ明ニセサル可ラス
- (2) 總テノ法益ニ對シテ正當防衛ヲ認メタルコト「舊刑法カ正當防衛ノ目的タル法益ヲ身體權、生命權、財産權、家宅權ニ限リタルハ狹キニ失ス
- (3) 正當防衛ノ制限ヲ削除シタル「舊刑法ハ第三百十四條但書ニ於テ不正ノ所爲ニヨリ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ正當防衛ニアラスト爲シ又第三百六十五條ニヨリ祖父母、父母ニ對シテ正當防衛ナシトセシモ新刑法ハ無用ノ制限ナリ

修正要旨

トシテ之ヲ削除セリ

- (4) 必要ノ程度ヲ超エタル防衛行爲ニ對シ更ニ減輕スルニ止マラス其刑ヲ全免スルコトトセリ(第二十六條第二項ニ舊刑法第三百十六條但書)又正當防衛以外ノ規定ヲ削除セシ理由ハ他ノ犯罪行爲ト同シク各本條ニ定ムル本刑ノ範圍内ニ於ケル斟酌及酌量減輕ノ適用ニヨリ相當ノ刑ヲ裁定セシメント云フニアリ
- 舊刑法第七十五條第二項ハ危難防衛ニ關スル規定ナリシモ不完全ノ點多カリシカハ新刑法ハ之ヲ修正シテ第三十七條ノ規定ヲ設ケタリ其修正セシ要點ハ大要左ノ如シ
- (1) 危難發生ノ原因ヲ天災事變ニ限ラニ人爲ヨリ生スル場合ヲモ加ヘタリ
  - (2) 防衛ノ目的タル權利ヲ自己又ハ親族ノ身體權ニ限ラス其範圍ヲ擴張シ自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ關スル權利トナセリ
  - (3) 危難防衛權ノ行使トシテ無罪タルヘキ場合ヲ制限セリ(イ)防衛行爲ヨリ生シタル害ヲ避ケントシタル害ノ程度ヲ超エタルトキハ有罪ナリ(ロ)業務上特別ノ義務アル者ノ行爲ハ危難防衛權ノ行使トナラス
  - (一) 法令ノ規定ニ基テ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス(第三十五條前段、舊刑法第七十六條)
- 法令ノ規定ニ基テ爲シタル行爲ノ罰セラレサル主ナル場合ヲ舉クレハ左ノ如

シ(1)公務ノ執行(2)法令及慣習ニ基ク懲戒權ノ行使(3)刑事訴訟法第六十條ノ規定ニヨル現行犯人ノ逮捕等ナリ(以上三場合ハ理論第一章第三節ノ說明中ニ詳説ス參照スヘシ)

舊刑法ハ其第七十六條ニ於テ本廳長官ノ命令ニ從ヒ職務ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テノミ規定スト雖モ狹ニシタルニヨリ新刑法ハ抽象的ニ規定シ其應用ノ普カランコトヲ期シタリ

(二) 正當ノ業務ニヨリテ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス(第二十五條後段)

正當ナル業務ニヨリテ爲シタル行爲ヲ罰セラレサル場合ハ(1)治療ノ目的ヲ以テ爲ス行爲(2)相撲、擊劍等正當ナル業務ノ執行等ナリ(以上(1)及(2)ニ付テハ理論第一章第三節中ニ於テ詳説セリ)

舊刑法ニハ明文ヲ以テ之ヲ規定セラレサリシモ其解釋論トシテ本場合カ無罪タリシコトハ衆說ノ一致スル所ナリシモ新刑法ハ之ヲ明定シテ一點ノ疑ナカラシメンコトヲ期シタリ

(三) 正當防衛(第三十六條、舊刑法第二百十四條乃至第三百十六條)

切迫セル所ノ不法ナル攻撃ニヨリ法益ヲ侵害セラレントスルニ際シ自己又ハ他人ノ權利(諸種ノ權利ニシテ生命權身體權財產權ニ限ラス)ヲ防衛スルタメ止ムコトヲ得スシテ攻撃者ノ法益ヲ侵害シタル行爲ハ之ヲ罰セス(第三十六條第一項)

違法條  
件ノ基  
欠ニ基  
ク場合

但シ防衛ニ必要ナル程度ヲ超過シタル行爲ハ本來正當防衛ニアラサルモ防衛行爲ヲ爲セシ當時ノ情狀ニヨリ其刑ヲ減輕セラレ又ハ其刑ヲ免除スルコトヲ得(第三十六條第二項)

(四) 危難防衛(第三十七條、舊刑法第七十五條第二項)

自己又ハ他人ノ生命、身體、自由、財產ニ對スル現在ノ危難(人爲ヨリ生スト人爲以外ノ勢力ヨリ成ルトヲ問ハス)ヲ避クルタメ止ムコトヲ得スシテ他人ノ法益ヲ侵害スルコトヲ危難防衛ト云ヒ(不法ナル攻撃者ノ法益ヲ侵害スルニアラスシテ適法ノ狀態ニアル人ノ權利ヲ侵害スル點カ正當防衛ト區別セラルル點ナリ)其行爲ヨリ生シタル害カ其避ケントスル害ノ程度ヲ超エサル場合ニハ之ヲ罰セス(第三十七條舊刑法第七十五條第二項)其行爲ヨリ生シタル害カ避ケントスル害ノ程度ヲ超ユルトキハ罪トシテ之ヲ罰スルモ情狀ニヨリ其刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得(第三十七條但書)

以上二項ニ規定スル所ハ業務上特別ノ義務アルモノ(他人ノ身體、生命、自由財產ヲ保護スル職務上ノ義務アルモノニシテ例ヘハ警察官吏、軍刑法ニ於ケル軍人水夫規則ニ於ケル水夫ノ如シ)ニハ適用セス(第三十七條第二項)

(五) 被害者ノ承諾ニ基ク行爲

(六) 自己ノ法益ヲ毀損スル行爲

以上二場合ハ新法上明定セサル所ナリト雖モ理論上、違法排除ノ原因トナリ

犯罪ノ  
成立ノ  
不成立  
及刑ノ  
減免

罪トシテ處罰スヘキモノニアラス詳細ノ説明ハ理論第一章第三節ニアリ  
 罪ヲ犯ス意ナキ所爲ハ之ヲ罰セス(第三十八條第一項前段、舊刑法第七十七條第一項前段)是レ犯罪成立ノ一條件タル故意ヲ缺クニ基ク無罪行爲ナリ  
 罪ヲ犯ス意思アル行爲ナルヤ否ヤニ付キ多少ノ疑義アリ特ニ説明ヲ要スル場合アリ

故意ノ  
 缺欠ニ  
 基ク場  
 合

1) 本來重キ罪ナルモ犯ストキ之ヲ知ラサリシトキハ其重キ部分ニ付テハ罪ヲ犯ス意思ナキモノナリ隨テ其重ニ從テ處斷スルコトヲ得ス(第三十八條第二項舊刑法第七十七條第三項)

(2) 罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ之ヲ行ヒシ者ハ罪ヲ犯ス意ナシト云フコトヲ得ルモ法律ヲ知ラスシテ行ヒタル行爲ハ罪ヲ犯ス意ナキモノト云フコトヲ得ス隨テ普通ノ犯罪行爲同様、之ヲ處罰セサル可ラサルコト勿論ナルモ情狀ニヨリテ其刑ヲ減輕セラルルコトアリ(第三十八條第三項、舊刑法第七十七條第四項)

(3) 罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ罪ヲ犯ス意ナキモノナリ雖然此場合ハ些少ノ疑ナキヲ以テ新刑法ハ規定ノ必要ナシトシテ之ヲ削除セリ(舊刑法第七十七條第二項)

(一) 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス(第三十九條第一項、舊刑法第七十八條)心神喪失者トハ精神作用ニ障礙アリ意思カ規則正シク決定セラレサル者ニシ

責任能  
 カヲ缺  
 クニ基  
 ク場合

テ知覺精神ノ喪失者ハ無論心神喪失者ニシテ又知覺精神ヲ喪失セハ是非ヲ辨別セサルコト勿論ナルニヨリ新舊法規定ノ精神ト相同シト雖モ新刑法ハ民法ト一致セシムルタメ字句ヲ修正シ且抽象的ニ規定ヲ立テタリ

(二) 心神耗弱者ノ行爲ハ罪トシテ之ヲ罰スルモ其刑ヲ減輕ス(第三十九條第二項)

心神耗弱者トハ精神ノ活動力(殊ニ是非ヲ辨別シ利害得失ヲ判斷スル力)カ普通人ヨリ劣等ナルモノヲ云フ

心神耗弱者ニ關スル規定ハ舊刑法ニ存セサリシ所ナリト雖モ心神喪失者ノ行爲ノ無罪トスル以上ハ心神耗弱者ノ行爲ハ有罪トシテ刑ヲ減輕スル必要アル(民法上心神喪失者ノ行爲カ無効ニシテ心神耗弱者ノ行爲カ取消シ得ヘキト同シク)ニヨリ新刑法ハ之ヲ創設セリ

(三) 瘖啞者ニシテ精神作用ノ不完全ナル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス(第四十條前段舊刑法第八十二條)

瘖啞者ト雖モ教育感化其他ノ原因ニ依リ智能充分發達シ其精神作用普通人ニ異ナラサル者ノ行爲ハ之ヲ罰シ唯其刑ヲ減輕ス(第四十條後段)是レ舊刑法ノ規定セサリシ所ナリシモ瘖啞教育ノ發達シタル今日、瘖啞者ト雖モ完全ナル智能ヲ有スル者アリ如此者ノ行爲ヲ全然無罪トスルハ失當ナルコト勿論ナレハ新刑法ハ此點ニ關スル規定ヲ創設セリ

「(四) 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス(第四十一條)  
 舊刑法ハ第七十九條乃至第八十一條及第八十三條ニ於テ刑事責任能力ニ關シ  
 四期ノ區別ヲ爲シ時機ニ應シテ不論罪又ハ宥恕減輕ノ細別ヲ爲シタルモ緻密ニ  
 過キテ煩雜ニ渉ル傾アリシヨリ新刑法ハ之ヲ修正シ十四歳ヲ境界トシ責任ノ  
 有無ヲ區別セリ

自首減輕ノ規定ヲ總テノ犯罪ニ及ホシタルコト蓋シ刑事政策上、犯罪  
 ノ發覺ヲ促ス目的ヲ以テ自首減輕ノ規定ヲ設クル以上ハ舊刑法ノ如ク  
 謀故殺罪ヲ除外スル理由ナシ(舊刑法第八十五號但書)

自首者ニ對シ減輕スルト否トヲ事實裁判官ノ裁量ニ一任セリ舊刑法  
 (第八十五條)ノ如ク自首者ニ對シ必ラス減輕ヲ與フルハ自首減輕制度  
 設定ノ本旨ニ背クモノナレハナリ

財罪ニ對スル罪ニ關スル自首ノ特例(舊刑法第八十六條第八十七條)ヲ  
 全廢セリ蓋シ自首減輕ノ制度ヲ設定スルニ於テ財產ニ對スル罪ナルト  
 其他ノ犯罪ナルトニヨリ區別ヲ設クヘキ理由ナケレハナリ

親告罪ニ於ケル告訴權者ニ對スル首服ニ關スル規定ヲ創設セリ  
 減輕ノ程度ハ一般減輕ノ規定タル第六十八條ニ依ルコトトシ各場合ニ  
 付キ減輕ノ程度ヲ明定セス

(一) 犯罪後、犯人ノ誰タルコトカ犯罪捜査ノ權アル官廳ニ發覺セサ

自首減輕

修正要旨

場合

ル前、犯人自ラ進ンテ其犯罪事實ヲ申告スルトキハ其刑ヲ減輕セラ  
 ル(第四十二條第一項、舊刑法第八十五條)

(二) 親告罪ノ場合ニ告訴權者ニ首服シタル者ハ自首ト同シク其刑ヲ  
 減輕セラル(第四十二條第二項)

親告罪ハ檢事カ告訴ヲ提起實行スル前提條件トシテ被害者ノ告訴ヲ  
 俟ツ(被害者ノ利益ヲ保護セシムルタメ)モノナレハ犯罪發覺ヲ容易  
 ナラシムル點ニ於テ告訴權者(主トシテ被害者)ニ對スル首服ハ犯罪  
 捜査ノ職權アル官廳ニ自首スルト同様ナリ是レ新刑法カ告訴權者ニ  
 對スル首服ニ對シ自首同様ノ減輕ヲ與フルコトトナセシ所以ナリ

第八章 未遂罪

豫備陰謀ニ關スル舊刑法第一百一條ノ規定ヲ削除シタリ是レ明文ヲ要セサル當  
 然ノ事ト爲シタルニヨル蓋シ豫備陰謀ヲ處罰スルハ刑法上例外ノ現象ナリ例外  
 ノ現象ナルニヨリ之ヲ處罰スルニハ常ニ明文ヲ要ス此理論ニ基キ新刑法上犯罪  
 ノ豫備陰謀ヲ處罰スルコトヲ規定セシ場合ハ第七十三條第七十五條第七十八條  
 第八十八條第九十三條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條  
 未遂罪ハ必ラス減輕セス減輕スルト否トハ事實裁判官ノ自由裁量ニ一任シタリ  
 是レ新刑法カ未遂罪ヲ處罰スル理由ハ客觀的方面ヨリ觀察シタル危險(法益ノ



修正要旨

侵害)ヨリハ主觀的方面ヨリ觀察シタル危險(犯人ノ危險ナル性質)ニ重キヲ置キタルカユヘナリ  
未遂罪ノ種別(著手未遂犯ト實行未遂犯)ヲ廢シタリ是實益ナキカ爲メナリ  
中止犯ヲ處罰スルコト「舊刑法ノ如ク中止犯ヲ不問ニ附スルトキハ一方ニ於テ犯罪行爲ノ中止ヲ促ス利益アリト雖モ他方ニ於テ犯罪ノ實行ヲ促スノ不利益アリ此不利ヲ防止スル必要ハ前記ノ利益ヲ促ス必要ヨリ大ナリト爲シ中止犯ヲ處罰スルコトトセリ

未遂罪

意義

罪ヲ犯ス意ヲ以テ犯罪ノ實行ニ著手シタルモ犯人ノ意思ニ基カサル故障ニヨリ犯罪行爲ヲ終了セス若クハ犯罪ノ要素タル結果ヲ發生セサル者ハ未遂罪トシ其刑ヲ減輕スルコトヲ得(第四十二條前段舊刑法第百十二條第百十三條)  
罪ヲ犯ス意ヲ以テ犯罪ノ實行ニ著手シタルモ犯人自己ノ意思ニヨリ犯罪行爲ヲ中止シタルトキハ中止犯トシテ其罪ヲ減輕シ又ハ免除ス(第四十三條但書)  
各本條ニ於テ未遂罪ヲ處罰スヘク明定シタル場合ニ限り之ヲ處罰ス(第四十四條)  
是レ舊刑法第百三十條ニ對スル修正ニシテ新刑法カ重罪輕罪違警罪ノ種別ヲ廢止シタルニ伴フ當然ノ修正ナリトス

未遂罪ヲ處罰スル場合

第九章 併合罪

名稱ヲ改メタル理由

併合罪

意義

舊刑法ハ數罪俱發ト稱セシモ數罪カ裁判確定前ニ俱發スルコトヲ必要トセス一罪ニ對スル裁判確定後餘罪ノ發覺シタル場合ヲ包含セシメタルヲ以テ名實相副ハス故ニ一定ノ條件ニ該當スル所ノ獨立セル數罪ニ對シテ刑ノ適用ニ關シ特別ノ處分ヲ爲スニハ併合罪ト稱スルヲ妥當トス(舊刑法第百條乃至第百二條)  
確定裁判ヲ經サル數罪ノ關係及確定裁判ヲ經タル罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トノ關係ヲ併合罪ト稱シ刑罰ノ適用ニ關シ特別ノ處分ヲ爲ス  
刑罰適用ニ關スル特別處分トハ原則トシテ制限併科主義(新刑法第四十七條第四十八條第二項)ヲ採リ例外トシテ吸收主義(新刑法第四十六條)及併科主義(新刑法第四十六條第二項但書、第四十八條第一項、第四十九條第二項)ヲ採用スルヲ云フ是レ舊刑法カ原則トシテ吸收主義ヲ採リ(第百條)違警罪ノミノ俱發シタル場合ニ限り併科主義ヲ採リタル(第百一條)ト大ニ其趣ヲ異ニスル所ナリ

併合罪中、其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ刑ノ長期トス(併科)ルモ各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノヲ超ユルコトヲ許サス(制限)例ヘハ十年以下ノ懲役(第百三十八條)ト三年以下ノ懲役(第百三十九條)トノ併合罪ニ付テハ十

制限併科主義

年二十年ノ半数即チ五年ヲ加ヘタル十五年ヲ以テ此併合罪ノ長期ト爲  
スモ十三年(各刑ノ長期十年ト三年トノ合算シタルモノ)ヲ超ユルヲ以  
テ十三年以下ニ於テ此併合罪ノ長期ヲ定メサル可ラサルカ如シ(第四  
十七條)

有期懲役ト有期禁錮トノ併合罪  
有期懲役ト拘留トノ併合罪  
有期禁錮ト拘留トノ併合罪  
第四十七條ノ解釋論ニシテ第四十  
六條第四十八條第四十九條ノ規定  
ヲ制限的ニ解釋シタル決論ナリ

併科主義

併合罪ヲ組成スル所ノ各罪ニ對スル刑ヲ併セ科スルヲ云フ  
罰金ト懲役(有期又ハ無期ノ)禁錮(有期又ハ無期ノ)拘留、科料トノ併  
合罪(第四十八條第一項)  
拘留ト懲役(有期又ハ無期ノ)、禁錮(有期又ハ無期ノ)、拘留、科料ト  
ノ併合罪(第五十三條第一項及第二項)  
科料ト懲役、(有期又ハ無期ノ)禁錮(有期又ハ無期ノ)拘留、科料トノ  
併合罪(第五十三條第一項及第二項)  
沒收ト死刑、懲役(有期又ハ無期ノ)禁錮(有期又ハ無期ノ)拘留、科料  
沒收トノ併合罪(第四十九條)  
(備考) 二個以上ノ罰金ハ併科主義ニアラス何トナレハ各罪ニ付キ定  
メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ罰金額ヲ量定スヘキモノナレハ(例

併合罪ノ處罰方法

吸收主義

併合罪中ノ一罪カ死刑又ハ無期懲役、無期禁錮ニ處セラルヘキ時ハ原  
則トシテ他ノ刑ヲ科セス(死刑ニ對スル沒收、懲役禁錮ニ對スル罰金  
科料ハ例外ナリ)他ノ罪ニ對スル刑ハ死刑又ハ無期懲役、無期禁錮ノ  
刑ノ内ニ吸收セシメラルモノヲ云フ  
死刑ヲ科スヘキ罪ト死刑、懲役(無期又ハ有期ノ)禁錮(無期又ハ有期  
ノ)罰金、拘留、科料ヲ科スヘキ罪ト併合罪トナルトキハ單ニ死刑ノ  
ミヲ科ス但シ死刑ト沒收トハ併科セラル(第四十六條第一項)  
無期懲役ヲ科スヘキ罪ト懲役(有期又ハ無期ノ)禁錮(無期又ハ有期ノ)  
拘留ヲ科スヘキ罪ト併合罪トナルトキハ單ニ無期懲役ノミヲ科ス但  
シ罰金科料、沒收ト無期懲役トハ之ヲ併科ス(第四十六條第二項)  
無期禁錮ヲ科スヘキ罪ト懲役(有期又ハ無期ノ)禁錮(有期又ハ無期ノ)  
拘留ヲ科スヘキ罪ト併合罪ニ付テハ無期禁錮ノミヲ科ス但シ罰金  
科料、沒收ト無期禁錮トハ之ヲ併科ス(第四十六條第二項)

第五十條

併合罪ノ處罰方法ニ

第五十條

併合罪中、確定裁判ヲ經タルモノト經サルモノトアル場合ノ處罰方法（第五十條）

二罪ヨリ成立スル併合罪中ノ一罪ニ對シ已ニ確定裁判アリタルトキハ未タ裁判ヲ經サル罪ニ付キ更ニ刑ヲ言渡ス其結果トシテ二罪ニ對シ各其刑ヲ執行スルコトトナル

三罪以上ヨリ成立スル併合罪中ノ一罪ニ付キ已ニ確定判決アリタルトキハ未タ裁判ヲ經サル二罪以上ノ併合罪ニ付テハ第四十六條乃至五十條及第五十三條ニ規定セル併合罪ニ關スル處罰方法ヲ適用ス

併合罪ニ付キ二箇以上ノ確定裁判アリタル場合ノ處罰方法（第五十一條）

如此場  
合ノ發  
生スル  
所以

確定裁判アリタル罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヨリ成立スル併合罪（第四十五條後段）ニ付テ其未タ裁判ヲ經サル罪ニ對シ後日裁判ヲ爲ストキハ一併合罪ニ付キ茲ニ二箇以上ノ確定裁判アルニ至ル

以下四箇ノ場合ニ該當セサルトキハ各裁判ニ依テ言渡サレタル刑ヲ併科執行ス

(1) 第一ノ裁判ニ依リテ言渡サレタル刑カ死刑ナルトキハ沒收ヲ除クノ外他ノ刑ヲ執行セス（吸收主義）

(2) 一ノ裁判ニ依リテ言渡サレタル刑カ無期懲役ナルトキハ罰金、科料、沒收ヲ除クノ外他ノ刑ヲ科セス（吸收主義）

關スル變例

第五十條

注意

本條ニ規定セル刑ノ執行方法ハ併合罪ノ處罰方法ト同一ナリト雖モ併合罪其モノニ關スル處罰方法ノ規定ニアラサルナリ

併合罪中ノ一罪ニ付キ大赦アリタル場合ノ處罰方法

(一) 併合罪トシテ併合刑又ハ吸收刑ヲ以テ處罰セラレタル後其罪ニ付キ大赦アリタル場合（第五十二條）

大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ更ニ刑ヲ定ム（理由）大赦ハ其效力トシテ或種類ノ罪ニ對シ確定判決ノ效力ヲ消滅セシムルモノナレハ前ニ言渡サレタル單一ナル併合刑又ハ吸收刑ハ消滅スルニヨリ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ更ニ刑ヲ定ムル必要アルナリ

(二) 併合罪中ノ或罪カ裁判確定前ニ大赦ヲ受ケタル場合（是レ本法中ニ規定セサル所ナリト雖モ理論上想像シ得ラルル場合ナリ）

大赦ハ其效力トシテ公訴權ヲ消滅セシムルモノナレハ大赦ヲ受ケタル罪ニ付テハ最早之ヲ處罰スルコトヲ得サルニヨリ之ヲ併合罪ヨリ除去シ殘餘ノ犯罪

ノミニ對シテ刑ヲ定ムヘキモノトス  
 以下規定スル所ノ三箇ノ場合ハ併合罪ニアラサルコト勿論ナリト雖モ其處罰方法ニ付テハ併合罪ノ處罰方法ニ類似スル所アルニヨリ併合罪ノ章中ニ規定シタルニヨリ本書ニ於テモ之ヲ併合罪ノ説明ニ次テ茲ニ之ヲ敘述スルコトト爲シヌ

意義	性質	處斷方	法律ノ競合
<p>法律ノ競合トハ一犯罪行爲カ數箇ノ罪名ニ觸ルルヲ云ヒ佛蘭西學派ノ所謂想像上ノ數罪俱發ナリ(第五十四條第一項前段)</p> <p>一行爲カ數箇ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪ナリヤ數罪ナリヤハ本條ノ解釋ニ關シ必ラス發生スル一大疑問ナリ此疑問ハ一罪數罪ヲ區別スル標準如何ニヨリテ其論決ヲ異ニス(理論第三章一罪數罪ヲ區別スル標準參照)予輩ハ行爲標準說ヲ採用スル結果、一罪ナリト論定スルモノナリ若シ此場合ヲ數罪ナリト論定シ得ヘクンハ純然タル併合罪ニシテ特ニ本條ヲ設ケテ其處斷方法ヲ規定スル必要ナカルヘシ</p>	<p>(一) 違犯セラレタル數箇ノ法律中、其行爲ノ各方面ヲ總括スルモノアルトキハ常ニ其法規ヲ適用スヘキコト殆ント學說ノ一致スル所ナリ</p> <p>(二) 前項ノ規定ニ依リ難キトキハ重キ刑ヲ科スル法律ニ依テ處斷ス是レ第五十四條第一項末段ノ規定スル所ナリ</p> <p>但シ沒收ハ併科ノ原理(第四十九條第二項)ニヨリ重キ刑ヲ科スル法</p>	<p>法律ノ競合ノ場合</p>	<p>法律上數行爲ヲ併合シテ一罪ト爲ス</p>

併合罪ノ類似方  
 處斷方  
 法律上數行爲ヲ併合シテ一罪ト爲ス

法律ノ競合ノ結果	場合
<p>法律ノ競合ノ結果</p> <p>(一) 一度其行爲ニ對シ公訴ヲ提起シタル以上ハ更ニ他ノ罪名ニ觸ルルコトヲ理由トスルモ再ヒ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス</p> <p>(二) 此一犯行爲ニ對スル公訴時効ノ期間ハ何レノ罪名ニ關シテモ行爲ノ時ヨリ同時ニ始マリ同時ニ終了ス</p> <p>或犯罪ノ手段タル行爲カ他ノ罪名ニ觸ルルトキ例ヘハ屋內竊盜ノ手段タル邸宅侵入ノ所爲カ住居ヲ侵ス罪トナルカ如シ</p> <p>或犯罪ノ結果カ他ノ罪名ニ觸ルル場合例ヘハ竊盜犯者ノ贓物ヲ賣却シタル場合ノ如シ(以上第五十四條第一項)</p> <p>結合犯ニ結合犯トハ二以上ノ行爲カ獨立シテ別箇ノ法益ヲ侵シ多數ノ不法行爲ト爲リ得ヘキ時法律カ特ニ合シテ一罪ト爲スモノニシテ例ヘハ強盜殺傷罪及強盜強姦罪ノ如シ</p> <p>慣行犯ハ慣行犯トハ常業又ハ常習トシテ或行爲ヲ爲スコトヲ罪トスルモノニシテ例ヘハ舊刑法ニアリシ私醫業罪(三五六)又新刑法第百八十六條ニ規定スル所ノ常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲ス罪ノ如シ</p> <p>(備考) 結合犯ト慣行犯ニ關シテハ第五十四條第一項ニ規定セザル</p>	<p>法律上數行爲ヲ併合シテ一罪ト爲ス</p>

ト爲ス  
場合

所ナリト雖モ法律上數箇ノ犯罪行爲ヲ合シ一罪トナスモノニシテ  
前二場合ト同シク數箇ノ罪名中重キ刑ヲ加フル法規ニヨリ處斷セ  
ラルルコト勿論ナリトス

處斷方  
法

數箇ノ罪名ヲ規定スル法規中最モ重キ刑ヲ科スル法律ニ依テ處斷ス  
(第五十四條第一項)

沒收ハ併科ノ原理(第四十九條第二項)ニヨリ各罪名ヲ規定スル法律ニ  
沒收ノ規定アルトキハ各之ヲ適用ス(第五十四條第二項)

數箇ノ犯罪行爲ヨリ成立スル一罪ナリ

犯罪行爲カ數多ナル以上ハ數罪ヲ成立セシムヘキモノナルニ拘ハラズ  
(理論第三章一罪數罪ヲ區別スル標準參照)之ヲ一罪トナスハ其行爲ノ

性質カ同一ナルニヨリ性質ノ同一ナルヲ理由トシテ數多ノ行爲ヲ一ニ  
連續スルハ總テノ行爲カ同一ノ法益ヲ侵害スルモノニシテ而モ同種ノ

方法ヲ以テ實行セララルルニ由ル  
同種ノ方法ヲ以テ同一法益ヲ侵害スルヨリ生スル一罪ヲ成立セシムル  
モノナルニヨリ其罪名相當ノ刑ヲ科スレハ足ル

立法論トシテハ一連續犯ニ對シテハ特ニ刑ヲ加重スル規定ヲ設クルヲ  
可トス連續犯ニ似テ非ナルモノハ繼續犯ナリ。繼續犯ハ一結果ヲ發生  
スル所ノ數多ノ行動カ間斷ナク繼續スル狀態ナリ行動カ數多ナルモ結

連續犯

性質

處斷方  
法

果ハ單一ナルニヨリ之ヨリ發生スル所ノ行爲ハ一箇ナリ故ニ繼續犯ヲ  
一罪トスルハ一行爲一罪ノ原則ニ從フモノニシテ數行爲ヨリ一罪ノ成  
立スル連續犯トハ大ニ其趣ヲ異ニス

### 第十章 累犯

名稱改正  
ノ理由

舊刑法ハ再犯ト稱シタルモ斯クテハ三犯以上ノ場合ヲ指稱スル名稱トシテ不  
穩當ナリ是レ新刑法カ累犯ト改メタル所以ナリ(舊刑法第一編第五章參照)

意義

再犯ヲ以テ論スヘキ左記數箇ノ場合及同上三犯以上ノ場合ニ其罪ニ付キ定メタ  
ル懲役ノ長期ノ二倍以下ノ期間内ニ於ケル刑期ヲ以テ(普通ノ場合ヨリ加重シ  
テ)處罰セララルヘキ狀態ナリ(舊刑法第九十一條乃至第九十二條)

(一) 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リタル日ヨリ五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シ  
(註一)有期懲役ニ處セララルヘキトキ(第五十六條第一項)

(二) 懲役ニ處セラレタル者、執行ノ免除(註二)アリタル日ヨリ五年内ニ再ヒ  
ルヲ犯シ有期懲役ニ處セララルヘキトキ(第五十六條第一項)

(三) 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪(註三)ニヨリ死刑ニ處セラレタル者、其執行ヲ  
終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス  
ヘキトキ(第五十六條第二項)

(四) 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニヨリ死刑ニ處セラレタル者、減輕ニ依リ懲役

再犯ヲ  
以テ論  
スヘキ

場合

ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處スヘキトキ(第五十六條第二項)

(備考)併合罪中、懲役ニ處セラルヘキ罪アリタルモ死刑ニ吸收セラレ(第四十六條第一項)又ハ無期ノ禁錮ニ吸收セラレ(第四十六條第二項)タル等ニテ懲役ノ刑ニハ處セラレザリシモ前記四箇ノ場合ニ所謂、懲役ニ該ル罪ト爲シ再犯例ノ規定ヲ適用ス(第五十七條第三項)

(備考)三犯以上ノ場合ト雖モ再犯ノ例ニ同シ(第五十九條)

(註一) 五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シ是レ新刑法ノ創設セル累犯ノ時効ニシテ舊刑法ノ如ク確定裁判ニヨリ刑ヲ科セラレタル後ハ幾年後ニ罪ヲ犯スモ常ニ再犯トシテ加重處分ヲ爲ストキハ刑法力再犯加重ノ制ヲ設ケ累犯ノ發生ヲ防止セントスル本旨ニ乖負スル恐アリ(舊刑法第九十三條)

(註二) 執行ノ免除トハ特赦又ハ時効ニヨル刑ノ執行ノ免除ヲ指稱ス新刑法第三十六條第二項、同第三十七條末段、同第四十三條但書ニアルカ如キ法律ノ規定ニヨリ刑ヲ科スルコトヲ免除スル場合ヲ含マス

(註三) 懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪トハ第二編以下ノ各本條ニ於テ(1)死刑ノ外ニ撰擇刑トシテ懲役ノ刑ヲ規定シタル罪(例、第八十二條第二項、第八十三條、第八十五條、第八八條等)及(2)單ニ死刑ニ處スヘキコトヲ規定スルモ減輕シテ懲役ニ處スルコトヲ得ヘキ罪(例第七十五條、第八十二條)ヲ

累犯

云フ

再犯ヲ理由トシテ刑ヲ加重スル程度ハ再犯ノ罪ニ對スル懲役ノ長期ヲ二倍シタル範圍内ニ於テ裁定ス例ヘハ再犯力竊盜ナルトキハ其長期十年(第三三五條)ヲ二倍シタル二十年ノ範圍内ニ於テ犯情ニ相當スル期間ヲ定ムルカ如シ

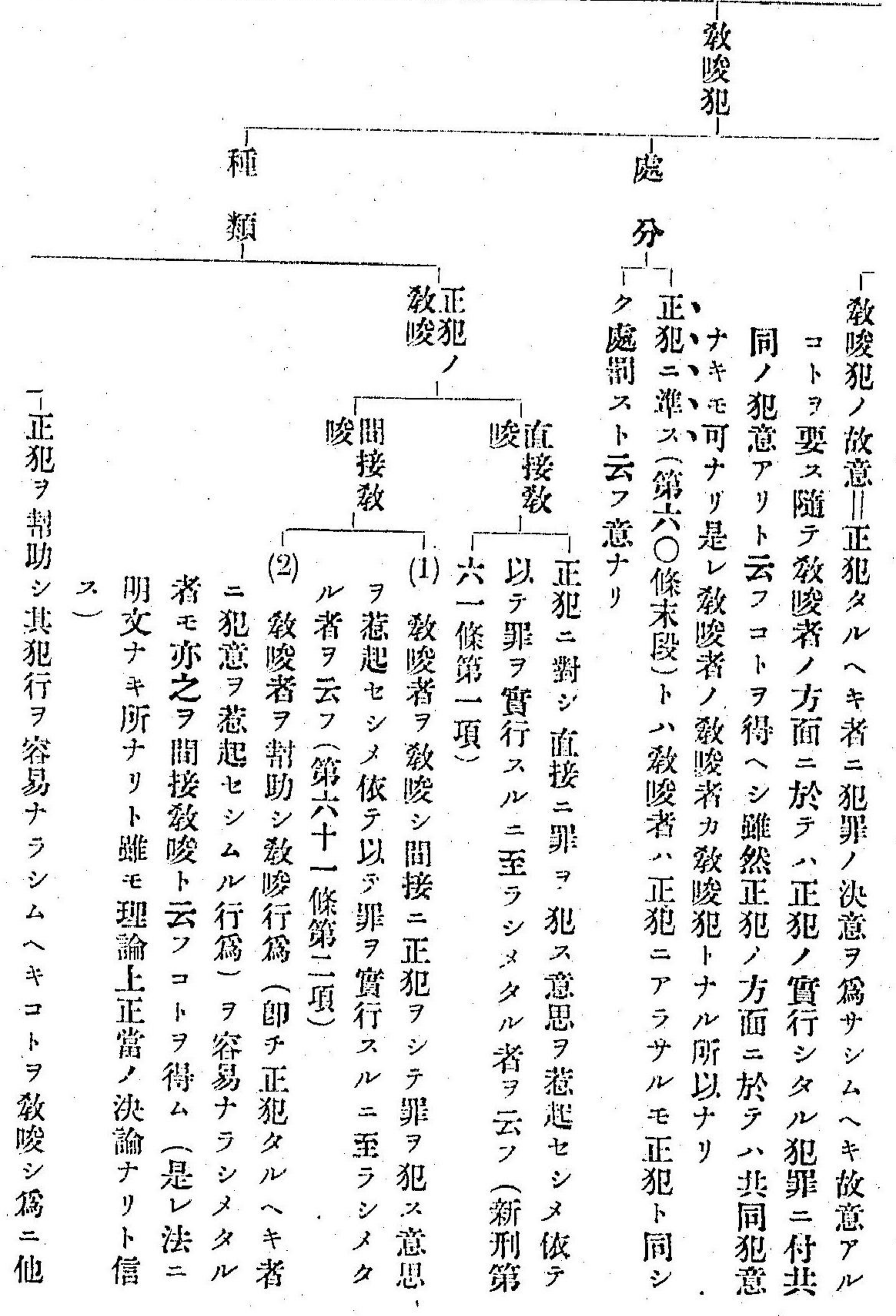
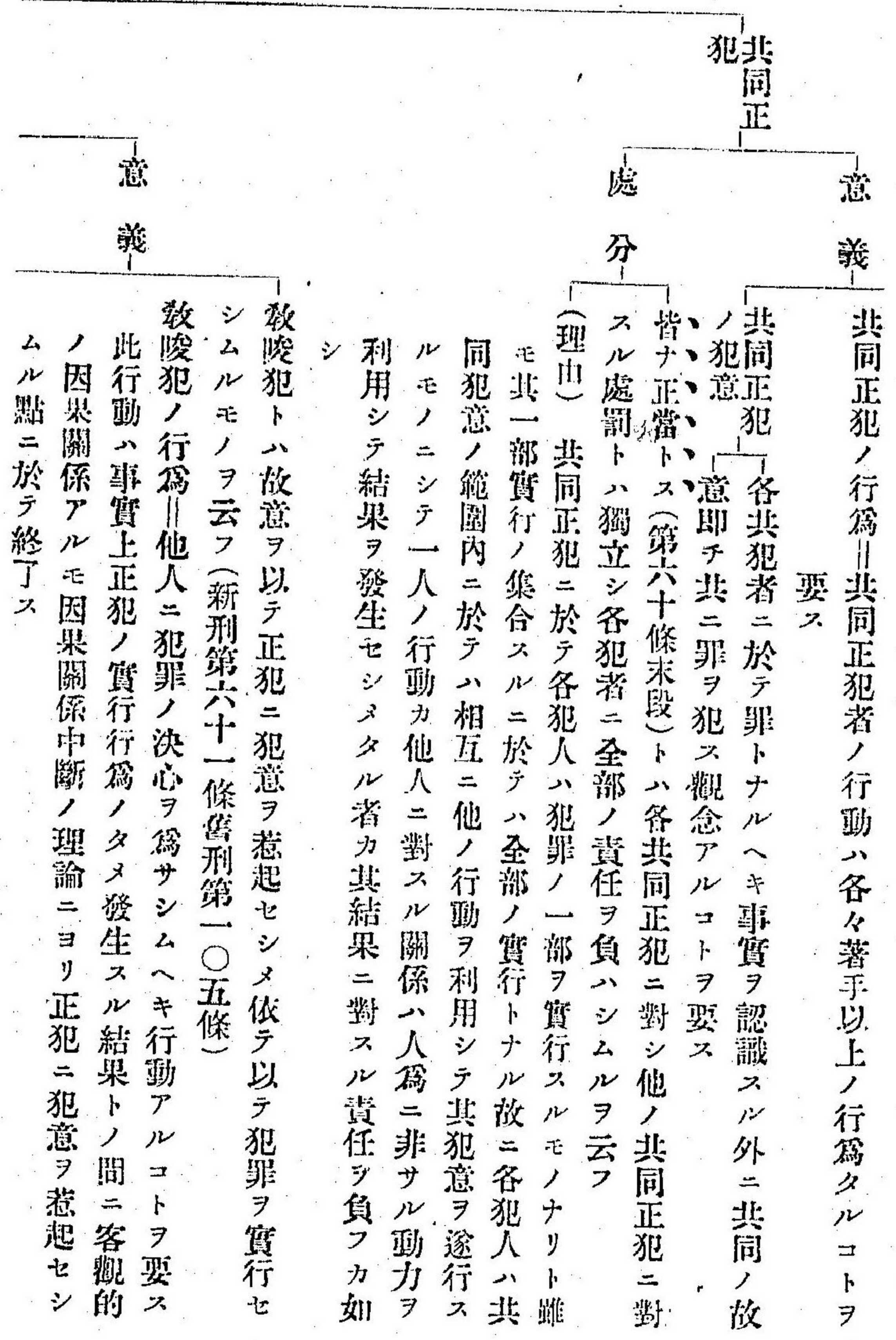
舊刑法ハ常ニ一等ノ加重ヲ爲スヘキモノトセシカ(舊刑法第九十一條乃至第九十三條)如此ハ累犯ヲ防止スル目的ヲ達スルニ不適當ナルユヘ新刑法ハ加重ノ程度ヲ高メタリ(第五十七條)

(一) 裁判確定後、刑ノ執行終了前又ハ執行ノ免除アリタル場合ニ再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前ニ言渡シタル刑(再犯者タルコトヲ知ラスシテ)ヲ訂正シ第五十條ニヨリ其刑期ヲ増加シテ更ニ刑ノ言渡ヲ爲ス(舊刑法ニ於テ裁判確定後ハ再犯者タルコトヲ發見スルモ加重處分ヲ爲スコトヲ得ザリシハ缺點ナリ)(加重スヘキ刑ヲ定ムル手續ニ付テハ施行法第五十三條參照)

(二) 裁判確定後懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル後、再犯者ニシテ加重スヘカリシ者ナルコトヲ發見スルモ最早加重處分ヲ爲サス(第五八條)

第十一章 共犯

共同正犯トハ二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタルニヨリ各々犯罪ノ正犯者タルヲ云フ(新刑第六十條舊刑第四百四條)



共犯

從犯

意義

從犯ノ人ニ從犯者タラントスル意思ヲ惹起セシメタル者ナリ是レ此場合ノ犯罪ハ教唆ノ外形ヲ有シテ其實ハ犯罪ノ幫助ニ外ナラサレハ其罪質教唆ニアラスシテ從犯ナリ(第六十二條第二項)

從犯トハ故意ヲ以テ正犯ヲ幫助シ罪ノ成立ヲ容易ナラシメタル者ヲ云フ(新刑第六十二條、舊刑第一〇九條)

從犯ノ行爲ハ正犯ノ犯罪行爲ヲ容易ナラシムルヲ云ヒ新刑法ニ於テハ幫助ニ關スル手段方法ヲ細說セス反之舊刑法第九條ニ於テハ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者トアルモ其趣旨同一ナリ蓋シ正犯ト從犯トノ區別ハ二法共ニ同一ニシテ正犯ハ犯罪ノ實行行爲ニ加擔スルコトヲ要シ從犯ハ豫備ノ行爲ニ加擔スルニ止マレハナリ

從犯ノ行爲ハ事實上、正犯ノ發生セシムル犯罪ト客觀的ノ關係ヲ有スルモ因果關係中斷ノ理論ニヨリ正犯ノ犯罪行爲ヲ幫助スル點ニ於テ終了ス

從犯ノ故意ハ他人ノ犯罪ヲ幫助スル意思ナリ隨テ從犯ノ方面ニ於テハ共同ノ犯意存在スルモ正犯ノ方面ニ於テハ共同犯意(正犯カ從犯ト共ニ罪ヲ犯ス意思)ナシ故ニ間接幫助及正犯ノ不知ノ間ニ爲シタル直接ノ幫助モ亦從犯タルコトヲ得

教唆犯ノ成立ノ主眼點

處分 正犯ノ刑ニ照シテ減輕セラル而其減輕ノ程度ハ新刑法第六十八條ニ規定スル所ニシテ之ヲ舊刑法(第一〇九條)カ常ニ一等ヲ減シタルニ比スレハ大ニ其減輕程度ヲ増加シタルモノト云フヘシ

種類 直接從犯 正犯ヲ幫助シタル者ナリ(第六十二條第一項)

間接從犯 從犯ヲ幫助シテ間接ニ正犯ノ犯罪行爲ヲ幫助シタルモノナリ(是レ法ニ明定セサル所ナリト雖モ理論上、一種ノ從犯ト論定スルコトヲ得ヘシト信ス)

準從犯 從犯ヲ教唆シタル者ナリ(第六十二條第二項)

輕微ナル犯罪ニ對スル教唆又ハ幫助ノ行爲ハ特ニ罪トシテ之ヲ處罰スル必要ナシ是レ新刑法第六十四條ニ於テ拘留又ハ科料ニ處セラルヘキ罪ノ教唆又ハ幫助ハ原則トシテ之ヲ罰セスト規定シ舊刑法第九條ニ於テ重罪輕罪ヲ犯ス事ヲ知テ云云ト規定シ教唆犯又ハ從犯ノ成立スヘキ主タル正犯ヲ制限シタル所以ナリ

舊刑法修正ノ理由 舊刑法ニ於テハ違警罪ニ對シテハ教唆犯又ハ從犯ノ成立セサルヘキコトヲ規定シ新刑法ハ拘留科料ニ處スヘキ罪ニ對シテハ原則トシテ教唆犯又ハ從犯ノ成立セサルコトヲ明定スルニヨリ規定ノ内容ハ同一ニ歸著スヘキモ新刑法ハ犯罪ヲ唯一ノモノト爲シ舊刑法ノ如ク重罪輕罪違警罪ノ種類ヲ認メサルト違警罪ノ大部分ヲ占メタル警察犯ハ警察犯處罰令ニ讓リタル結果、形



共同者  
ニ對スル  
身分ノ  
關係ノ  
影響

「式上、規定ノ體裁ヲ修正スル必要アルニ至リタルモノナリ」

(一) 共同正犯相互間ニ於テハ一人ノ身分ハ他ノ共犯者ニ影響セズ蓋シ共同正犯ハ各獨立シテ其罪責ヲ負フヘキモノナレハナリ

(二) 正犯ノ身分上ノ資格カ其所爲ヲ罰スル必要條件タル場合ニ於テモ正犯ノ處罰ヲ以テ教唆犯及從犯ノ處罰ノ標準ト爲スコトヲ得蓋シ教唆犯及從犯ハ正犯ニ對シ常ニ附屬的ノ性質ヲ有スルモノナレハナリ

(三) 犯人ノ身分ニ依リ構成スヘキ犯罪行為ニ加功シタル者ハ其身分ナキモ共犯(正犯、教唆犯、從犯)トシテ處罰セラル(新刑法第六十五條第一項)例(ハ老者ヲ扶助スヘキ義務アル者(一種ノ身分)ト共ニ此ノ如キ義務ナキ者カ老者ヲ遺棄シタルトキハ第二十七條ノ犯罪トシテ處罰セラルルカ如シ)是レ舊刑法ニナカリシ所ノ規定ナルモ理論ニ基キ新刑法ニ採用セラルルニ至リシ規定ナリ

(四) 犯人ノ身分ニヨリ通常ノ刑ヲ輕重スヘキトキハ其身分ナキ共犯者ニハ通常ノ刑ヲ科ス(新刑法第六十五條)例(ハ直系尊屬ニ對シ監禁罪ヲ犯シタル者ハ第二十二條第二項ニヨリ通常ノ刑ヨリ重ク處罰セラルヘキモ如此身分ナクシテ其犯罪ニ加功シタル者ハ同條第一項ニヨリ輕ク處罰セラルヘキカ如シ)此規定ハ舊刑法第六條及同第一百條ヲ修正シタルモノニシテ規定ノ精神ニ

於テハ異同ナシ

### 第十二章 酌量減輕

「酌量減輕トハ犯罪事實ヲ審査シタル上、刑法ノ各本條ニ規定スル刑ヲ以テハ尙ホ過酷ナリト認ムル場合ニ裁判官ノ斟酌ヲ以テ法定ノ刑ヲ減輕スルヲ云フ(第六十二條舊刑法第八十九條第一項)

法律ノ規定ニ基キ刑ヲ加重シ(註一)又ハ減輕スル場合(註二)ト雖モ仍ホ罪情ニ憫諒スヘキ所アルトキハ酌量シテ特ニ加重シタル又ハ減輕シタル刑ヨリ減輕スルコトヲ得是レ酌量減輕ハ所謂裁判上ノ減輕ナレハ法律上ノ加重減輕ニ拘ハラズ猶ホ減輕スルコトヲ得ルモノナルニヨル(第六十七條舊刑法第八十九條第二項)

### 酌量減輕

「(註一) 法律ノ規定ニヨリ刑ヲ加重スルトキハ累犯加重及併合罪ノ加重ナリ(註二) 法律ノ規定ニヨリ刑ヲ減輕スルトキハ第三十六條第二項、第三十七條第一項但書、第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條乃至第四十三條、第六十三條、第七十條、第七十一條、第七十三條ノ如キヲ云フ

「新刑法ハ減輕スヘキ程度ヲ各本條ニ規定セズ第六十八條ニ於テハ概括的ニ規定シ減輕セラルヘキ刑ノ種類ニヨリ其減輕ノ程度ヲ異ニスル主義ヲ採用セリ(第

第十三章 加減例

舊刑法修正要旨

本章ハ舊刑法第一編第三章加減例及同編第六章加減順序ノ二章ヲ合併シ之ヲ増減修正シタルモノナリ

死刑ヲ減輕スヘキトキハ無期懲役又ハ十年以上十五年以下ノ懲役ニ處シ若クハ無期禁錮又ハ十年以上十五年以下ノ禁錮ニ處ス(第六十八條第一號)

無期懲役ヲ減輕スヘキトキハ七年以上十五年以下ノ有期懲役ニ處ス(第二號)

無期禁錮ヲ減輕スヘキトキハ七年以上十五年以下ノ有期禁錮ニ處ス(第二號)

有期懲役又ハ有期禁錮ヲ減輕スヘキトキハ刑ノ最長期及最短期ニ付キ各二分ノ一ヲ減シ其範圍内ニ於テ刑ヲ裁定セシム(第三號)

罰金ヲ減輕スヘキトキハ各本條ニ規定スル罰金ノ最多額及最少額ニ付各二分ノ一ヲ減シ其減少シタル金額ノ範圍内ニ於テ罰金額ヲ裁定セシム(第四號)

拘留ヲ減輕スヘキトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス(第五號)(減輕方法)

減輕スヘキ程度

ハ有期懲役ノ場合ニ同シ)

科料ヲ減輕スヘキトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス(第六號)(減輕方法ハ罰金ノ場合ニ同シ)

法律上ノ減輕

減輕スヘキ原因カ二箇以上並存スルトキト雖モ第六十八條各號ニ規定スル制限内ニ於テ唯一回ノ減輕ヲ爲スニ止マル

第六十八條第一號ニヨリ死刑ヲ減輕スヘキ場合ニ懲役ニ處スヘキカ將タ禁錮ニ處スヘキカハ第二編以下ノ各本條ニ於テ死刑ヲ科シタル罪ノ性質ニヨリテ之ヲ定ム詳言スレハ懲役ニ該ル罪ト同性質ノ罪ナラハ懲役ニ處ス(例ハ第七十五條ノ場合ニ於ケル減輕ノ如シ)禁錮ニ該ル罪ト同性質ノモノナラハ禁錮ノ刑ニ處ス(例ハ第七十七條ノ場合ニ於ケル減輕ノ如シ)

法律ニヨリ刑ヲ減輕スヘキ場合ニ其罪ヲ規定スル各本條ニ二箇以上ノ撰擇刑アルトキハ(例ハ第八十七條第一項ニ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金トアルカ如シ)先ツ何レノ刑ヲ適用スヘキヤヲ定メ其定メタル刑ニ付テ減輕ヲ施ス(第六十九條)

減輕方法

懲役、禁錮、拘留ヲ減輕スルニ當リ運算上、一日ニ滿タサル時間ヲ生シタルトキハ之ヲ捨ツ例ハ拘留ノ長期十三日ニ對シ二分ノ一ヲ減シタルタメ六日十二時間トナルトキ其長期ヲ六日ト定ムヘキカ如シ(第

加減順序

七十條第一項

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ當リ運算上一錢ニ滿タサル金額ヲ生シタルトキハ之ヲ捨ツ(第七十條第二項)

酌量減輕ニ付キ特別ノ規定ヲ設クル理由左ノ如シ

酌量減輕

- (1) 酌量減輕ハ裁判上ノ減輕ニシテ法律上ノ減輕ト其性質ヲ異ニス
- (2) 酌量減輕ハ法律上ノ減輕ヲ爲シタル場合ニ尙ホ減輕スルコトアルヲ以テ

(第六十七條) 法律上ノ減輕ト區別シテ減輕方法ヲ規定スル必要アリ

(注意) 第七十一條ニ於テハ法律上ノ減輕ニ關スル第六十八條及第七十條ノミヲ酌量減輕ノ場合ニ適用スヘク規定スト雖モ第六十九條ノ規定モ適用スヘキコトハ理論上當然ノ場合ナリトス

規定ノ必要

一罪ニ對シ同時ニ刑ヲ加重シ及減輕スル必要ヲ生スルコトアリ甚シキハ二種ノ加重(再犯加重ト併合罪ノ加重)ヲ爲シ及二種ノ減輕(法律上ノ減輕及酌量減輕)ヲ施スヘキ場合アリ如此場合ニ何レノ加重ヲ先ニシ何レノ減輕ヲ後ニスヘキヤヲ一定スル必要アリ蓋シ加減ノ先後ニヨリ其結果(刑期ノ長短金額ノ多額)ヲ異ニスレハナリ(第七十二條舊刑法第九十九條)

左記數字ノ順序ニヨリ加減ノ計算ヲ爲スヘキモノトス(第七十二條舊刑法第九十九條)

- (一) 再犯加重
- (二) 法律上ノ減輕

- (三) 併合罪ノ加重
- (四) 酌量減輕

第二編 罪

(一) 舊刑法ハ第二編ニ於テ公益ニ關スル重罪輕罪ヲ規定シ第三編ニ於テ身體財產ニ關スル重罪輕罪ヲ規定セシカ新刑法ハ何レモ此區別ヲ廢セリ

(二) 舊刑法ハ第四編ニ於テ違警罪ヲ規定セシカ新刑法ハ違警罪中普通犯ノ性質ヲ有スルモノハ拘留若クハ科料ニ處スヘキ罪ト爲シ其種類ニ從ヒ各章ニ之ヲ規定シ他ハ警察犯處罰令ニ讓レリ

(三) 舊刑法ハ罪ヲ重罪、輕罪、違警罪ノ三種ニ區別シ各種ノ罪ニ數多ノ刑名ヲ設ケ刑ノ範圍ヲ狹隘ナラシメ尙ホ其狹キ範圍内ニ於テ各本條ノ法定刑ヲ定メタルニ依リ裁判所ニ於テ刑ノ適用ヲ爲スニ當リ自由裁量ヲ爲ス餘地殆ント之レナク爲メニ罪刑權衡ヲ失スル恐アリシニヨリ新刑法ハ各罪ニ付キ各本刑ノ範圍ヲ擴張セリ

創設||新刑法カ創設セシ規定ハ國交ニ關スル罪ナリ

舊刑法ノ規定ニシテ全然刪除セシモノ左ノ如シ

刪除 第二編第三章第四節(附加刑ノ執行ヲ遁ルル罪)同第五節(私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及所有スル罪)同第九節(公務ヲ行フヲ拒ム罪)第二編第四章第七節(度量衡ヲ偽造スル罪)同第八節(身分ヲ詐稱スル罪)同第九節(公選ノ投票ヲ偽

罪ニ關スル修正要旨

造スル罪) 第二編第五章第三節(傳染病豫防規則ニ關スル罪)同第四節(危害品及健康ヲ害スヘキ物品製造規則ニ關スル罪)同第六節(私ニ醫業ヲ爲ス罪)

第一章 皇室ニ對スル罪

(一) 危害罪

天皇、太皇、太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ生命身體ニ對スル危難傷害ヲ加ヘタル者及加ヘントシタル者(危險罪ノ未遂、豫備、陰謀)ハ死刑ニ處ス(第七十三條舊刑第一百十六條)

皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者(未遂、豫備、陰謀)ハ定期懲 役ニ處ス(第七十五條舊刑第一百八條)

(二) 不敬罪

天皇、太皇、太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲(敬禮ヲ缺ク動作)アル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第七十四條、舊刑第一百七條)

神宮(伊勢ノ大廟)皇陵(先代天皇ノ墳墓ナリ)ニ對シ不敬ノ所爲アルモノノ刑、前ニ同シ皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス(第七十六條、舊刑第一百八條)

第二章 國事ニ關スル罪

(一) 國家ノ現狀ヲ動搖シ極メテ危險ナル犯罪ナリト雖モ犯人ノ目的ハ國利民福ヲ増進セントスルモノナレハ破廉恥罪同様定役アル刑罰ヲ科スルハ科刑ノ趣旨ニ反スルニヨ

(二) 特 質

リ自由刑ニ處スヘキトキハ總テ禁錮ヲ以テ其刑罰トセリ

(二) 國事犯ハ種種ノ職務ヲ執ル多數人ノ聚合ニヨリテ實行スル犯罪ナルニヨリ犯罪行爲ノ種類程度ニ應シ刑ニ輕重ノ差異ヲ設ケタリ(第七十七條、舊刑第二百一十一條)

(三) 一旦犯罪成立スレハ其害ノ及ブ所廣ク且之ヲ鎮壓スルコト容易ナラサレハ力メテ之ヲ未發ニ防止セントシテ例外トシテ豫備陰謀ヲモ處罰セリ(第七十八條、舊刑第一百五條)

且前同一ノ理ニヨリ自首全免ノ恩典ヲ設ケタリ(第八十條、舊刑第二百二十六條)

(四) 本罪實行ノ方法ハ戰爭暴動等ナレハ之ヲ幫助スル手段モ普通犯罪ト異ナル所アルニヨリ從犯トシテ正犯ヲ幫助スル特種ノ方法アルコトヲ豫定セリ(第七十九條、舊刑第二百二十七條)

(三) 定 義

政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコト(例、皇位繼承ノ順序ヲ變更スル類)ヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル罪ナリ(第七十七條第一項、舊刑第二百一十一條)

(1) 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス(第七十七條第一號、舊刑第二百一十一條第一號)

(2) 謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス(第十七條第二號舊刑第二百一十一條第二號)

(3) 前項以外ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス(第七十七條第二號舊刑第二百一十一條第三號)

(4) 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス(第七十七條舊刑

(三) 刑 罰

第二百一十一條第三號

(1) 乃至(3)ノ犯罪行為ニ關スル未遂罪ハ之ヲ處罰シ(第四十四條)第六十八條ニヨリテ其刑ヲ減輕ス(第七十七條第二項)(未遂罪處罰ニ關スル說明以下皆ナ同シ)

第三章 外患ニ關スル罪

(一) 本罪ハ平時ニ帝國ノ外患ヲ誘起シ(第八十一條前段)若クハ戰時帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害スル行為ヲ爲スニヨリ(第八十一條後段及第八十二條以下)テ成立スル犯罪ナリ

(二) 一旦成立スレハ其害ノ及フ所廣ク且之ヲ鎮壓スルコト容易ノ業ニアラサレハカメテ未發ニ之ヲ防止セント欲シ豫備陰謀ヲ處罰ス(第八十八條)

(三) 戰時同盟國ニ對シ本章ニ規定スル犯罪行為ヲ爲シタル者ハ帝國ニ對シ本章所定ノ犯罪行為ヲ爲シタルト同シク之ヲ處罰ス蓋シ戰時ニ於ケル同盟國ハ攻撃ト防守ノ區別ナク一身同體トナリテ勝敗ノ結果ヲ受クルモノナレハ同盟國ニ對シテ戰時的利益ヲ傷害スル行為ハ帝國ノ戰時的利益ヲ傷害スルニ等シケレハナリ(第八十九條)

(四) 間諜ヲ幫助スル行為ハ其性質從犯ナルモ外患罪ニ特殊ノモノナルニヨリ注意ノタメ間諜罪ト共ニ之ヲ明定セリ(第八十五條第一項)

(1) 平時、外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル者ハ死刑ニ處ス(第八十一條前段、舊刑第二百一十一條前段)

特(二) 質

種(三) 類

(2) 戰時敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス(第八十一條後段)

(3) 戰時要塞、陣營、軍隊、艦船、其他軍用ニ供スル場所又ハ建築物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス(第八十二條第一項、舊刑第三百三十條)

(4) 戰時、兵器、彈藥、其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第八十二條第二項、舊刑第三百三十條)

(5) 戰時敵國ヲ利スルタメ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第八十三條)

(6) 戰時、帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥、其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供スヘキ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期懲役又三年以上ノ懲役ニ處ス(第八十四條)

(7) 戰時敵國ノタメニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期懲役若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス(第八十五條第一項、第三百三十一條)

(8) 戰時、軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者ハ死刑又ハ無期懲役若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス(第八十五條第二項、舊刑第三百三十一條)

(9) 戰時、前記(2)乃至(8)外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第八十六條)

(10) 前記、九種ノ犯罪ニ對スル未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第八十七條)

### 第四章 國交ニ關スル罪

#### (二) 創設趣旨

國際的交通ノ頻繁ナルニ伴隨シ外國使節(大使、特命全權公使、全權公使、辦理公使、代理公使)ノ駐在スルハ勿論、外國ノ帝王、大統領ノ入國スルコト其例稀ナラス然ルニ舊刑法ノ如ク國交ニ關スル規定ヲ缺如センカ此等ノ貴賓高官ニ對シ侮辱ヲ加ヘ甚シキハ暴行脅迫ヲ加フルモノアルモ之ヲ處罰スル能ハサル不都合アリ爲ニ國交圓滿ヲ缺クノ恐アリ(現ニ滋賀縣大津ニ於ケル露國皇太子ニ對スル津田三藏ノ謀殺未遂罪事件ニ於テ實例ヲ見タリキ)是レ新刑法制定ニ際シ帝國ニ滞在スル外國ノ君主、大統領、使節ニ對スル暴行脅迫又ハ侮辱ノ罪及外國國家ニ對スル不禮ノ罪ヲ創設シ之ニ舊刑法第三百三十三條及第三百三十四條ノ規定ヲ附加シ以テ本章ヲ創設スルニ至レル所以ナリ

#### (三) 特質

- (一) 外國ノ君主、大統領又ハ使節ニ對スル暴行、脅迫、侮辱ヲ加ヘタル罪ハ其本國政府又ハ被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スルコトト爲セリ是レ此種ノ罪ハ外國政府又ハ使節其人ノ感情ヲ融和スルタメ之ヲ處罰スルモノニシテ若シ其本國政府又ハ使節ニ於テ之ヲ處罰セシメントスル意思ナキニ於テハ特ニ之ヲ處罰スル必要ナキモノナリ
- (二) 私ニ戰闘ヲ開ク罪ハ其豫備陰謀ヲ爲シタルノミヲ以テ之ヲ處罰ス其理由ハ内亂外患ニ關スル罪ノ豫備陰謀ヲ罰スル理由ニ同シ
- (三) 私ニ戰闘ヲ開ク罪ニ付テハ自首全免ノ恩典アリ此恩典ヲ與フル理由ハ内亂罪ノ場合ニ於ケル自首全免ノ理由ニ同シ

#### (三) 種類

- (1) 我帝國ニ滞在スル外國ノ君主(君主國ニ於ケル帝王ナリ)又ハ大統領(佛蘭西ノ如キ共和國ニ於ケル最上級ノ行政機關ナリ)ニ對シ暴行(不法ナル體力ノ使用)又ハ脅迫(自由ナル意思ノ實行ヲ妨害スル目的ヲ以テ法益ヲ侵害スヘキコトヲ知ラセシムルヲ云フ)ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第九十條)
- 2 我帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱(トハ言語若クハ形容ニヨリ又ハ文書圖畫ヲ刊行シ特定ノ人ノ威嚴尊榮ヲ蹂躪スル意思ヲ表示スルコトヲ云フ)ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但シ其本國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス(第九十條第二項)
- 3 我帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第九十一條第一項)
- 4 我帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但シ被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス(第九十一條第二項)
- (5) 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗、其他ノ國章(國家ヲ表彰スル物件ニシテ國璽ノ類ナリ)ヲ損壞シ又ハ除去シ若クハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス(第九十二條)
- (6) 外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但シ自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス(第九十三條舊刑第三百三十三條)
- (7) 外國間ニ戰爭開始セラレタルトキ我帝國ノ公布シタル局外中立ニ關スル法令ニ違背

レタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(第九十四條、舊刑第三百三十四條)

### 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

#### (二) 修正要旨

本章舊刑法第二編第三章第二節(官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪)中ノ第三百三十九條ヲ修正シテ第九十五條ト爲シ(第四百四十一條ニ規定シアリシ官吏侮辱罪ハ全然之ヲ削除セリ)又同第八節(官ノ封印ヲ破壞スル罪)中ノ第七十四條ヲ修正シテ第九十六條ト爲セリ(第八節中ノ他ノ二箇條ハ削除セリ)

(1) 公務員(第七條第一項)ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス(第九十五條第一項、舊刑百三十九條第一項)

(2) 公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムルタメ若クハ或處分ヲ爲ササラシムルタメ又ハ其職ヲ辭セシムルタメ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス(第九十五條第二項、舊刑百三十九條第二項)

(3) 公務員ノ施シタル封印ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印ヲ無効ナラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第九十六條、舊刑百十七條)

(4) 公務員ノ施シタル差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第九十六條)

#### (三) 種類

### 第六章 逃走ノ罪

#### (二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第三章第三節(囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪)中ノ第四十三條及百五十條ヲ削除シ第五百五十一條及第五百五十二條ヲ次章ニ讓リ其他ノ條項ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

(1) 既決(有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者)未決(犯罪ノ嫌疑ヲ以テ未決監ニ拘置セラルル者)ノ囚人、逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス(第九十七條、舊刑第四百二十二條第一項)

(2) 既決未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者(イ)拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ(ロ)若クハ暴行脅迫ヲ爲シ(ハ)又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上、五年以下ノ懲役ニ處ス(第九十八條、舊刑第四百二十二條第二項同第四百十五條)

(3) 法律命令ノ規定ニ基キ適法ニ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第九十九條、舊刑第四百十七條)

(4) 法律命令ノ規定ニ基キ適法ニ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第一百條第一項、舊刑第四百十六條)

(5) 法律命令ノ規定ニ基キ適法ニ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第一百條第二項、舊刑第一四七條)

#### (三) 種類

(6) 法律命令ノ規定ニ基キ看守又ハ護送スル者、被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百一條、舊刑第百四十八條)  
以上(1)乃至(6)ニ列記スル犯罪行為ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第百二條、舊刑第百四十九條)

### 第七章 犯人藏匿及證據湮滅ノ罪

#### 犯人藏匿罪

罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿(發見ヲ妨クルタメ隠シ場所ヲ給與スルナリ)又ハ隱避(藏匿以外ノ方法ニヨリ犯人ノ發見又ハ逮捕ヲ妨クル行為ナリ)セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百三條、舊刑第百五十一條)  
犯人ノ親族ニシテ犯人ノ利益ノタメニ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ罰セス(第百五條、舊刑第百五十三條)  
他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據(證據微憑ノ節略語)ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證據ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百四條、舊刑第百五十二條)  
逃走者ノ親族ニシテ逃走者ノ利益ノタメニ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ罰セス(第百五條、舊刑第百五十三條)

### 第八章 騷擾ノ罪

#### 證據湮滅ノ罪

#### (二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第三章第一節(兇徒聚衆ノ罪)ヲ修正シタルモノナリ  
兇徒聚衆ト云フハ用語ニ於テ不穩當ナリ蓋シ内亂以外ノ目的ヲ以テ多衆聚合シ暴行脅迫ヲ爲シ秩序ヲ騷擾スル場合ヲ指稱スルモノナレハ寧ろ騷擾罪ト稱スルノ簡明ナルニ如カサルナリ

#### (三) 特質

内亂罪同様多數人ノ聚合體ニ依リテノミ犯サル所ノ犯罪ナルニヨリ種々ノ職務ヲ分擔スル者アリ其職務ノ輕重ニ從テ刑ニ輕重ノ差別ヲ設クル必要アリ

#### (三) 種類

- (一) 騷擾罪(多數衆合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪)ノ刑ハ左ノ如シ(第百六條 舊刑第百三十七條)
  - (1) 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
  - (2) 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
  - (3) 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- (二) 暴行脅迫ヲ爲スタメ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ尙ホ解散セサルトキハ左記ニ據リ刑罰ヲ科ス(第百七條、舊刑第百三十六條)
  - (1) 首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
  - (2) 首魁以外ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第九章 放火及失火ノ罪



修正要旨

舊刑法ハ放火、失火ノ罪ヲ以テ單ニ個人ノ財産ニ對スル犯罪ト爲シタルリシカ元來放火、失火ハ公安秩序ヲ紊亂スル罪ナレハ新刑法ハ修正ヲ加ヘテ公益ニ關スル罪ノ中ニ列シタリ

木造家屋ニ住居シ木竹ヲ以テ構成セル建造物ヲ使用セル我國民ノ現狀ニ徴スレハ放火、失火ハ比較的其數多ク危害モ亦極メテ大ナルヘキニヨリ數條(第百十一條乃至第百十五條及第百十八條)ヲ增加シ舊刑法ノ缺點ヲ補充セリ

(一) 火ヲ放テ左記六種ノ物件ヲ燒燬(火力ニヨル毀損滅失)シタル者ハ死刑又ハ無期懲役若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス(第百八條、舊刑第四百二條同第四百五條第一項)

(1) 人ノ住居ニ使用スル建造物

(2) 人ノ現在スル建造物

(3) 人ノ現在スル汽車

(4) 人ノ現在スル電車

(5) 人ノ現在スル艦船(軍艦船舶ノ節略語)

(6) 人ノ現在スル鑛坑

(二) 火ヲ放テ左記四種ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第百九條第一項、舊刑第四百三條第四百五條第二項、第四百七條)

(1) 現ニ人ノ住居ニ使用セサル建造物

(2) 人ノ現在セサル建造物

(3) 人ノ現在セサル艦船

(4) 人ノ現在セサル鑛坑

(三) 前記(一)及(二)ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第百十二條)

(四) 火ヲ放テ前記(一)及(二)ノ列記シタル以外ノ物ヲ燒燬シ依テ公共ノ危險ヲ生セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百十條第一項、舊刑第四百二條第四

放火罪

自己ノ物ニ對スル放火罪

百六條

(一) 火ヲ放テ自己ノ所有ニ屬スル四種ノ物件(第百九條第一項)ヲ燒燬シ公共ノ危險ヲ生セシメタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第百九條第二項、舊刑第四百七條)

(二) 第百八條及第百九條ニ記載シタル以外ノ物ニシテ自己ノ所爲ニ屬スルモノヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百十條第二項)

(三) 前記(一)及(二)ニ記載シタル物ニシテ(イ)差押ヲ受ケ又ハ(ロ)物權(留置權、先取特權、質權抵當權等)ヲ負擔シ若クハ(ハ)他人ニ貸貸シ(民法第六百一一條以下參照)或ハ(ニ)保險ニ附シタルモノナルトキハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル刑ニ同シ

(一) 第百九條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延

燒セシメタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百十一條第一項)

(二) 第百十條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第二項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百十一條第一項)

(三) 第百十條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百十條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百十一條第二項)

(五) 未遂罪 第百八條及第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(第百十二條)

(六) 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ懲

豫備犯  
(七) 鎮火妨害罪

- 役ニ處ス(第百十三條)但シ所犯情狀ニヨリ其刑ヲ免除スルコトヲ得
- (一) 火災ノ際、鎮火用ノ物ヲ隱匿シ又ハ損壞シテ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
- (二) 火災ノ際、前項以外ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百十四條)

(八) 失火罪

- (一) 火ヲ失シテ(過失ニテ火災ヲ惹起シ)第百八條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百十六條以下皆同シ舊刑第四百九條)
- (二) 火ヲ失シテ第百九條ニ記載シタル他人ノ所有物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- (三) 火ヲ失シテ第百九條ニ記載スル自己ノ所有物ヲ燒燬シテ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- (四) 火ヲ失シテ第百十條ニ記載シタル自己ノ所有物ヲ燒燬シテ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- (一) 火藥汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂セシメ第百八條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ死刑又ハ無期懲役若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス(第百十七條第一項以下同シ舊刑第四百十條)
- (二) 火藥、汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂セシメ第百九條ニ記載スル他人ノ所有物ヲ損壞シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

(九) 激發スヘキ物

ヲ破裂セシメタル罪

- (三) 火藥、汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂セシメ第百九條ニ記載シタル自己ノ所有物ヲ損壞シテ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
- (四) 火藥、汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂セシメ第百十條ニ記載シタル自己ノ所有物ヲ損壞シテ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(十) 瓦斯、電氣、蒸氣、ノ漏出等ニ關スル罪

- (五) 以上(一)乃至(四)ニ列記スル犯罪行為カ過失ニ出ツルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百十七條第二項)
- (一) 瓦斯ヲ漏出シ若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シテ因テ人ノ生命、身體財產ニ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百十八條以下皆同シ)
- (二) 電氣ヲ漏出シ若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シテ因テ人ノ生命、身體、財產ニ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- (三) 蒸氣ヲ漏出シ若クハ漏出セシメ又ハ之ヲ遮斷シテ因テ人ノ生命、身體、財產ニ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- (四) 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出シ若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シテ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害罪(第百四條乃至第百八條)ニ對スル刑ト第百十八條第一項ノ刑トヲ比較シ重キニ從テ處斷ス(第百十八條第二項)

第十章 溢水及水利ニ關スル罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第三編第二章(財産ニ對スル罪)第八章(決水ノ罪)ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

舊刑法ハ個人ノ財産ニ對スル犯罪ト爲シタリシカ溢水及水利ハ公安秩序ニ關係スルコト重大ナルモノナルユヘ新刑法ハ之ヲ公益ニ關スル罪ノ中ニ列シタリ

(一) 溢水(河、海、溪谷ノ水流ヲ陸上ニ横溢セシム)セシメテ左記五箇ノ物件ヲ侵害、(浸水ニヨル損害)セシメタルトキハ死刑又ハ無期懲役若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百十九條、舊刑第四百十一條第一項)

- (1) 現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物
- (2) 人ノ現在スル建造物
- (3) 人ノ現在スル汽車
- (4) 人ノ現在スル電車
- (5) 人ノ現在スル鑛坑

(三) 溢水罪

(二) 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ侵害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ノ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百二十條第一項、舊刑第四百十一條第二項同第四百十二條)

(三) 溢水セシメテ侵害シタル物カ自己ノ所有ニ係ルトキハ(イ)差押ヲ受ケ(ロ)物權ヲ負擔シ(ハ)賃貸シ(ニ)保險ニ附シタル場合ニ限り一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百二十條第二項)

(四) 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壊シ其他溢水セシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ二年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十三條後段)

(三) 水防妨害罪

(一) 水害ノ際、防水用ノ物ヲ隱匿シ又ハ損壞シテ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百二十一條)

(二) 水害ノ際前段記載ノ方法以外ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百二十一條)

(四) 失水罪

(一) 過失ニヨリ溢水セシメ因テ第百十九條ニ記載シタル物ヲ侵害シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十二條、舊刑第四百十四條)

(二) 過失ニヨリ溢水セシメ因テ第百二十條ニ記載シタル物ヲ侵害シタル者ハ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十二條、舊刑法第四百十四條)

(五) 水利妨害罪

堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ二年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十三條前段、舊刑第四百十三條)

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第三章第六節(往來通信ヲ妨害スル罪)及第三編第二章第九節(船舶ヲ覆没スル罪)ヲ合併シ之ヲ修正加除シタルモノナリ

(一) 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十四條第一項、舊刑第百六十二條)

(二) 陸路、水路又ハ橋梁ヲ壅塞(壅止閉塞ノ意)シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二

往來妨害罪

- (一) 年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十四條第一項、舊刑第百六十二條)
- (二) 前記(一)及(二)ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第百二十八條)
- (三) 前記(一)及(二)ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害罪ノ刑ニ比シ重キニ從テ處斷ス(第百二十四條第二項、第百六十八條)

往來ノ危險ヲ生ゼシメタル罪

- (一) 燈臺、又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第百二十五條第二項、舊刑第百六十六條)
- (二) 人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百二十六條第二項、舊刑第四百十五條第四百十六條)
- (三) 前項ニ說明セル犯罪行為ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第百二十八條、舊刑第百七十條)
- (四) 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ニ危險ヲ生ゼシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第百二十五條第一項、舊刑第百六十五條及第百六十六條)

汽車電車ノ往來妨害罪

- (一) 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破壞シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百二十六條第一項、舊刑第四百十五條第四百十六條)
- (二) 前二項ニ說明セル犯罪行為ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第百二十八條)
- (三) 前記(一)及(二)ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第百二十六條第三項)
- (四) 過失ニ因リ汽車電車又ハ艦船ノ往來ニ危險ヲ生ゼシメタル者ハ五百圓以下ノ罰金

過失ニ因リ往來ノ妨害罪

- (一) 過失ニ因リ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十九條第一項)
- (二) 過失ニ因リ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十九條第一項)
- (三) 汽車、電車、軍艦、船舶ノ運轉ニ從事スル者、前三項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(第百二十九條第二項)

第十二章 住居ヲ侵ス罪

修正の旨

本章ハ舊刑法第二編第三章第七節(人ノ住所ヲ犯ス罪)ヲ修正シタルモノナリ  
舊刑法ニ規定セシ住所ヲ犯ス罪ハ規定ノ内容狹隘ニシテ完全ニ住所ノ安全ヲ保護スル能ハサリシヲ以テ新刑法ハ充分其缺點ヲ補充セリ

- (一) 故ナク(正當ノ事由ナク)左記三箇ノ場所ニ侵入シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(第百三十條前段、舊刑第百七十一條)
- (2) 人ノ住居シ又ハ看守スル建築物
- (3) 人ノ住居シ又ハ看守スル艦船
- (二) 適法ニ入場シタル後要求ヲ受ケテ前項ニ列記セル三種ノ場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(第百三十條後段)

- (三) 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵害シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第三百三十一條第一項、舊刑第七十三條)
- (四) 神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第三百三十一條第二項)
- (五) 前四項ニ説明セル犯罪行為ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス(第三百三十二條)

### 第十三章 秘密ヲ侵ス罪

舊刑法ハ信書ノ秘密ヲ保護スル罰條ナク立法上大ナル缺點ナリシカハ新刑法ハ第三百三十三條ヲ創設シテ其瑕瑾ヲ補足セリ

舊刑法ハ第三編第一章第十二節誣告及誹謗罪ノ中ニ於テ秘密ニ關スル罪ノ規定シアリト雖モ秘密漏泄ト誹謗トハ全然其性質ヲ異ニシ法典編纂ノ體裁ヲ失スルコト甚シカリシカハ新刑法ハ之ヲ分離シ本章ヲ特設スルニ至レリ

- (一) 故ナク封緘シタル他人ノ信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十三條)
- (二) 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、故ナク其業務ヲ取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十四條第一項前段、舊刑第三百六十條)
- (三) 曾テ醫師、藥劑師、產婆、辯護士、辯護人、公證人ノ職ニアリシ者故ナク其業務

### (三) 修正要旨

### (三) 種類

上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十四條後段)

(四) 宗教若クハ禱祀ノ職ニアル者(神官、僧侶、宣教師ノ類)故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル他人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十四條第二項前段)

(五) 曾テ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル他人ノ秘密ヲ漏泄シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第三百三十四條第二項後段)

以上五種ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(親告罪ナリ)是レ此種ノ犯罪ハ信書ヲ開披セラレ或ハ秘密ヲ漏泄セラレタル者自己ノ利益ヲ侵害セラレタリトシテ加害者ヲ處罰スルタメ適法ニ告訴シ來ルニアラサレハ特ニ之ヲ處罰スル必要ナキヲ以テナリ

### 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

### (二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第五章第一節(阿片煙ニ關スル罪)ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

- (一) 阿片煙ヲ輸入シ又ハ製造シ若クハ販賣シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十六條前段舊刑法第二百二十七條)
- (二) 阿片煙販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第

種(三)類

- 百三十六條後段)
- (三) 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入シ又ハ製造シ若クハ販賣シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十七條前段舊刑第三百二十八條)
- (四) 阿片煙販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十七條後段)
- (五) 關稅官吏、阿片煙又ハ阿片煙吸食器具ヲ輸入シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十八條前段)
- (六) 稅關官吏、阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入スルコトヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十八條後段、舊刑第二百二十九條)
- (七) 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十九條第一項舊刑第二百四十一條)
- (八) 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第三百二十九條第二項、舊刑第二百四十條第一項)
- (九) 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス(第三百四十條、舊刑第五百四十二條)
- (十) 前記(一)乃至(九)ニ說明セシ犯罪行爲ノ未遂ハ之ヲ處罰ス(第四百四十一條)

第十五章 飲料水ニ關スル罪

修正(二)旨

本章ハ舊刑法第二編第五章第二節(飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪)ヲ修正シタルモノナリ。修正ノ主要ナルモノハ公衆ノ用ニ供スル水道及其水道ニ關スル淨水若クハ水原ヲ保護スル規定ヲ設ケタルニアリ

飲料(二)水ニ關スル罪

- (一) 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(第四百四十二條、舊刑第二百四十三條)
- (二) 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第四百四十四條、舊刑第二百四十四條)
- (三) 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害罪ノ刑ニ比シ重キニ從テ處斷ス(第四百四十五條、舊刑第二百四十五條)
- (一) 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第四百四十三條)
- (二) 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷若クハ傷害ニ致シタル者ハ傷害罪ノ刑ト比較シ重キニ從ツテ處斷ス(第四百四十五條、舊刑第二百四十五條)
- (三) 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第四百四十六條前段)
- (四) 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シ因テ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス(第四百四十六條後段)

(五) 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞シ又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第四百四十七條)

### 第十六章 通貨偽造ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第四章第一節(貨幣ヲ偽造スル罪)ヲ修正シタルモノニシテ其主ナル修正點ハ左ノ如シ

舊刑法ハ貨幣偽造罪ノ成立ニハ偽造(又ハ變造)ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシ單ニ偽造(又ハ變造)シタルニ止マル場合ニハ未遂罪トシテ之ヲ處罰スルニ過キサリシカ(第八十六條第一項)新刑法ハ通貨ノ偽造(又ハ變造)ヲ完成シタルノミニヨリ通貨偽造(又ハ變造)罪ヲ成立セシムルコトトセリ

舊刑法ハ偽變造ノ目的トナルヘキ貨幣ノ種類ヲ金銀貨、紙幣、銅貨ノ三種ニ區別シ罪ノ輕重ヲ爲スト共ニ刑ニ輕重ノ差別ヲ立テタリト雖モ新刑法ハ無用ノ區別トシテ之ヲ删除セリ

銀行券ハ其效用紙幣ト伯仲シ其信用ノ大ナルト共ニ之ヲ保護スル必要大ナリシニ拘ハラズ舊刑法中一條一項ノ規定ナカリシ(兌換銀行券ニ關シテハ兌換銀行券條ニ保護規定アリシモ)ハ一大缺點タルヲ免レサルニヨリ新刑法第四百四十八條以下六箇條ニ於テ詳細ナル規定ヲ創設セリ

(一) 行使(貨幣ノ目的ニ從テ通用セシムルヲ云フ)ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣(註一)紙幣

### (二) 修正要旨

銀行券(註二)ヲ偽造(貨幣ヲ製造スル權ナキ者カ眞貨ニ類似スル物ヲ製作スルヲ云フ)シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第四百四十八條第一項、舊刑第八十二條第一項)

(註一) 貨幣トハ諸物ノ價格ヲ量定スル標準及貯蓄ノ方法ニ適シ且實價ヲ有シ國家ノ公認スル交換ノ手段ナリ現行法規ニ基キ具體的ニ云ヘハ貨幣トハ金貨銀貨銅貨ノ三種ナリ

(註二) 銀行券トハ特定ノ銀行カ政府ノ許可ヲ得テ發行スル所ノ紙幣同様ノ效力ヲ有スル證券ニシテ兌換銀行券ノ如キ其一例ナリ

### (三) 内國通關貨ニ關スル罪

(一) 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ變造シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第四百四十八條、舊刑第八十二條第二項)

(二) 既ニ完成セル偽造、變造ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ行使シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第四百四十八條第二項前段)

(三) 既ニ完成セル偽造變造ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第四百四十八條第二項後段)

(四) 既ニ完成シタル偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ外國ヨリ輸入シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

(五) 以上五種ノ犯罪行爲ハ未遂ノ場合ニモ之ヲ處罰ス(第五百五十一條、舊刑第八十六條第一項)

(三) 外國貨物ニ關スル罪

内國ニ流通スル外國貨幣ニ關シ左記四箇ノ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第四百九十九條、舊刑第八十三條、第四百八十四條、第四百八十九條)

- (一) 行使ノ目的ヲ以テ外國ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ偽造シタル者
- (二) 行爲ノ目的ヲ以テ外國ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ變造シタル者
- (三) 既ニ完成セル偽造變造ノ外國貨幣、紙幣、銀行券ヲ行使シタル者
- (四) 既ニ完成セル偽造變造ノ外國貨幣、紙幣、銀行券ヲ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シタル者
- (五) 既ニ完成セル偽造變造ノ外國貨幣、紙幣、銀行券ヲ輸入シタル者
- (六) 以上五種ノ犯罪行爲ハ未遂ノ場合ニモ之ヲ處罰ス(第五百五十一條、舊刑第八十六條第一項)

(四) 偽造變造ノ通幣取關スル罪

- (一) 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ取得(利得ノ目的ヲ以テ受領スルヲ云フ)シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第五百十條、舊刑第九十條)
- (二) 前條ノ犯罪行爲ハ未遂ノ場合ニモ之ヲ處罰ス(第五百十一條、舊刑第八十六條第一項)
- (三) 取得後偽造、變造ノ貨幣、紙幣、銀行券ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其名價(偽造貨幣ノ記載價額)三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一圓以下ニ降スコトヲ得ス(第五百二十二條前段、舊刑第九十三條)
- (四) 取得後、偽造變造ノ貨幣、紙幣、銀行券ナルコトヲ知リ行使セシムル目的ヲ以テ

(五) 通貨偽造ノ豫備犯

他人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス(第五百二十二條後段)

第十七章 文書偽造ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第四章第三節(官ノ文書ヲ偽造スル罪)及同第四節(私印私書ヲ偽造スル罪)ノ一部并ニ同第五節(免狀鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪)ヲ合併シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正セシ要點ハ左ノ如シ

(二) 修正要旨

舊刑法ハ偽造(又ハ増減變換)ノ行爲ト行使ノ二要素ヲ以テ文書偽造(又ハ増減變換)罪ノ成立要素ト爲セシカ新刑法ハ行使ノ有無ヲ問ハス文書偽造(又ハ變換)罪ノ成立スルコトヲ認メタリ

舊刑法ハ圖畫ノ偽造變造ヲ處罰スル規定ヲ設ケサリシモ時世ノ進歩ト共ニ地圖、海圖等圖畫ヲ保護スル必要大ナルニヨリ新刑法ハ二箇條ヲ特設シテ圖畫ノ保護ニ關スル規定ヲ創設セリ

舊刑法ハ官吏カ其職務上虛偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合(第二百五條)ヲ以テ等シク官文書ノ偽造變造ト爲セシカ新刑法ハ之ヲ虛偽ノ文書ノ作製又ハ變造トセリ(第五百五十六條)



(三) 文書偽造罪

舊刑法ニハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ戸籍簿登記簿其他ノ不正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ヲ缺キ唯近來實施セラレタル戸籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルニ過キサリシヲ以テ新刑法ハ之ニ關スル規定(第百五十七條)ヲ創設セリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ御璽(天皇ノ印)國璽(日本帝國ノ印)若クハ御名(天皇ノ名)ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百五十四條第一項前段、舊刑第二百一十二條第一項、第百九十四條、第百九十七條)

(二) 偽造シタル御璽國璽、若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百五十四條第一項後段、舊刑第百九十七條)

(三) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十五條第一項前段、舊刑第二百三條第一項、第百九十五條)

(四) 偽造シタル變造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十五條第一項後段、舊刑第百九十七條)

(五) 前記(三)及(四)ノ以外ノ方法ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十五條第三項前段)

(六) 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務ニ關スル若クハ事實

(三) 文書變造罪

證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十九條第一項前段、舊刑第二百八條乃至第二百十條)

(七) 偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務ニ關スル若クハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十九條第一項後段、舊刑第二百八條乃至第二百九條)

(八) 前記(六)(七)ノ以外ノ方法ヲ以テ權利義務ニ關スル若クハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十九條第三項前段)

(一) 御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百五十四條第二項、舊刑第二百二條第一項、第百九十七條)

(二) 公務所又ハ公務員ノ捺印シタル若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十五條第二項、舊刑第二百三條第一項、第百九十七條)

(三) 前段ノ外、公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十五條第三項後段)

(四) 前記(三)及(四)ノ以外ノ方法ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十五條第三項後段)

段

(五) 他人ノ印章ヲ押捺シタル者クハ他人ノ署名シタル權利義務ニ關スル若クハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十九條第二項)

(六) 前項以外ノ方法ヲ以テ權利義務ニ關スル若クハ事實證明ニ關スル文書圖畫ヲ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十九條第三項後段)

(一) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽若クハ御名ヲ使用シ虛偽ノ詔書其他ノ文書ヲ作リタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百五十六條前段、第百五十四條一項前段、舊刑第二百五條一項、第二百六條)

(二) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ虛偽ノ詔書其他ノ文書ヲ作リタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百五十四條第一項後段、第百五十四條一項後段)

(三) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ虛偽ノ文書圖畫ヲ作リタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十六條前段第百五十五條第一項前段)

(四) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十六條前段第百五十五條一項後段)

作製

(四) 虛偽ノ文書

變造

(五) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ前記(三)及(四)以外ノ方法ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十六條前段、第百五十五條第二項前段)

(一) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第百五十六條後段(第百五十四條二項)舊刑第二百五條第一項第二百六條)

(二) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ捺印シタル若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百五十六條後段、第百五十五條第二項)

(三) 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ前(二)以外ノ方法ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十六條後段、第百五十五條第三項後段)

(一) 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十七條第一項、舊刑第二百一十一條第二百一十四條)

(二) 前項ニ說明セル犯罪ノ未遂ハ之ヲ處罰ス(第百五十七條第三項)

(三) 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(第百五十七條第二項)

(五) 不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪

不正文書行使罪

虚偽ノ記載ヲ爲シタル罪

〔四〕 前項ニ説明セル犯罪ノ未遂ハ之ヲ處罰ス(第百五十七條第三項)  
 第百五十四條乃至第百五十七條及第百五十九條第百六十條ニ記載セル文書若クハ圖畫ヲ行使シタル者ハ左ノ方法ニ依テ處罰ス(第百五十八條、第百六十一條、舊刑第二百一十一條第二項、第二百三條第一項、第二百四條、第二百五條第一項、第二百六條、第二百一十一條第二百九條、第二百十條、第二百十三條、第二百五十五條、第二百十六條、第二百十七條)  
 (一) 第百五十四條及第百五十五條並ニ第百五十九條ニ記載セル偽變造ノ文書圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書圖畫ヲ偽造若クハ變造シタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
 (二) 第百五十六條ニ記載セル虚偽ノ文書圖畫ヲ行使シタル者ハ其虚偽ノ文書圖畫ヲ作リタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
 (三) 第百五十七條ニ記載セル不實ノ記載ヲ爲サシメタル文書ヲ行使シタル者ハ其不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
 (四) 第百六十條ニ記載セル虚偽ノ記載ヲ爲シタル文書ヲ行使シタル者ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
 以上説明セル五種ノ犯罪ハ其未遂ヲ處罰ス(第百五十八條第二項、第百六十一條第二項)  
 醫師公務所ニ提出スヘキ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(第百六十條、舊刑第二百十五條第二項)

第十八章 有價證券偽造ノ罪

修正要旨

種類

本章ハ舊刑法ノ官文書偽造罪中ヨリ第二百四條ヲ摘出シ又私文書偽造罪中ヨリ第二百九條ヲ摘出シ之ヲ合シテ一章ト爲シ之ヲ修正シタルモノナリ  
 本章ヲ特設シタル理由左ノ如シ(1)此罪ハ流通證券ニ關スルモノニシテ特別ノ性質ヲ有シ普通ノ文書偽造ト其刑罰ヲ區別スル必要アリ(2)又主トシテ財產權ノ保護ヲ目的トシ他ノ文書偽造罪ノ如ク公益保護ニ著限スル點少シ  
 (一) 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官廳ヨリ發布セラル證書(主トシテ支拂命令)諸會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十二條第一項、舊刑第二百四條)  
 (二) 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官廳ヨリ發布スル證券、諸會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十二條第一項、舊刑第二百四條第百九條)  
 (三) 行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十二條第二項、舊刑第二百九條第二項)  
 (四) 偽造變造ノ有價證券又ハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十三條、舊刑第二百四條第百九條)  
 (五) 偽造變造ノ有價證券又ハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使セシムル目的ヲ以

テ人ニ交付シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十三條、舊刑第二百四條第二百九條)

(六) 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十三條、舊刑第二百四條第二百九條)

(七) 前記(四)乃至(六)ニ説明セル犯罪ノ未遂ハ之ヲ處罰ス(第百六十三條第二項、舊刑第二百一十一條)

### 第十九章 印章偽造ノ罪

(一) 修正要旨 本章ハ舊刑法第二編第四章第二節(官印ヲ偽造スル罪)同第四節私印私書ヲ偽造スル罪ノ規定ヲ合併シ之ヲ増減修正シタルモノナリ

主要ナル修正ハ(第一)署名ヲ印章同様ニ保護シタルコト是ナリ蓋シ歐米交通以後彼等國民ノ印章ヲ用ユルコト殆ント之レナク署名ノミヲ以テ證書ノ作製ニ關スル證據トナセシヲ目撃セシ以來其風習我國民ニ傳ハリ我國民日常ノ取引上印章押捺ニ代ルニ署名ヲ以テスルモノ日ニ多キヲ加フルニ至リ之ニ印章同様ノ保護ヲ與フル必要アルニ至リシナリ  
第二私印偽造罪ノ成立ニ其使用ヲ要件トセス偽造ト使用トハ各獨立シタル犯罪ト爲シタルコト是ナリ

(二) 行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第百六十四條第一項、舊刑第百九十五條及第百九十七條)

### (三) 偽造罪

(一) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章(註一)若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十五條第一項、舊刑第百九十五條、第百九十七條)

(二) 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號(註二)ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十六條第一項、舊刑第百九十六條、第百九十七條)

(三) 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十七條第一項、舊刑第二百八條)

(註一) 印章トハ固形物體ノ一面ニ一定ノ文字紋章ヲ彫刻シ置キ之ヲ他物ニ押捺シ其形跡ヲ現出セシメ以テ或事實ヲ證明スル用ニ供スルモノナリ

(註二) 記號トハ林區署ニ於テ材木拂下ノ標示ノタメ付スル所ノ記號ノ如シ

(一) 御璽國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第百六十四條第二項前段、舊刑第百九十四條第百九十七條)

(二) 公務所若クハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十五條第二項前段、舊刑第百九十五條、第百九十七條)

(三) 公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十六條第二項前段、舊刑第百九十六條、第百九十七條)

(四) 他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百六十七條第二項前段、舊刑第二百八條)

### (三) 不正使用罪

以上(一)乃至(四)ニ説明スル犯罪ノ未遂ハ之ヲ處罰ス(第六十八條、舊刑第二百條第二  
百十一條)

(一) 偽造シタル御璽國璽又ハ御名ヲ使用シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第百  
六十四條第二項後段、舊刑第九十四條)

(二) 偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者ハ三月以上五年以  
下ノ懲役ニ處ス(第六十五條第二項後段)

(三) 偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第六十六條  
第二項後段、舊刑第九十六條)

(四) 偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百  
六十七條第二項後段、舊刑第二百八條)

(四) 偽印使  
用罪

第二十章 偽證ノ罪

(二) 修正要  
旨

本章ハ舊刑法第二編第四章第六節(偽證ノ罪)ヲ修正シタルモノナリ  
舊刑法カ偽造罪ヲ規定セシ九箇條ヲ僅カ三箇條ニ節約セシ所以ハ左記二箇ノ理由アルニ  
基ク

(1) 舊刑法ハ刑事ニ關スル證人ト民事、商事、行政裁判ニ關スル證人トヲ區別セシヲ  
全廢シタルコト

(2) 舊刑法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ曲庇ト陷害トニ區別シ更ニ陷害ノ場合ヲ三箇條ニ縮

(三) 種  
類

別シテ規定シタルヲ删除シタルコト

(一) 法律ノ規定(刑事訴訟法第二百二十二條、民事訴訟法第三百七條)ニ依リ宣誓シタル  
證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第六十九條舊刑  
第二百八條乃至第二百二十三條)

(二) 法律ノ規定ニヨリ宣誓シタル鑑定人ハ虛偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ三月以上十年  
以下ノ懲役ニ處ス(第七十一條、舊刑第二百二十四條)

(三) 法律ノ規定ニヨリ宣誓シタル通事、虛偽ノ通譯ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以  
下ノ懲役ニ處ス(第七十一條、舊刑第二百二十四條)

前記三項ニ説明セル罪ヲ犯シタル者證言シタル又ハ鑑定シタル若クハ通譯シタル事件ノ  
裁判確定前(又ハ懲戒處分前)(註一)自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ  
得

(三) 自首減  
免

犯人偽證ノ目的ヲ達スルトキハ民、刑、商事、行政訴訟ノ裁判ヲ誤マラシメ其結果云フ  
可ラサル害悪ヲ惹起スルニヨリ刑ノ減免ヲ餌トシテ犯人ノ自首ヲ促シテ大害ヲ未發ニ防  
止セントスルモノナリ

(註一) 官吏懲戒處分ノクメ懲戒裁判所又ハ懲戒委員長ヨリ訊問ヲ受ケタル者虛偽ノ證  
言鑑定通譯ヲ爲シタル者ハ懲戒處分實行前ニ自首スレハ其刑ヲ減免セラル

第二十一章 誣告ノ罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第三編第一章第十二節(誣告ノ罪)ヲ修正シタルモノニシテ其主ナル修正ハ左記ノ二點ナリ

- (1) 官吏ニ懲戒處分ヲ受ケシムルタメ誣告シタル行爲ヲ處罰スル規定ヲ創設セシコト
- (2) 法定刑ノ範圍ヲ擴張シ最短期ヲ縮少セシト共ニ最長期ヲ昇高セシメ結局重キ刑罰ヲ加フヘキ規定ヲ設ケシコト

(三) 種類

- (一) 特定ノ人ニ刑罰ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告(主トシテ告訴告發)ヲ爲シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第七十二條舊刑第三百五十五條)
- (二) 特定ノ官吏ニ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第七十二條)

(三) 自首減免

前二條ノ罪ヲ犯シタル者、申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(第七十三條) 自首減免ノ理由ハ偽證罪ノ場合ニ於ケル自首減免ノ理由ニ同シ

第二十二章 猥褻姦淫及重婚ノ罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第三編第一章第十一節(猥褻姦淫重婚ノ罪)及第二編第二章(風俗ヲ害スル罪)中ノ第二百五十八條及第二百五十九條ヲ合併シ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

- (一) 公然(何人ニモ見聞セラルヘキ狀態)猥褻ノ(註一)所行ヲ爲シタル者ハ科料(第七

七條)ニ處ス(第七十四條、舊刑第二百五十八條)

- (二) 猥褻ノ文書圖畫其他之ニ類似ノ物ヲ頒布(廣ク公衆ニ分與ス)若クハ販賣シ又公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(第七十五條前段、舊刑第二百五十九條)
- (三) 猥褻ノ文書圖畫其他之ニ類似ノ物ヲ販賣スル目的ヲ以テ所持シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(第七十五條)

- (四) 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第七十六條前段、舊刑第三百四十六條)
- (五) 十三歳未滿ノ男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第七十六條後段、舊刑第三百四十六條)

前記四及五ニ說明スル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第八十一條)

- (六) 左記四箇ノ方法ニヨリ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第七十六條第七十八條)

- (1) 人ノ心神喪失ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコト
- (2) 人ノ抗抵不能ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコト
- (3) 人ノ心神ヲ喪失セシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコト
- (4) 人ノ抗抵ヲ不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコト
- (七) 前記(四)乃至(六)ノ犯罪ニ付テハ其未遂ヲ處罰ス(第七十九條)

(二) 猥褻罪

(四)乃至(七)ノ犯罪ハ親告罪ナレハ被害者又ハ親權者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第八十條、舊刑第三百五十條)

(註一) 猥褻トハ色欲ヲ外部ニ表ハスタメ若クハ對手ノ色欲ヲ満足セシムルタメ爲ス所ノ淫事の行爲ニシテ風紀ヲ傷害スルコト著シキモノナリ

(一) 暴行脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第七十七條前段、舊刑第三百四十八條第一項)

(二) 十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第七十七條後段、舊刑第三百四十七條)

(三) 左記四種ノ方法ニヨリ人ヲ姦淫シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(第七十七條、第七十八條、舊刑第三百四十八條第二項)

(1)人ノ心神喪失ニ乘シテ姦淫シタルコト(2)人ノ抗抵不能ニ乘シテ姦淫シタルコト(3)人ノ心神ヲ喪失セシメテ姦淫シタルコト(4)人ヲシテ抗抵不能ノ状態ニ陥ラシメテ姦淫シタルコト

(四) 前記(一)乃至(三)ノ犯罪ニ付テハ其未遂ヲ處罰ス(第七十九條)

前記(一)乃至(三)ニ説明セル罪ヲ犯シ依テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(第八十一條)

強姦罪ハ總テ親告罪ナレハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第八十條、舊刑第三百五十條)

強姦罪

(四) 姦淫勸誘罪

營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(第八十二條、舊刑第三百五十二條)

(五) 姦通罪

有夫ノ婦、他ノ男子ト通シタルトキハ姦婦及姦夫トモ二年以上ノ懲役ニ處ス(第八十三條第一項、舊刑第三百五十三條)

本罪ハ本夫ノ告訴アルヲ待テ其罪ヲ論ス但シ本夫豫メ姦通ヲ許可シアリタルトキハ告訴スルモ姦婦姦夫ヲ處罰スル能ハス(第八十三條第二項、舊刑第三百五十三條第二項)

(六) 重婚罪

男女ヲ間ハス配偶アル者重テ婚姻ヲ爲シ(註一)タルトキハ配偶者アル重婚者及重婚者ノ相手方タル者ハ各二年以上ノ懲役ニ處セラル(第八十四條、舊刑第三百五十四條)

(註一) 婚姻ヲ爲ストハ婚姻ノ儀式ヲ舉クルト云フ意ニシテ現行民法ニヨレハ婚姻ノ方式ハ結婚當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ(又ハ署名シタル書面ヲ以テ)戸籍吏ニ届出ツルヲ云フ(民法第七百七十五條)

第二十三章 賭博及富籤ニ關スル罪

(一) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第六章(風俗ヲ害スル罪)中ニ規定セシ第二百六十一條乃至第二百六十二條ニ對シ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正セシ主要ナル點ハ賭博ヲ常習トシテ爲シタルモノト然ラサルモノトニ分テ其刑ニ輕重ノ區別ヲ爲シタルニアリ

(一) 偶然ノ輸贏(意外ナル勝敗)ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事(註一)ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(第八十五條本文、舊刑第二百六十一條)

(三) 賭博罪

但一時ノ娛樂ニ供スル物(例、玩弄物又ハ直ニ消費スヘキ食物)ヲ賭シテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル行爲ハ犯罪ト爲ラス(第百八十五條但書、舊刑第二百六十一條但書)

(二) 常習(常業習慣ノ意)トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第百八十六條前段、舊刑第二百六十一條)

(三) 賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百八十六條後段、舊刑第二百六十條)

(註一) 博戯賭事ハ主トシテ偶然ノ勝敗ニヨリ物ノ得喪ヲ決スル契約ニ基ク行爲ナルコトハ二者ニ通スル觀念ナリト雖モ博戯ハ當事者カ利益ノ取得ヲ唯一ノ目的トシ賭事ハ自己ノ主張ヲ固持スル目的ニ出ツ(例、ハ競馬ノ勝敗ヲ賭スルカ如シ)是レ二者ノ性質上ノ差異ナリ

(一) 富籤ヲ發賣シタル(富籤興行ナリ)者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス(第百八十七條第一項、舊刑第二百六十二條)

(二) 富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス(第百八十七條第二項)

(三) 前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(第百八十七條第三項)

第二十四章 禮拜所及墳墓ニ關スル罪

(三) 富籤ニ關スル罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第七章(死屍ヲ毀棄シ及墳墓ヲ發掘スル罪)ニ同第六章(風俗ヲ害スル罪)中ノ第二百六十三條ヲ合併シ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

(三) 禮拜所ニ關スル罪

(一) 神社、佛堂、墓所其他ノ禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ左記三種ノ刑ノ一ヲ撰ンテ之ヲ處罰ス

- (1) 一月以上六月以下ノ懲役
- (2) 一月以上六月以下ノ禁錮
- (3) 五十圓以下ノ罰金

- (二) 說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ左記三種ノ刑ノ一ヲ撰ンテ之ヲ處罰ス
- (1) 一年以下ノ懲役
- (2) 一年以下ノ禁錮
- (3) 百圓以下ノ罰金

(三) 墳墓ニ關スル罪

(一) 墳墓ヲ發掘シタル者ハ一月以上二年以下ノ懲役ニ處ス(第百八十九條、舊刑第二百五十五條第一項)

- (二) 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物(衣服祭具ノ類)ヲ損壞シ或ハ遺棄シ又ハ領得(不正ノ奪取)シタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役ニ處ス(第百九十條舊刑第二百六十四條)
- (三) 墳墓ヲ發掘シ因テ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞シ或ハ遺棄シ又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第百九十一條、舊刑第二百六十五條第二項)

(四) 不法埋葬罪

法規ニ基ク檢視ヲ受ケスシテ變死者ヲ葬リタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(第百九十二條、舊刑第四百二十六條第九號)



第二十五章 瀆職ノ罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第九章第二節(官吏人民ニ對スル罪)ヲ加除修正シタルモノナリ  
本章中創設シタル所ノモノ賄賂ヲ交付、提供、約束シタル行爲ヲ處罰セル規定ナリ

(三) 職權濫用ノ罪

(一) 公務員其職務ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタル者ハ一月以上六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(第九十三條前段、舊刑第二百七十六條前段)  
(二) 公務員其職權ヲ濫用シ人ノ行ヒ得ヘキ權利ノ行使ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(第九十三條後段、舊刑第二百七十六條後段)

(一) 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ此等ノ職務ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ六月以上七年以下ノ禁錮ニ處ス(第九十四條、舊刑第二百七十八條)

(三) 逮捕監禁罪

(一) 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ此等ノ職務ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲アルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス(第九十五條第一項、舊刑第二百八十二條第二項)

(二) 法律命令ノ規定ニ基キ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者、被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一月以上三年以下ノ懲役又ハ二月以上三年以下ノ禁錮ニ處ス(第九十五條第二項、舊刑第二百八十條)

前記(一)乃至(三)ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害罪ノ刑ト比較シ重ニ

(四) 賄賂ニ關スル罪

從テ處斷ス(第九十六條、舊刑第二百八十條第二項)

(一) 公務員又ハ仲裁人(民事訴訟法第七百八十六條以下參照)其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ之ヲ約束シタルトキハ一月以上三年以下ノ懲役ニ處ス(第九十七條前段、舊刑第二百八十四條乃至同第二百八十六條)

(二) 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ之ヲ約束シ因テ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第九十七條中段、舊刑第二百八十六條)

(三) 公務員又ハ仲裁人、其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ之ヲ約束シ因テ法規ニ基ク相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第九十七條第一項後段)

前記(一)乃至(三)ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ其全部又ハ一部ヲ沒收スル能ハサルトキハ其沒收スル能ハサル部分ニ對スル價格ヲ追徴ス(第九十七條第二項舊刑第二百八十八條)

(四) 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付シ若クハ提供シ又約束シタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(第九十八條第一項)是レ舊刑法上ニ於テ收賄教唆犯トシテ處罰シ來リタル(處罰規定ナキタメ)所ノモノナリ

前記ノ罪ヲ犯シタル者、自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(第九十八條第二項)是レ前記ノ犯罪ハ自首ニヨル外殆ント他ヨリ發覺スル機會ナク而其犯

罪一旦成立セハ公務員又ハ仲裁人ヲシテ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ正當ノ行為ヲ爲ササラシムヘキ結果ヲ發生セシムルニヨリ刑ノ減免ヲ餌トシテ自首ヲ催シ以テ犯罪ノ發覺ヲ容易ナラシメンコトヲ計レリ

### 第二十六章 殺人ノ罪

本章ハ舊刑法第二編第一章第一節(謀殺故殺ノ罪)同第五節(自殺ニ關スル罪)ヲ加除修正シタルモノナリ修正セシ最モ著シキ點左ノ如シ

#### (二) 修正要旨

- (1) 舊刑法第二百九十三條乃至二百九十八條ハ殺人罪ノ情態ヲ種別スルニ過キスシテ當然自明ノ規定ナレハ不必要ナリトシテ之ヲ削除セリ
- (2) 被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル罪ヲ創設セリ
- (一) 人ヲ殺シタル者ハ其犯罪ノ情狀如何ニヨリ左記三種ノ刑ノ中其一ヲ撰ンテ之ヲ處罰ス(第九十九條、舊刑第二百九十二條乃至第二百九十七條)
  - (1) 死刑 (2) 無期懲役 (3) 一年以上三年以下ノ懲役
  - (二) 自己ノ直系尊屬(註一)ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第二百條舊刑第三百六十二條第一項)
  - (三) 配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第二百條)
  - (註一) 直系尊屬トハ自己ノ出ツル所ノ血縁ニシテ順次上ニ迦ル總テノ親族ナリ例ハ父母、祖父母、曾祖父母、高曾祖父母ノ如キ是ナリ

#### (三) 殺人罪

(四) 前記(一)乃至(三)ノ犯罪ハ未遂ノ時ニ於テ之ヲ處罰ス(第二百三三條)

左記四箇ノ行為ハ所犯情狀如何ニヨリ六月以上七年以下ノ懲役又ハ六月以上七年以下ノ禁錮ヲ以テ之ヲ處罰ス(第二百二條、舊刑第三百二十條)

#### (三) 自殺ニ關スル罪

- (一) 人ヲ教唆シテ自殺セシメタル行為
  - (二) 人ヲ幫助シテ自殺セシメタル行為
  - (三) 殺害ノ囑託ヲ受ケテ其囑託者ヲ殺シタル行為
  - (四) 殺害ノ承諾ヲ得テ其承諾者ヲ殺シタル行為
- 前項ノ犯罪ハ未遂ノ狀態ニ止マル場合ニ於テモ之ヲ處罰ス(第二百三條)

### 第二十七章 傷害ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第二節(毆打創傷罪)ヲ加除修正シタルモノニシテ其修正シタル顯著ナル點ハ左ノ如シ

#### (二) 修正要旨

- (1) 毆打創傷ナル名稱ヲ改メタルコト是レ廣ク毆打以外ノ方法ニヨル傷害モ將タ身體内部ノ傷害ヲモ悉ク包含セシメ舊刑法ノ解釋論ヨリ往々發生セシ疑義ヲ氷解セシメンカ爲メナリ
- (2) 舊刑法ハ結果ニヨリ刑ニ輕重ノ差別ヲ設ケタリシカ爲メ數條ノ規定ヲ必要トシタルモ新刑法ハ致死ノ場合ノ外ハ概括シタル規定ニ廣範圍ノ法定刑ヲ定メ犯罪ノ結果ニ應スル刑ノ輕重ハ一ニ裁判官ノ自由裁量ニ放任セリ

(三) 傷害罪

犯罪ノ方法如何ヲ問ハス人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ所犯情狀如何ニヨリ左記三種ノ刑ノ中其一ヲ撰シテ之ヲ處罰ス(第二百四條、舊刑第三百條乃至第三百四條)

(1) 一年以上十年以下ノ懲役 (2) 二十圓以上五百圓以下ノ罰金 (3) 科料(第十七條)

(三) 傷罪致

(一) 前條ニ規定セル罪ヲ犯シ身體傷害ノ結果、他人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上十五年以下ノ有期懲役ニ處ス(第二百五條第一項、舊刑第二百九十九條、第三百二條、第三百三條、第三百七條、第三百八條)

(二) 身體傷害ニ因リ自己ノ直系尊屬ヲ死ニ致シタルトキハ無期懲役又ハ三年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五條第二項)

(三) 身體傷害ニ因リ配偶者ノ直系尊屬ヲ死ニ致シタル者ハ無期懲役又ハ三年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五條第二項)

(四) 勢援罪

第二百四條第二百五條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷セスト雖モ情狀ニヨリ左記三箇ノ刑ノ中一ヲ撰シテ之ヲ處罰ス(第二百六條舊刑第三百六條)

(1) 一年以上一年以下ノ懲役 (2) 二十圓以上五十圓以下ノ罰金 (3) 科料(第十七條)

(五) 傷害罪ニ於ケル准共犯

共犯ニ非ラサル二人以上ノ者特定ノ人ニ對シテ暴行ヲ爲シ之ニ傷害ヲ加ヘタル場合ニ各自ノ加ヘタル傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ傷害ヲ加ヘタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共犯ノ例(第一編第十一章)ニ依テ處分ス(第二百七條、舊刑第三百五條)

「暴行ヲ加ヘタルモ人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ情狀ニヨリ左記三種ノ刑ノ中、其一ヲ

(六) 暴行罪

撰擇シテ之ヲ處罰ス(第二百八條、舊刑第四百二十五條第九號)

(1) 一年以上一年以下ノ懲役 (2) 二十圓以上五十圓以下ノ罰金 (3) 拘留 (4) 科料  
本罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八章 過失傷害罪

(二) 修正要旨

本章ハ舊刑法第三編第一章第四節(過失殺傷罪)ノ規定ヲ加除修正シタルモノナリ  
業務上必要ナル注意ヲ缺キシタメ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ刑ヲ加重シタルハ本章ノ創設ニ係ル

(二) 過失傷

過失(註一)ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
本罪ハ告訴權者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第二百九條、舊刑第三百十八條、第三百十九條)

(註一) 過失ノ意義ハ理論第一章第四節過失ノ圖說參考

(三) 過失致死罪

過失ニヨリ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百十條、舊刑第三百十七條)

(四) 業務上ノ注意ヲ怠リシニ基ク致死傷罪

業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ禁錮又ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百十一條)

第二十九章 墮胎ノ罪

(二) 妊婦自身

「懷胎ノ婦女自ら藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以上一年以下

ノ墮胎罪ノ懲役ニ處ス(第二百二十二條、舊刑第三百二十條)

(一) 懷胎セル婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十三條前段、舊刑第三百三十一條前段)

(二) 懷胎セル婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメ因テ其婦女ヲ死亡セシメ若クハ傷害シタルトキハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十三條後段、舊刑第三百三十一條後段)

(三) 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商、懷胎セル婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十四條前段、舊刑第三百三十二條)

(四) 前段ニ説明スル罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死亡セシメ若クハ傷害シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十四條後段)

無縁故ノ墮胎罪  
懷胎セル婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十五條、舊刑第三百三十三條、第三百三十四條)  
前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死亡セシメ若クハ傷害シタルトキハ傷害罪(第二十七章)ノ刑ト(前條ノ刑ト)比較シ重ニ從テ處斷ス

### 第三十章 遺棄ノ罪

本章ハ舊刑法第三編第一章第九節(幼者又ハ老病者ヲ遺棄スル罪)ノ規定ヲ修正シタルモ

### (二) 修正 旨

ノナリ而其修正ノ主ナル點ハ左ノ如シ

(1) 題目ヲ單ニ遺棄罪ト改メタリ舊刑法ノ如ク幼者又ハ老疾者ノ遺棄罪ト題スレハ不具者等ヲ遺棄スル者ヲ脱漏スル憂アルヲ以テナリ

(2) 舊刑法第三百四十條第一項及第二項ノ規定(不作爲犯)ヲ削除シタルコト

### (三) 遺棄罪

老衰、幼弱、不具又ハ疾病ノタメ扶助ノ必要アル者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十七條、舊刑第三百二十六條、第三百二十七條)  
前述セル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死亡セシメ若クハ傷害シタルトキハ傷害罪(第二十七章)ノ刑ト比較シ重ニ從ツテ處斷ス(第二百十九條、舊刑第三百二十九條)

### (三) 保護者 ノ遺棄罪

(一) 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十八條第一項、舊刑第三百十八條)

(二) 自己ノ尊屬親又ハ配偶者ノ尊屬親ニ對シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第二百十八條第二項)

以上二項ニ説明スル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死亡セシメ若クハ傷害シタルトキハ傷害罪(第二十七章)ノ刑ニ比シ重ニ從テ處罰ス(第二百十九條、舊刑第三百二十九條)

### 第三十一章 逮捕及監禁罪

不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十條第二

(一) 項、舊刑第三百二十二條第三百二十三條)  
 前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死亡セシメ又ハ傷害シタル者ハ傷害罪(第二十七章)ノ刑ト比較  
 禁罪 シ重ニ從テ處罰ス(第二百二十一條、舊刑第三百二十四條)  
 (二) 不法ニ自己ノ直系尊屬又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年  
 尊屬親 以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十條後段、舊刑第三百六十三條)  
 二對ス 前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死亡セシメ若クハ傷害シタルトキハ傷害罪(第二十七章)ノ刑ニ  
 比對ス 比較シ重ニ從テ處罰ス(第二百二十一條、舊刑第三百二十四條)  
 監禁罪

### 第三十二章 脅迫ノ罪

(一) 修正要旨 本章ハ舊刑法第三編第一章第七節(脅迫ノ罪)ノ規定ヲ加除修正シタルモノニシテ其最モ  
 著シキモノハ第二百二十三條ニ於テ脅迫ヲ手段トシテ他人ノ爲不爲ノ自由ヲ妨害スル罪  
 ヲ創設シタルニアリ

(二) 脅迫罪  
 (一) 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シタル者ハ  
 一月以上一年以下ノ懲役又ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百二十二條第一  
 項、舊刑第三百二十六條乃至第三百二十八條)  
 (二) 親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ人ヲ脅迫  
 シタル者ハ一月以上一年以下ノ懲役又ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百二  
 十二條第二項、舊刑第三百六十三條)

(一) 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴  
 行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役ニ處ス  
 (第二百二十三條第一項)  
 (二) 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴  
 行ヲ用ヒ他人ノ行フヘキ權利ヲ妨害シタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役ニ處ス(第二  
 百二十三條第一項)  
 (三) 親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ人  
 ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十  
 三條第二項)  
 (四) 親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ他人ノ  
 行フヘキ權利ヲ妨害シタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十三條第二項  
 以上(一)乃至(四)ニ說明セル犯罪ノ未遂ハ之ヲ處罰ス(第二百三十三條第三項))

### 第三十三章 略取及誘拐ノ罪

(一) 修正要旨 本章ハ舊刑法第三編第一章第十節(幼者ヲ略取誘拐スル罪)ヲ加除修正シタルモノニシテ  
 先ツ名稱ヲ改メテ幼者ナル形容詞ヲ除去セリ蓋シ略取、誘拐罪ノ客體ハ幼者ニ限ラサレ  
 ハナリ又創設セシ規定ハ(1)營利等特殊ノ目的ヲ以テスル略取誘拐罪ノ規定(第二百二十  
 五條)及(2)略取誘拐ヲ幫助スル罪(第二百二十七條一項)ナリ

略取誘拐罪

(一) 未成年者(男女ヲ問ハス)ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十四條、舊刑第三百四十一條、第三百四十二條)

(二) 前項ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサルモノハ未遂罪トシテ之ヲ處罰ス(第二百二十八條)

前二項ノ罪ヲ犯セシモノ營利ノ目的ニ出テサリシトキハ告訴權者ノ告訴ヲ待テ初メテ其罪ヲ論ス但シ略取又ハ誘拐セラレシ者、犯人ト結婚シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニアラサレハ告訴ニヨリ犯人ヲ處罰セス(第二百二十九條、舊刑第三百四十四條)

特殊ノ目的ニ出ツル略取誘拐罪

(一) 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取シ又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十五條)

(二) 前項ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサルモノハ未遂罪トシテ之ヲ處罰ス(第二百二十八條)

前二項ノ罪ヲ犯セシモ營利ノ目的ニ出テサリシトキハ告訴權者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但シ略取又ハ誘拐セラレシ者、犯人ト結婚シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニアラサレハ告訴ニヨリ其犯人ヲ處罰セス(第二百二十九條、舊刑第三百四十四條)

(四) 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一月以上二年以下ノ有期懲役ニ處ス(第二百二十六條第一項、舊刑第三百四十五條)

國外移

送ノ目的ヲ以テテ人ヲ賣買シタル者

(一) 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタル者ハ一月以上二年以下ノ有期懲役ニ處ス(第二百二十六條第二項前段)

(二) 被略取者被誘拐者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者ハ一月以上二年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十六條第二項後段)

(四) 前三項ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサル者ハ未遂罪トシテ處罰ス(第二百二十八條)

略取誘拐罪

(一) 第二百二十四條乃至第二百二十六條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被略取者、被誘拐者、被賣者ヲ收受シ若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十七條、舊刑第三百四十三條)

(二) 營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被略取者、被誘拐者、被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第二百二十七條第二項)

(三) 前二項ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサル者ハ未遂罪トシテ處罰ス(第六百二十八條)

第二百二十六條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ第二百二十七條第二項ノ罪ヲ犯シタル場合ニ營利ノ目的ニ出テサルトキハ告訴權者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但シ被略取者、被誘拐者被賣者カ犯人ト結婚シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニアラサレハ告訴ノ效ナシ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

(一) 本章ハ舊刑法第三編第一章第十二節(誣告及誹毀ノ罪)中誣告ニ關スル條項及陰私漏告ニ

修正要旨

關スル第三百六十條ヲ控除シ之ニ違警罪中ノ一條項タリシ第四百二十六條第十二號ヲ加ヘ以テ多少ノ修正ノ施シタルモノナリ

(一) 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス所犯情狀如何ニヨリ左記三箇ノ刑ノ中、其一ヲ選テ之ヲ處罰ス(第二百三十條第一項、舊刑第三百五十八條)

(1) 一年以上一年以下ノ懲役 (2) 一年以上一年以下ノ禁錮 (3) 五百圓以下ノ罰金

種類

(二) 死者ノ名譽ヲ毀損シタル者、誣罔ニ出ツルトキ(不實ノ事ヲ摘出表示スルナリ)ハ前項同様ノ刑ヲ以テ之ヲ處罰ス(第二百三十條第二項、舊刑第三百五十九條)

(三) 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留(第十六條)又ハ科料(第十七條)ニ處ス(第二百三十一條、舊刑第四百二十六條第十二號)

以上三種ノ犯罪ハ告訴權者ノ告訴ヲ待テ之ヲ處罰ス(第二百三十二條、舊刑第三百六十一條)

第三十五章 信用及業務ニ對スル罪

修正要旨

本章ハ舊刑法第二編第八章(商業及農工業ヲ妨害スル罪)ヲ削除修正シタルモノナリ

左記五種ノ犯罪行為ハ一月以上三年以下ノ懲役又ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百二十三條、第二百三十四條、舊刑第二百六十七條乃至第二百七十二條)

種類

(一) 虛偽ノ風説ヲ流布シテ人ノ信用ヲ毀損シタル行為

(二) 虛偽ノ風説ヲ流布シテ人ノ業務ヲ妨害シタル行為

(三) 偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シタル行為

(四) 偽計ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル行為

(五) 威力ヲ用ヒ他人ノ業務ヲ妨害シタル行為

第二十六章 竊盜及強盜罪

本章ハ舊刑法第三編第二章第一節(竊盜ノ罪)及第二節(強盜ノ罪)ヲ併合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

竊盜罪ト強盜罪トハ同性質ノ犯罪ナルヲ以テ之ヲ區別シテ別節ニ規定スルハ反テ錯雜混亂ヲ來タス恐アリ

修正要旨

舊刑法第三百六十七條乃至第三百七十條及第三百七十二條乃至第三百七十四條ハ皆竊盜ノ情狀ニ因リテ設クル區別ニシテ刑ニ輕重ノ差別ヲ設クル外何等ノ實益ナカリシニヨリ新刑法ハ如此煩雜無用ノ規定ヲ廢止シ此外屋外竊盜罪(明治二十三年法律第九十九號)ニ關スル特別法ヲモ廢止シ第二百三十五條ニ於テ唯一ノ竊盜罪ヲ規定シ刑ノ範圍ヲ充分擴張シ其廣キ範圍ニ於テ適宜ノ刑ヲ科セシメンコトヲ計レリ

(一) 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百三十五條、舊刑第三百六十六條乃至第三百七十四條)

竊盜罪

- (二) 竊盜ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサル者ハ未遂罪トシテ處罰ス(第二百四十三條、舊刑第三百七十五條)
- 直系血族、配偶者同居ノ親族、家族ノ間ニ於テ前記二箇ノ罪ヲ犯スモ其刑ヲ免除ス(第二百四十四條第一項前段舊刑第二百四十四條第一項)
- 前記以外ノ親族又ハ家族間ニ於ケル竊盜罪及其未遂罪ハ告訴權者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第二百四十四條第一項後段)
- 親族又ハ家族ニ非サル共犯者ニ付テハ其刑ヲ免除セス及告訴ヲ待タスシテ其罪ヲ論ス(第二百四十四條第二項、舊刑第三百七十七條第二項)
- (一) 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ一月以上五年以下ノ有期懲役ニ處ス(第二百三十六條第一項、舊刑第三百七十八條、第三百七十九條)
- (二) 暴行脅迫ヲ以テ他人ノ財物ニ關シ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ前記(一)同様に刑ニ處ス(第三百三十六條第二項)
- (三) 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ防クタメ又ハ逮捕ヲ免ルルタメ若クハ罪跡ヲ湮滅スルタメ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜犯人同様、一月以上五年以下ノ懲役ヲ以テ之ヲ罰ス(第二百三十八條、舊刑第三百八十二條)
- (四) 人ヲ昏醉セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜同様一月以上五年以下ノ懲役ヲ以テ之ヲ處罰ス(第二百二十九條、舊刑第三百八十三條)
- (五) 強盜人ヲ傷害シタルトキハ無期懲役又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス(第二百四十條前段)

強盜罪

- 段、舊刑第三百八十條)
- (六) 強盜人ヲ傷害シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第二百四十條後段)
- (七) 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期懲役又ハ七年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百四十一條前段、舊刑第三百八十一條)
- (八) 強盜婦女ヲ強姦シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(第二百四十一條後段)
- (九) 以上(一)乃至(七)ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサルモノハ未遂罪トシテ處罰ス(第二百四十三條、舊刑第三百七十五條)
- (十) 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ懲役ニ處ス(第二百三十八條第七十八條)
- (一) 自己ノ所有物ト雖モ他人ノ占有ニ屬スル物又ハ公務所ノ命ニヨリ他人ノ看守シタル物ナルトキハ他人ノ財物ト看做サレ竊盜罪又ハ強盜罪ノ目的物トナル(第二百四十二條、舊刑第三百七十一條)
- (二) 電氣ハ財物ト看做サレ竊盜罪又ハ強盜罪ノ目的物トナル(第二百四十五條)

第三十七章 詐欺罪及恐喝ノ罪

(一) 本章ハ舊刑法第三編第二章第五節(詐欺取財ノ罪及受寄財物ニ關スル罪)中ノ冒認罪及



修正要旨

受寄物費消罪ヲ除去シ背信罪ノ規定ヲ創設シ他ノ條項ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

(一) 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百四十二條、舊刑第三百九十條)

(二) 人ヲ欺罔シ他人ノ財産ニ關シ不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ一月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百四十六條第二項)

(三) 本人ノタメ事務ヲ處理スル者左記三種ノ目的ノ一ヲ達スルタメ其任務ニ背キ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ一月以上五年以下ノ懲役又ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百四十七條)

(1) 自己ノ利益ヲ圖ル目的 (2) 第三者ノ利益ヲ圖ル目的 (3) 本人ニ損害ヲ加フル目的

(四) 未成年者(民法第三條)ノ智慮淺薄ナルニ乘シ又ハ人ノ心神耗弱(民法第十一條)ナルニ乘シ左記三種ノ行爲ノ其一ヲ爲シタルトキハ一月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百四十八條、舊刑第三百九十一條)

(1) 財物ヲ交付セシメタルトキ (2) 財産上不法ノ利益ヲ得タルトキ

(3) 他人ヲシテ財産上ノ不法利益ヲ得セシメタルトキ

(五) 前記(一)乃至(四)ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサルトキハ未遂罪トシテ之ヲ處罰ス(第二百五十條)

詐偽罪

恐喝罪

(一) 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ一月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百四十九條第一項、舊刑第三百九十條)

(二) 人ヲ恐喝シテ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得セシメタル者ハ一月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百四十九條第二項)

(三) 前記(一)及(二)ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサル者ハ未遂罪トシテ之ヲ處罰ス(第二百五十條、舊刑第三百九十七條)

本章共通ノ規定

- (一) 第二百四十二條ノ規定ヲ準用ス
- (二) 第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス
- (三) 第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章 横領ノ罪

修正要旨

本章ハ舊刑法第三百九十三條及同第三百九十五條ノ規定并ニ第三編第二章第三節(遺失物及埋藏物ニ關スル罪)ノ規定ヲ併合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ舊刑法ニ規定セシ受寄物費消罪ハ其目的物ヲ費消スルカ若クハ騙取拐帶スルニ非ラサレハ罪トナラス(唯民法上ノ救済アルノミ)其保護薄弱ナリシヲ以テ新刑法ハ横領ノ行爲ノミヲ以テ罪ヲ成立セシムルコトトナセリ(第二百五十二條)

(一) 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領(他人ノ財物ヲ其用法ニ從テ不法ニ處分スル行爲ナリ)シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五十二條第一項、舊刑第三百九十五條)

種(三)類

- (一) 自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ之ヲ横領シタル者ハ一月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五十二條第二項、舊刑第三百九十六條)
- (二) 業務上ノ關係ヨリ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五十三條、舊刑第二百八十九條)
- (三) 遺失物、漂流物、其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス(第二百五十四條、舊刑第三百八十五條、第三百八十六條)
- (四) 以上(一)乃至(四)ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス(第二百五十五條、舊刑第三百九十八條)

第三十九章 贓物ニ關スル罪

修正要旨

本章ハ舊刑法第三編第二章第六節(贓物ニ關スル罪)ニ些少ノ加除修正ヲ施シタルモノナリ

種(三)類

- (一) 贓物(犯罪ニ依テ得タル他人ノ有體物ニシテ返還ヲ請求セラルヘキモノナリ)ヲ收受シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス(第二五六條第一項、舊刑第三百九十九條)
  - (二) 贓物ノ運搬、寄藏、故買、關係ヲ爲シタル者ハ一月以上十年以下ノ懲役及ヒ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(第二五十六條第二項、舊刑第四百一條)
- 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前記(一)及(二)ノ

刑ノ免除

ヲ犯シタルトキハ其刑ヲ免除ス(第二百五十七條第一項) 但シ親族又ハ家族ニアラサル共犯者ニ對シテハ免除ノ限ニアラス(第二百五十七條第二項)

第四十章 毀棄及隱匿罪

修正要旨

本章ハ舊刑法第三編第二章第十節(家屋物品ヲ毀壞シ及動植物ヲ害スル罪)ノ規定ヲ加除修正シタルモノニシテ其主ナル點ハ(1)官文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ官文書偽造罪ノ章中ヨリ移シ來リタルコト(2)第二百六十二條及第二百六十三條ヲ創設シタルコト是ナリ

文書毀棄罪

- (一) 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五十八條、舊刑第二百二條第二項、第二百三條第二項、第二百五條第二項、第二百七條)
- (二) 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ一月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百五十九條、舊刑第四百二十四條) 本罪ハ告訴アルニアラサレハ其罪ヲ論セス(第二百六十四條) 又本項ノ文書カ差押ヲ受ケ居ルトキハ他人ノ所有ニ屬スル文書ト

同シク之ヲ毀棄スレハ一月以上五年以下ノ懲役ニ處セラレ(第二百六十二條)

建造物

- (一) 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(第二百六十條前段舊刑第四百四十七條第一項)
- (二) 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害罪ノ刑ト比較

又ハ艦  
船毀棄  
罪

シ重ニ從テ處斷ス(第二百六十條後段、舊刑第四百十七條第二項)  
建造物又ハ艦船カ自己ノ所有ニ屬スト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ負擔シ若クハ他人ニ貸  
貸シタルモノナルトキハ他人ノ所有ニ屬スル物ト同様前二項ノ區別ニ從テ處罰ス(第二  
百六十二條)

權利義務ニ關スル他人ノ文書及他人ノ建造物、艦船以外ノ物ヲ損壞シ又ハ傷害シタルト  
キハ目的物ノ種類ト所犯情狀如何ニヨリ左記三種ノ刑ノ中其一ヲ以テ之ヲ處罰ス(第二  
百六十一條、舊刑第四百十八條乃至第四百二十三條)

(1) 一月以上三年以下ノ懲役 (2) 二十圓以上五百圓以下ノ罰金 (3) 科料(第十七條)

(四)  
(三)  
(二)  
(一)  
外ノ毀  
棄罪  
以及

本罪ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第二百六十四條)  
前項犯罪ノ目的物自己ノ所有ニ屬スト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ負擔シ又ハ他人ニ貸  
シタル場合ニ之ヲ損壞又ハ傷害セハ他人所有ノ物ヲ損壞傷害シタル場合ト同シク處罰ス  
(第二百六十二條)

他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ信書ノ種類及損害ノ多少并ニ所犯情狀如何ニヨリ左記四種  
ノ刑ノ中、其一ヲ撰シテ之ヲ處罰ス(第二百六十三條)

- (1) 一月以上六月以下ノ懲役
- (2) 一月以上六月以下ノ禁錮
- (3) 二十圓以上五  
十圓以下ノ罰金
- (4) 科料(第十七條)

附 款

第一節 全節削除ニ屬セシ舊刑法ノ規定

新刑法制定ニ際シ不必要ナリトシ又ハ特別法令ニ規定スルタメ舊刑法ノ規定中、全節ヲ削除セシモ  
ノ左ノ如シ

第二編

第三章

第四節 附加刑ノ執行ヲ通ルル罪

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及所有スル罪

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第四章

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第四節 危害品及健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及藥劑ヲ販賣スル罪

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第九章

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第三編

第一章

第十三節 祖父母、父母ニ對スル罪

